

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」 第 1 巻

はじめに

私は 28 歳のときに特定疾患^{とくていしっかん}を病^やみました。病状は年々酷^{ひど}くなる一方でしたので神仏に救いを求めました。仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの教典を手当たり次第に読み、そして持っていた財産（お金、時間、体力）を、行^{ぎょう}を通して、すべて天地に捧^{ささ}げてきました。そして神仏に祈りました。「この命を捧げ、神仏の手足となって行じますから、どうか病気を治してください」と。しかし、神仏は私が苦しみ泣き叫^{さけ}ぼうとも、黙^{もく}っていて決して願いを叶^{かな}えてはくれませんでした。なぜなら、命を捧げますと言うことと、病気が治り生き続けたい（命を頂きたい）と言うこととは矛盾していたからなのです。神仏は私の心の紋様^{もんよう}を観^みていたのです。

私は病気を抱えながら行を続けているうちに、自分の願いと言うものが薄らいでゆき、次のように考えました。「毎朝 3 時に起きて行っている。これは神仏の加護^{かご}の賜^{たまもの}ではないか。健康な人でもこれだけの行に耐えられるだろうか？ 病気を背負っているものの、何ら健康な人と変わらず行ずることができている。これは病気が治ったも同然である。私よりも具合の悪い人や辛い境遇^{つら きょうぐう}で苦しんでいる人がたくさんいる。神様仏様、私の積んできた徳分^{とくぶん}をこの人たちに捧げます。どうか私の徳分を使って、これらの人たちを幸せにしてください」と。このような心境になったとき、完治したのです。

私は富士山のように徳を高く積むことを目指し、積んだ徳分を自分の病気を治すために使おうとしていたのです。積んだ徳分は自分のためには決して使えないのです。自分のために使おうとしたとき、徳分は我欲^{がよく}によって醜^{みにく}く濁^{にご}ってしまい、もはや徳分ではなくなるからです。

世のため人のためと積んできた徳分は、最後まで世のため人のため(苦しんでいる人を救うため)に使って初めて徳分が活かされる(使える)ことを、身をもって学んできたのです。

私の病気は特定疾患ですから、世界中の名医を回っても治してもらうことはできません。お金をいくら積んでも治せません。徳を積み、この徳分でしか治せないのです。治療方法もない、お金も募金箱等に全部布施してしまっていて持っていない、つまり徳分は私の「命の綱」だったのです。この「命の綱」を人に譲ったとき、命が(病気を治して)頂けたのです。これが、この宇宙を貫き凜として美しく存在する真理と摂理の働きとの最初の強烈な出会いでした。そして、私が「命の綱」を人に譲れる心境になるまで、神仏は黙って観守っているだけで決して手は出さなかったのです。

私が宇宙や大自然から学んできたこと、気付いたことなど、真理と摂理の働きを中心に、冗談話をほんのちょっぴり交え、心の赴くままに綴りました。これを読まれる方々の、天国・喜び・光・温もり・愛・知恵・勇気・希望・平和・調和・秩序・真理の美しく爽やかな世界への虹の掛け橋となることを祈りながら。

2020年3月30日

(著者) 宇都宮 大地

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第1巻 目次

はじめに.....	1
第1章 大自然のリズムに習う.....	7
1 太陽が手本 その1.....	7
2 ノアの箱船（命の綱）.....	8
3 数.....	9
4 方角.....	11
5 食器をお下げしてもよろしいですか？.....	12
6 賞味期限.....	13
7 ドーナツと豚の募金箱.....	14
8 風が手本.....	15
9 天国と地獄.....	17
第2章 あらゆるものが繋がっている.....	24
1 色即是空、空即是色.....	24
2 空.....	25
3 上流県.....	26
4 自分.....	28
5 同行二人.....	29
6 親孝行.....	30
7 先祖供養.....	30
8 不登校.....	32
9 いじめ.....	33
10 太陽が手本 その2.....	34

第 3 章	仏が与えた ^{わら} 藁を受け取る	36
1	自 ^じ 灯 ^{とう} 明 ^{みょう} 、法 ^{ほう} 灯 ^{とう} 明 ^{みょう}	36
2	無 ^む 駄 ^だ	39
3	句 ^く 読 ^{とう} 点 ^{てん} と 5 円玉	42
4	鬼 ^き 怒 ^ぬ 川 ^{がわ} と雲	47
5	ウイルス	50
6	呼吸のリズム	53
7	無 ^む 常 ^{じょう}	53
8	旅人と ^{わら} 藁	54
第 4 章	青虫が虹色の ^{ちょう} 蝶となって大空を舞う	60
1	虹	60
2	色 ^{いろ}	61
3	蝶 ^{ちょう}	61
4	牛乳を川に流すとなぜ汚れるの?	62
5	占い	63
6	コピー その 1	65
7	まんじゅう	66
第 5 章	仏は人生の達人	68
1	手足	68
2	難しい	69
3	麻雀 ^{まーじゃん}	70
4	ゲームの達人	73
5	償 ^{つぐな} い	73
6	日・月・火・水・木・金・土	75

第 6 章	最も弱いものがイエスの化身	78
1	税金	78
2	コピー その 2	79
3	^{ぼんのう} 煩悩	80
4	募金箱	82
5	神仏の声	83
6	修行	85
7	^{けん か} 喧嘩	86
第 7 章	^{えん ま} 閻魔大王の正体	88
1	^{ちゅうどう} 中道	88
2	救いたい	90
3	空き缶を拾う	92
4	1500 円	94
5	趣味の魚釣り	95
6	願い・祈り	98
7	^{てん ち ふ しょ} 天地不書の教典	99
8	閻魔大王	100
第 8 章	真理とは?	102
1	鬼を仏にサタンをサンタに変える	102
2	真理	104
3	^{せ しゅう} 世襲制度	105
4	法を説く	106
5	命を救う	108
6	仏の子	110

7 仏が現れる	111
8 来世 その 1	114
 第 9 章 来世は仏に任せる	118
1 太陽のエネルギーが毒物に変わる	118
2 来世 その 2	123
3 成仏	126
4 地球上の生物	128
5 ご飯が燃える	129
6 病気	133
7 悪い人	134
8 苦労話	137
9 なぜ空き缶を拾っているのですか？	139
 第 10 章 仏が与えた稲穂を受け取る	143
1 ^{こだわ} 拘らないこと	143
2 等価	146
3 本願に出合う	149
4 仏の化身	152
5 色即是空	155
6 空即是色	157
7 仏との対話	159
 あとがき	162

第 1 章

大自然のリズムに習う

1 太陽が手本 その 1

万教の教えの真髓^{しんずい}、人格完成のための大切な要素・心の紋様は、次のとおりであると考えます。「1つのまんじゅうがあつて、友達（弟、妹、ペット）と半分に割って食べようとしたとき、均等に割れず、6対4の大きさになってしまったとします。ほとんどの人は、自分は小さい方を取って、大きい方を友達に譲ると思います」。これが、人格完成のための大切な要素・生き方の真髓なのです。「なんだそんなこと」と言われるかも知れませんが、これは誰も覆^{くつがえ}すことができない真理なのです。人生はこれの応用問題の連続です。つまり、まんじゅうはいろいろなものに姿を変え、次第に実践困難になってくるのです。たとえば、財産（お金、土地・領土、日照権）、仕事、名声（地位、名誉）、健康（献血、労働、電車やバスの座席）、娯楽（テレビのチャンネル）、喜び（飛行機の座席）、功德^{くどく}などに変化します。

常に大きい方、好ましい方、楽な方を人に譲れるかどうか、神仏から問われているのです。

この宇宙には 100 種類ほどの原子（元素）が存在します。どの物質（原子）よりも小さいもの・軽いものは水素です。太陽は物理化学的な現象で見れば、水素原子が核融合^{かくゆうごう}反応を起こす際に発生する膨大な^{ぼうだい}エネルギーによって燃えています。しかし、神仏の目から観^みれば、また別な姿なのです。

太陽は宇宙に存在する物質の中で最も小さく、軽い水素を受け取って、大きく、重い物質は他の星々へ譲ったのです。しかも、受け取った水素をも、ヘリウムへと、より大きな物質に変えながら他の星々へ

譲り続けているのです。

太陽を導く銀河系の中心の神仏が居られ、さらにこの神仏を導く宇宙の主なる神が居られると考えます。銀河系の神仏は太陽の行為を観て微笑み太陽に光を与えたのです。大きく、重い物質を掻き集めてしまった星は、惑う星（惑星）や、ブラックホールにしか成り得ないことを、大宇宙自ら法を説いて示しているのです。大きい方、好ましい方、楽な方、受け取った功德をも人に譲り続けた者は、太陽のように光を発して輝き、神仏から更に輝くエネルギーが注がれます。

もっとも、宇宙には太陽（恒星）と惑星が共存していて、生物が宿り宇宙の秩序が保たれていると言えますが、太陽は我々の理想の姿であると言えます。したがって、太陽のような心の紋様を持った人が、生き方の真髓を習得した人です。

2 ノアの箱船（命の綱）

イエスや神仏たちの贖いの業による救いを求める日が、誰しも必ずやってきます。そのとき、皆様にはノアの箱船が神仏から送られてきます。これは、救命ボートか、飛行機か、防空壕か、食糧か、水か、医薬品か、火（温もり）か、お金か、徳分か、子孫か、それは人によって異なりますが、いずれも命の綱のようなものです。

本当のノアの箱船は目には決して観えないものです。神仏から与えられた目に見えるようなノアの箱船に最初に乗ってはいけません。確かにノアの箱船が送られてくること自体、その方に素晴らしい徳分があることなのですが、ノアの箱船には、まず弱い方から順に乗って頂いて、まだ乗るスペースがあったならば、最後に乗せて頂くのです。もし、自分が乗るスペースがなければ、人に箱船を譲るのです。そのとき、今、自分が立っているところ（境遇・環境）に、本当のノアの

箱船が現れ、決して滅びることのない永遠の命が天から与えられるのです。これも真理です。つまり、救命ボートがノアの箱船ではなく、これを人に譲った者たちが残った、沈んでゆくタイタニックこそが本当のノアの箱船です。

ノアは箱船を譲らず、自ら乗ってしまったため、ノアの子孫である人類は、なかなか本当のノアの箱船に乗れずに苦しんでいるのです。

3 数

多くの日本人は名前の画数に対して、吉数（画）や凶数と言って拘^{こだわ}ります。「4」は死を「9」は苦をイメージすることから、多くの人たちがこれらの数字を嫌っています。病院ではこれらの部屋番号はあまり見掛けません。人は「4」と「9」に邪悪^{じゃあく}な想念を吹き込みこれに捕^とられ、自ら苦しんでいるのです。西洋では「13」を嫌っています。「4+9=13」で、邪悪な想念は繋^{つな}がっているのです。

神仏はどの数字も平等に愛している筈^{はず}です。日曜日の日は4画です。月曜日の月、火曜日の火、水曜日の水、木曜日の木も4画なのです。大自然を構成している、日、月、火、水、木はすべて4画なのです。仏も天も4画、神は9画です。13画=仏+神=愛なのです。すべて必要な数字であって無駄なものはなく嫌われる根拠^{こんきよ}は全く存在しないのです。「4」と「9」を嫌うことは神仏を嫌うことと同じ行為で、これは真理の対極に位置する反真理（不幸・不健康・争い・混乱・絶望に繋がる法則）と言う真理です。大好きな「7」を7回、「3」を3回繰り返せば「49」と「9」になるのです。避^さければ避けるほど「4」と「9」に引き込まれてしまうのです。

現在多くの商品がバーコードで管理されています。日本のバーコードの国番号は「49」で、日本製の商品には「49」が頭に付いているの

です。これは嫌っているものを愛しなさいと言う神仏の意志・メッセージなのです。

人類はこれを使用しては自らの滅亡を招くことになる核ミサイルを多数製造し、互いに相手の主要都市を^{しょうじゅん}照準にして配置してしまいました。つまり世界の至る所に核爆弾（核の恐怖）が存在しています。核実験で、あるいは使われなくなった核爆弾は、自国の領土内で爆発させたり処理したりしなければならないのです。

日本の多くの宗教・宗派も、名前の画数に^{こたわ}拘っています。その人（子）の幸せを願いながら名前を付けているのですから、この点について罪はないと思いますが、やがて嫌われた数字から、しっぺ返しを食うことになるのも事実です。画数に拘っている姿は神仏の目から観れば、世界の平和を願う宗教が、至るところに「画（数）の恐怖」を名前に刻み込み、世にばら^ま蒔いている様子に^{ようす}映るのです。人類の子孫は核と画の恐怖に^{おび}怯えながらも、やがてこれらの恐怖から力強く脱却しなければならないのです。

徐々に画数に拘らないようになるべきです。神仏は子どもに 4 と 9 画の名前を付けなさいと言っているのではありません。どの数字・画数にも拘らないようになりなさいと言っているのです。

子どもは良く「お母さん（お父さん）、どうして私（ぼく）の名前を付けたの？」と聞きます。それに対し「△△宗の^{えら}偉い人に^{えんぎ}縁起の良い画数の字を選んでもらったのよ」。「なんだ。お母さん、お父さんが付けてくれた名前ではないの？」となるよりは「〇〇ちゃんの名前はね、お父さん（お母さん）が愛していた人の名前なの。お母さん（お父さん）も、この名前はとても好きなの。だから〇〇ちゃんに付けたのよ」と言う親子の会話の方が、神仏が微笑み、そして愛に満ちた家庭のあるべき姿です。

4 方角

多くの人々は鬼門、裏鬼門を避け、方角に拘っています。これを占っている人も居ます。自分を中心に物事（方向）を捉えようとするとき、方角が存在するのです。周りの人々から自分の方向を捉えるならば、この中にあらゆる方角が存在し、自分から観た特定の方角は存在しないのです。太陽が地球の周りを回っているのでもなく、太陽は地球にだけ光を注いでいるのでもないのです。地球が太陽の周りを回り、そして太陽は十方^{あまね}遍く光を注いでいるのです。ですから、自分も人の周りを回るよう心がけ、十方に気配りすれば、方角には拘らない筈^{はず}です。

北に救いを求める人がいるから北へ、東に困っている人がいるから東へ、南に私を必要とする人がいるから南へ、西に元気のない人がいるから西へ、海外へ運びたい人がいるから空へ、資源を必要とする人がいるから地下へゆくのです。このように考え行動するなら方角に拘っている暇^{ひま}はないのです。これも真理です。方角に拘っていると、救助も、仕事・出張も、進学・受験も、恋愛も、見舞いも、観光も、帰国・帰宅・帰郷もできません。

そして、互いに自分の利益を求めて行動すれば、人と衝突して思いどおりにならず、どの方角も鬼門になるのは当然です。

法華經^{ほ け きょう}（仏典の1つ）の第7章^{け じょう ゆ ぽん}（化城喩品）に大通智勝仏^{だい とう ち しょう ぶつ}の16人の子どもが仏となって、2人ずつ八方に居られ、（占いで）鬼門と言われる「うしとら＝北東」の方角には釈尊^{しゃく そん}が居られると書かれているのです。もし怖い方角があるならば、神仏を念じながら行動（神仏の願いと合致する行動）をとれば良いのです。

北へ向かって行ったら怪我^{け が}・事故に遭^あったとします。怪我をしたこと自体が不幸なのではなく、怪我をさせた人を恨^{うら}んだり怒ったりする

ことが不幸なことなのです。怪我をすることによって、己の至らなさや介抱^{かいほう}してくれた方々の優しさを知ることができたならば、怪我をしたことは決して不幸な出来事ではない筈です。身に降りかかる現象自体の中に幸・不幸が存在するのではないのです。降りかかる現象を、どのように受け取れる（現象に感謝できる・現象を恨む）かによって、幸・不幸が齎^{もたら}されるのです。これも真理です。

しつこいようですが、方角に拘る者もカレンダーに大安や仏滅を印刷する者も、自身と周囲の者たちを迷いの世界に引き込んでいる反真理的行為者です。したがって、人類は、これらの迷信とは決別すべき時期にきていると考えます。

5 食器をお下げ^さしてもよろしいですか？

レストランで食事をしていると、ウェイトレスが「空^あいている（食べ終わった）食器をお下げしてもよろしいですか？」と聞いてきます。これは、早く帰ってくださいと言うレストラン側の意志表示ではないと思います。レストランはお客さんに優しさを持って接していますから、この言葉も次のような優しさ^{こも}が籠^{こも}っていると受け取ると、心が豊かになります。

① 食器の回転を上げれば、用意しなければならない食器の数も、食器^{しゅうのう}を収納^{たな}する棚やスペース（土地・建物）も少なくてすみずみです。その分浮いたコストをメニューの料金を下げたり、従業員の給料を上げたり、料理の内容を充実させたりする予算に回せるのです。

② 食べ終わった食器はすぐに洗った方が、汚れが落ち安いのので、洗う従業員への配慮もありますし、次回お客さんに綺麗^{きれい}な食器を提供できることにも繋^{つな}がっています。

③ 食べ終わった食器から下げて頂けると、テーブルにできた空間を

利用して地図を広げたり、読書したり、腕相撲^{うでずもう}、いや、指相撲^{ゆび}したりできるのです。

④ このとき、周りに食器がないと、衣服を汚す心配もないのです。

⑤ また、食器を割って、補償問題などのトラブルを起こす心配もなくなります。

⑥ 食べ終わって席を立つときには、テーブルの上には最初に出された水やお茶しか残っていませんので、次のお客さんを待たせることなくスムーズにテーブルに案内できます。

⑦ 食後、退屈^{たいくつ}さを紛^{まぎ}らわせるため、ばーばやじーじたちと一緒^{いっしょ}に、椅子の上で飛び跳ねて遊んでいる子どもや、喧嘩^{けんか}して揉み合っている夫婦を時々見掛けます。そのとき、体勢を崩^{くず}して倒れテーブルの上に手をついたとします。そこに、凶器^{きょうき}になるナイフやフォークや爪楊枝^{つまようじ}が残っていたら大怪我^{おおけが}のもとです。レストランはそこまで考えているのです（多分？）。

何事も、優しさに溢^{あふ}れているのだという思いで観ると、この世は輝いて観えます。

6 賞味期限

牛乳やサラダ、多くの食品には賞味期限が書かれています。多くの方々は、その中で最も新しい（賞味期限の長い）ものを探して買っています。賞味期限の切れているものは別ですが、最も古いものを探して買うのが神仏の姿であり真理的行為です。

賞味期限が過ぎたものは廃棄処分されます。商品の値段は廃棄されるものを考慮（上乘せ）して付けられている筈です。誰もが古いものから手に取って買ってゆくなれば、廃棄される食品はかなり少なくな

ります。食品の命を無駄にしないばかりか、やがては商品の値段の引き下げに繋がるのです。そして誰もが最も新しい商品を手にする時の到来を促してくれます。

新しい食品新しい食品と言って、これを求めるのは、皮肉なことにかえって無駄な商品を産み出し、高くて古いものを買わされる姿を自ら招くことになるのです。なぜなら、これは反真理的行為だからです。

7 ドーナツと豚の募金箱

Aさんが、小学生くらいの女の子さん2人を連れて、ドーナツを20個持って教会へ来られました。そのドーナツを皆で頂きました。2個のドーナツが残り、結局この2個はAさん自ら持ち帰ることになりました。

教会には、困っている方々へ贈るための豚の形をした募金箱が置かれていました。あまりの可愛らしさにAさんのお子さん2人が、これを持って遊んでいたのです。悲しいかな、参拝者が募金箱に布施をして徳を積もうとする行為を妨げていたのです。残った2個のドーナツは、Aさんの徳積みが、2人のお子さんによって人の徳積みを妨げた分だけ神仏から減額された姿を見せていたのです。しかし、相手は子どもです。この募金箱は誰が見ても可愛らしい豚さんだったのです。このことから我々は学ぶべきです。それが我々の心の修行です。何より教会で繰り広げられた光景ですから神仏の意志・教えが必ず含まれている筈なのです。これを観抜くだけの霊眼を身につけたいものです。

ドーナツを持ってきてくれたAさんの愛情は我々が食べ切れないほどの大きさだったのです。今、残った2個のドーナツを深く感謝しながら頂き、Aさんの徳積みを成就させるべきです。Aさんが持ち帰った2個のドーナツは2人のお子さんのおやつとして、今は2人のお腹

の中です。実際には私たちは食べられません。だからイメージの世界で頂くのです。10 人がこのイメージで頂けば、2 個のドーナツは 10 個に増えます。100 人が頂けば 100 個に増え、A さんの徳積みも次第に無限に広がってゆくのです。

また、このように A さんの修行を成就させるお手伝いをした者は、今度は周りの人々から己の修行の成就を手伝ってもらえる因果律^{いんがりつ}という摂理の働きを生み出すことになり、これが人生の苦難に出合ったとき、生きる希望となって絶大な力で味方し働きます。これも真理です。

8 風が手本

気圧の高い（密度の濃い）ところから低いところへ空気が流れ、気圧を等しくしようとする働きによって風が吹^ふきます。乾いた土に水を撒^まけば、水の湿り気は均一になろうとして、湿ったところから乾いたところへ水が浸^しみてゆきます。これが神仏の働き・自然界の法則・摂理の働きです。密度の高いところと低いところの差が非常に広がった状態は、とても不安定（反真理的）な状態であると言えます。このとき、突風や竜巻が起こるのです。富める者（国）と貧しい者（国）との差が非常に開いた不安定な情勢のとき、暴動やクーデター（や戦争）が起こるのも同じ理由・摂理の働きです。

私たちは風が吹くように流れ（行動す）れば、神仏の働き（真理的行為）と一致するのです。つまり、

- ① より貧しい人（国）へお金・水・食糧・医薬品・衣服・学用品を流し、均一（平等）に隈^{くま}無く行き届くようにする。
- ② 片腕がない人の腕になろうとする。足の不自由な人の足になろうとする（手足の機能が平等になるように動く）。
- ③ より血を必要とする人のために献^{けん}血^{けつ}に協力する（血の濃度が均一

になるように動く。誰もが平等に健康を味わえるように動く)。

④ より忙しい人の仕事を手伝う (仕事量が平等になるように動く)。

⑤ 愛されていない人・数字・方角・動物・細菌等の生命体に愛を注ぐ (すべてに愛・光・温もりが平等に行き渡るように動く)。

⑥ 先生から生徒へ知識・技術が流れる。参考になった本を人に貸す (誰もが知識・技術を等しく共有できるように動く)。

これらの真理の実践者には、因果律と言う摂理の働きにより、生活に必要なものが自動的に満たされ、かつ人生で出合う苦難を乗り越える希望が天から与えられます。もしそうでなかったら、真理が真理で摂理が摂理でなくなり調和と秩序が破綻^{はたん}します (以下で述べる鉄の塊^{かたまり}が上昇する現象ですから有り得ません)。

真理と摂理の働きは自然法則とイコールです。鉄の塊を腰の位置まで持ち上げて手を離せば、誰が、地球上のどこで行っても、必ず地面に落下し、この位置が鉄の塊にとって最も安定しているのです。同じように、健康・喜び・財産と言った福德は真理と摂理の働きにより、前述の①～⑥の実践者の元に在るとき、誰もが納得する形で最も安定しているのです。かつそこに留まろうとして動かず永続性が在ります。また、不健康・悲しみ・悩み・貧困と言った苦痛は①～⑥と真逆の反真理的行動をとる者の元に在るとき、誰もが納得する形で最も安定し、そこに留まろうとして動かず永続性が在ります。

したがって、真理と摂理と反真理を正しく認識できれば、幸せに繋がる道が観えてくるのです。

そして、真理の実践者に協力する者は膨大な福德を得、喜びに満ちた世界に住むことになり、反面この方と衝突したり反感を買う言動を取ったりする者は、膨大な悪業^{あくごう}を積むことになって、人生に絶望する未来(来世)が待っていると言う、真理と反真理の存在を知って頂き、

これらのことが浸透したとき、イエスを磔^{はりつけ}にする者、リンカーンやガンジーのような聖人を暗殺する者は、もはや居なくなります。

9 天国と地獄

人は誰もが、喜びに満ち溢れ^{あふ}、そして苦しみ^{あふ}の全く存在しない世界を理想の天国として思い描きます。確かにこのような世界も理想の世界の1つです。大切なことは「誰にとってか？」と言うことです。答えは「(他)^ひ人にと^とって」なのです。自分(や自国)にとってのみの理想的な世界を追い求めても、このような世界は永遠に訪れないのです。もし仮に訪れたとしても、永遠に続くことはなく、かえって大きな反動が待っているものです。

本当の天国の世界は、私たちがその気になりさえすれば、今すぐにも身の周りに現すこともできますし、そして永遠に持続させることも可能です。

では、どのような世界が天国なのか、地獄の世界と比較しながら神仏の目から観た天国の世界を、すでに地上で説かれている物語を織り交ぜ、かつ少しアレンジして、次の4つのたとえ話を通して観てゆきます。

[たとえ話 1]

仏が多く^いの弟子を前^{まへ}にして法を説いていました。1人の弟子が質問しました。「天国とは、また地獄とはどのようなところですか？」と。仏は弟子たちをまず地獄へ連れてゆきました。

地獄では、日に三度の食事が出され、今、朝食時です。直径 3m の球を半分に割ったような鍋の周りに 5 人が座っています。その姿を観ると、体は高さ 1m の椅子^{いす}にシートベルトで縛られ、席から立てない

ようになっています。そして利き腕に 2.5m の長い箸^{はし}を持たされ、その手と箸はロープでしっかりと固定されています。もう一方の腕はロープで椅子に縛られています。料理が鍋の底に置かれました。地獄の食事とは思えないほど美味^{おい}しそうな料理でした。

5 人は料理を箸^{はさ}に挟み口元へ運んで食べようとしますが、箸が長過ぎて口元へ運べず、食べることができませんでした。やがて、許された朝食の時間が終わり鍋の底に残った料理は、すべて片付けられてしまいました。

次に仏は、弟子たちを天国へ連れてゆきました。天国でも丁度朝食時でした。食事の光景は地獄と全く同じでした。

しかし、5 人は料理を箸に挟むと、自分の口元へ運ばず、向かいの人の口元へ運び相手に料理を食べさせているのです。自分の口元へは相手が長い箸で運んで食べさせてくれるのです。互いに五角形の対角線のように、相手に食事を施^{ほどこ}しているのです。これは神仏が微笑む光景で、真理的行為です。やがて、すべての料理を全員で頂き、楽しい食事が終わったのです。

日常生活の中で出会う現象を観ると、お金も、衣服も、食糧も、家も、・・・も、自分で手を伸ばして手に入れているのではなく、実(相)は人から頂いている、人が作って提供してくれているのです。体も腕も縛られていて自由にならない身(環境)でも、人の役に立つ行為は必ず身の周りにある筈です。これを探し実践すれば幸せになれる(天国が現象化する)のです。これも真理です。人を幸せにすることが因果律と言う摂理の働きにより自分の幸せに繋がっているとも言えます。

仏は弟子たちを再び地獄へ連れてゆきました。地獄では昼食時になっていました。食事の仕方は朝食と同じです。2.5m の箸で挟んだ料理を口元に運べず、相変わらず苦勞しています。

そのとき、1 人の心に次のような思いが湧^わき起こりました。「時間を

掛けて考えれば、いつか必ず食べることができる方法を見付けることができる。もし、他の者が自分より早くその方法を見付けてしまっ
てはまずいな。そうだ、邪魔^{じゃま}な皆を殺してしまえば後は慌^{あわ}てないでじっ
くり考えれば良い」と。そして、持っている長い箸で周りの者たちを
刺^さしたり叩^{たた}いたりして殺してしまったのです。

相手を救い、自分を救うことのできる道具である箸が、地獄の魂に
よって殺人の凶器に変わってしまったのです。人に対する愛情^{かけら}の欠片
もない者は、周りの者すべて殺してしまい、決して食べることのでき
ない(救われることのない)環境・状況を自ら作ってしまったのです。

顕著^{けんちよ}な反真理の世界です。

この地球上を1人で独占しようとして他を排除(殺)してしまった
ならば、テレビも映画も見ることにはできません。出演者がいないから
です。電車も車も走りません。これらを製造することも、動かすため
の燃料を集めることも1人ではできないからです。多くの人たち、生
き物たちが地球上に共存しているからこそ、楽しい生活が作り上げら
れるのです。すべての生物は必要があって、この世に存在しているの
です。植物たちがいなければ、動物たちが呼吸できないように。動物
たちがいなければ、植物たちが受粉^{じゅふん}できないように。これも真理です。

[たとえ話 2]

神仏はその人の機根^{きこん}(心の発達程度)に応じて法を説かれます(対
機説法^{きせっぽう}と言います)。1人の弟子が「天国とは、また地獄とはどのよう
なところですか?」と仏に尋ね^{たず}ねました。仏は弟子たちをBさん、Cさ
ん、2軒並んだ家の前に連れてゆきました。

Bさん宅では夫婦、親子、兄弟喧嘩^{げんか}が絶えませんでした。一方、C
さん宅では笑いが絶えませんでした。Bさん宅で喧嘩が起こったとき、
Cさん宅から笑い声が聞こえてきました。Bさんは、どうしてCさん

宅ではいつも笑いが絶えないのかを知りたくて C さん宅を訪ねました。

B 家は喧嘩が絶えないのに、C さん宅ではどうしていつも笑いが絶えないのですか？

C B さん、あなたのお宅は善人ばかりなのですね。自分は正しい、相手が間違っている、こう考えているから衝突して喧嘩になるのです。家は悪人ばかり集まっているのです。だから、もしかしたら自分の方が間違っていて相手が正しいのではないか。相手の意見はもっともだ、納得できる。私の方から謝ろう。私の間違いを教えてくれてありがたい。家ではお互いこう考えているから衝突しないのです。自分は善人で正しいと、あくまで主張してはいけません。善とか悪とかを自分の物差しのみで計ることは危険なのです。

次に私は弟子たちを贈収賄事件の裁判が開かれている 2 つの法廷へ連れてゆきました。

1 つ目の法廷です。D は収賄者、E は贈賄者です。

D 私は E さんに商品券を要求したことは一度もありません。E さんが勝手に贈りつけてきたのです。むしろ、私はこう言うことは困ると何度も E さんに抗議したのです。しかし E さんは、今までの課長も受け取ってくれたからと言って、私の抗議を聞いてはくれなかったのです。

接待を受けたことも、前任者の慣例にしたがっただけです。以前は黙認されていたことが、今になってなぜ私が逮捕されなければならないのですか。もっと悪い人が世の中にはたくさん居るじゃないですか。E さんに便宜を図ったことは一度もありません。だから、このことによって誰にも迷惑は掛けていません。悪いのは E さんです。私は全く

悪くありません。私はむしろ被害者です。

E Dさんは我が社が許可申請をしている計画の審査権限を握^{にぎ}っている部局の中心的な方でした。私は会社の上層部から、何としても2号店の許可を取り付けるよう命じられていました。不許可になれば、会社には置いてもらえない、そんな会社からの圧力を感じていました。何としてもできるだけ早く許可を得たいと思い、Dさんに10万円単位で六度商品券を贈りました。確かに最初は、受け取れないと言ってきました。しかしこれはあくまでも儀礼^{ぎれいてき}的であったと感じました。ぜひ受け取ってくださいと言ったら、黙って受け取ってくれました。

私はこの時点で、許可がスムーズに下りるものと思っていました。しかしなかなか許可が下りないのには困りました。そこでさらに二度商品券を贈りました。そしてやっと許可が下りました。

2号店が完成して、今度はDさんの完了検査を受けることになりました。完了検査にパスして初めて営業することが許されるのです。私も自分の身を守るために必死でした。検査直前に一度商品券を贈り、検査終了後には〇〇でDさんをもてなし、さらにこの時に商品券を渡しました。店がオープンした際にDさんを訪ね、お礼^{あいさつ}の挨拶を込めて商品券を渡しました。

完了検査の直前頃からだったと思いますが、Dさんは次第に手ぶらでは快^{こころよ}く応対してくれなくなりました。その態度から、賄賂^{わいろ}を求めていることが明らかに見てとることができました。

私はすべて会社のためにやったことです。私は全く悪くありません。私にプレッシャーを掛けて命じてきた会社と、次第に見返りを求めるようになったDさんが悪いのです。

2つ目の法廷です。Fは収賄者、Gは贈賄者です。

F 私は当時、家のローンと子どもの養育費に追われていました。だ

からお金はとても必要でした。そんなとき、Gさんから10万円の商品券が贈られてきたのです。一度は返そうとしました。しかし、Gさんから、前の課長も受け取っていたと聞かされ、誘惑^{ゆうわく}に負けて受け取りました。

二度三度と商品券を受け取っているうちに、罪の意識が徐々に薄らいでゆきました。暗に賄賂を求めているのは事実です。Gさんの判断のみで私に商品券を贈っていたのではないようです。会社からの圧力は相当強かったようです。何しろ首をちらつかされていたようですから。そこに私がつけ込んだのです。

Gさんは気の毒な方です。悪いのは私です。Gさんの罪は私が背負いますから、Gさんの罪はできるだけ軽くしてください。私は罰^{ばつ}を受けることによって国民に深くお詫^わびし、公務員の信用を失墜^{しつたい}させた罪を償^{つぐな}います。そして人生をやり直します。

G 確かに許可をできるだけ早く取り付けるよう会社からの指示がありました。しかし私にも、ここで同僚^{どうりょう}を引き離したいと言う強い出世欲がありました。私はこの欲に負けたのです。私が贈った商品券をFさんは返そうとしたのです。これを受け取ってもらわないと、私の首が危ないと言って、無理に受け取ってもらったのです。

Fさんは私の首を心配して受け取ったのです。Fさんは良い人です。Fさんに罪はありません。すべて私の罪ですから、Fさんを罰^いするのは止^やめてください。

この2つの法廷のいずれの光景が天国で、いずれが地獄かは明らかです。自分は正しい、決して間違っていないと言って、人を責めていれば地獄が現象化するのです。反真理的行為^{まね}が招く反真理の世界です。

一方、自分の罪を認識し、これを反省して心を浄めることに努め、なおかつ、人を思いやる心が自分も周りの人をも天国へ導くのです。

真理的行為によって 齎^{もたら}される真理の世界です。

[たとえ話 3]

1 人の弟子が「天国とは、また地獄とはどのようなところですか？」と仏に尋ねました。仏は弟子たちを光り輝く城へ連れてゆきました。

そこは、美しい花々が咲き乱れ、芳^{かぐわ}しい香りと、清らかな音楽が流れる光の世界でした。仏は「ここが天国である」と言われました。すると、弟子は「天国の住人はどこに居られるのですか。私には姿が見えませんが」と問います。これに仏は次のように答えました。「神・仏・天使・菩薩は、すべてのものが悟りの境地（安^{やす}らかな心境）に達するまで、天国で休むことはないのです。苦しんでいるものが居るにも拘^からず、この地で休もうとしたとき、花は枯^かれ、悪臭が立ち込め、騒音の世界と化し、ここはもう天国の光景ではなく反真理の世界（地獄）となるのです」と。

[たとえ話 4]

1 人の弟子が「天国とは、また地獄とはどのようなところですか？」と仏に尋ねました。仏は次のように答えました。

「天国も地獄も皆さんの心の中に在るのです。心が作り出す光景の中に天国と地獄が在るのです。自身の心の汚れを認識し、それを浄めるために行じている者たちが集まる道場が天国であり、その修行の姿そのものが天国の光景で、その心の紋^{もんよう}様の中に天国が存在するのです」。これも真理です。

第 2 章

あらゆるものが繋^{つな}がっている

1 色^{しき}即^{そく}是^ぜ空^{くう}、空^{くう}即^{そく}是^ぜ色^{しき}

般若心経^{はんにゃしんぎょう}の中に「色即是空、空即是色」と書かれている釈尊の教えの奥義^{おうぎ}があります。色^{しき}とは宇宙に存在するすべてのもの・すべての現象を意味します。空^{くう}は無と同じ、つまり空^{くう}っぽ^むと言う意味です。したがって「色即是空、空即是色」とは、存在するすべてのもの・現象は無に帰^きり（本来・実相^{じっそう}は無である）、無からすべてのもの・現象が生み出されると言うことを説いているのです。私なりに解釈すると、次のようになります。

物質の広がり・大きさと言う点について、この宇宙の姿を観ると、無限大→宇宙→銀河系→太陽系→地球→人・動物・植物・鉱物・水・空気→分子→原子→核・電子→素粒子→・・・→極微^{ごくび}となります。

このように、宇宙には無限大の広がりの世界（実相）から素粒子などの極微の世界が存在します。「広がり」を「美しさ」「心地よさ」「幸せ」「財産」「健康」と置き換えても良いと思います。

人類は、限りなく広がる宇宙の姿を捉えようと、英知を結集し、物理化学的な方法を駆使^{くし}して、探査衛星を打ち上げたり、天体望遠鏡で観察したりしています。同様に、どこまでも限りなく小さな物質の世界を捉えようとして、原子同士を衝突させる施設を作って観察しています。無限大の宇宙の姿を捉えるのと、極微の世界を捉える難易度・知恵・エネルギーは等価^{とうか}なのです。つまり、無限大の世界が明らかにされたとき、その技術と知恵をもってすれば、極微の世界も解明され

るのです。太陽系の実相を理解する知恵・努力も、地球や人や動物や植物の実相を理解する難易度もすべて等価です。

この観点から「色即是空、空即是色」を捉えてゆきます。般若心経は「神仏の知恵・心の紋様」を説いた教えですから、心の紋様はどうあるべきかを考えることにします。

色は心の中に生じるあらゆる紋様を意味します。つまり、こちらの方が美味しそうだ、不味^{まず}そうだ、大きい、小さい、楽しい、つまらない、美しい、醜^{みにく}い、好きだ、嫌いだ、幸せだ、不幸だ、良い、悪い……です。釈尊はすべての現象は等価であるから無になりなさい・捕^とらわれてはならない・比較してはならない、と説いているのです。頭の良い人は慢^{まん}心^{しん}を抑^{おさ}える（我慢^{がまん}する）修行が掛^かかっているのです。誰もが必ず平等に修行が掛^かかっているのが実相なのです。ですから、私は色^{しき}を物差しと訳^{やく}します。すべてのもの・現象に物差しを持たないわけですから、楽しい、つまらない、良い、悪い、の感情は生じないことになります。これが「色即是空」です。この境地に達すると、あらゆる人の価値基準の物差しを持つことができます。つまり、自分の価値基準と言う物差しを捨てたとき、周りの人（もの）たちの価値基準（大人、子ども、男、女、白人、黒人、黄色人、ユダヤ教徒、キリスト教徒、仏教徒、イスラム教徒、無神論者、財産を持った人、貧しい人、健康な人、病弱な人、背の高い人、低い人、美しい人、そうでもない人、……、動物たち、植物たち……）に寄り添って・考慮して行動することができる・あらゆる価値基準^{はか}を量^{はか}ることのできる釈尊の物差しを手にすることができます。これが「空即是色」です。

2 空^{くう}

空について考えてゆきます。人間には様々な煩悩^{ぼんのう}があります。食欲、

性欲、財産欲、睡眠欲^{すいみん}、名誉欲・・・・などです。これは人間の存在・生きてゆく上で欠かせない要素でもあります。これを空っぽにすることは不可能ですし、すべきでもありません。釈尊はこれらの欲に捕らわれてはならないと言っているのです。しかし、欲に捕らわれない心に整える修行を成就することは非常に困難です。そこで私は心を1つの色で染め、この心で満たすことにしています。物差しを捨てることは、あらゆる物差しで心を満たすことと同じです^{イコール}。これを応用したのです。

では、どのような心の色で染めるか？ 「人を救いたい＝人の役に立ちたい」と言う心の紋様で満たせば、他の思いが心に入り込む隙間^{すきま}がありませんから、迷いがなくなり、欲に捕らわれない心になります（なかなか成就できませんけど）。（1つの色で）満たすことによって、空っぽになる、つまり「空即是色、色即是空」もまた真理です。

3 上流県

大地に降った雨は、河川に集まり海に注いでゆきます。河川の水は、海に辿^{たど}り着くまで様々な形で利用されています。たとえば飲料水、工業用水、農業用水、生活用水（炊事・洗濯・風呂・トイレなど）に。洗濯機に注いだ水、風呂に汲んだ水、トイレの水、蛇口^{じゃぐち}から出てくる最初の水は飲めるほど綺麗^{きれい}ですが、洗濯後の排水や、お風呂場で石鹸^{せっけん}を使って体を洗った水は、体や衣服の汚れと石鹸の泡を含んだ水となって、直接飲むことができないほど汚れてしまっています。でき上がった商品を洗った水も、商品に付着していた汚れを含んだ水に変わってしまいます。水田に入ってきた水も、出るときには水田に撒^まかれた農薬を含んだ水に変わって出てゆきます。このように、水は使われれば必ず元の状態よりも汚れて排出されるのです。汚れた水は河川に集ま

り、海を目指して更に下流へ流れてゆきます。

栃木県は北に日光連山や那須連山が聳えているため、県内の河川の大部分は、概ね北から南へ、そして西から東へ流れます。山々に遮蔽されているため、北側の福島県から流入してくる生活排水はほとんどありません。栃木県は河川の水源（最上流側）で、最も綺麗な状態で水を使わせて頂いていると言えます。

栃木県が使って汚した水を、埼玉県や茨城県や群馬県が、お金を掛けて飲めるまで綺麗に浄化してから使っているのです。浄化のための費用は、埼玉県民と茨城県民と群馬県民が水道料金として負担しており、栃木県民にその請求はきていません。さらに東京都は、栃木県や群馬県や埼玉県や茨城県が使って汚した水を、お金を掛けて浄化してから使っているのです。我々栃木県民が汚した水を、下流の都県がお金を掛けて浄化していることを知らなければなりません。栃木県は上流県として、できるだけ綺麗な水を下流の都県に繋いでゆく責任があるのです。上流の時点ですでに汚れていては、下流の汚れは更に酷くなるのです。自分が排出したその地点は下流の住民から観れば上流なのです。

海は世界中に繋がっており、また生息している様々な魚介類は、やがて我々の口に運ばれてくるものです。誰もが常に上流県だと言う認識を持つことが大切です。

JR 宇都宮駅前に田川に掛かる「宮の橋」があります。橋が改修される前、ここに「宇都宮市民の心を映す田川かな」と言う看板が掲げられていました。市民の心が清らかであれば、川にごみを捨てる人はいないから川も澄んでくる。市民の心が濁ってくると、ごみを捨てる人が現れて、次第に川も濁ってくると言うのです。川や湖や海の水質は、人々の心を映す鏡のようなものです。これも真理です。

上流が清らかでなければ、下流が清らかさを維持することは困難で

す。両親の心の紋様は必ず子ども・子孫（下流）へ流れます。先生の心の紋様が生徒へ流れ、先輩から後輩へ、上司から部下へ、妻から夫へ、飼い主からペットへ流れ、ついには世界中に流れてゆきます。そして、やがて自分のところ（口元）へ戻ってくるのです。これも真理と因果律と言う摂理の働きです。

自分の下流には必ず人がいます。人生の上でも、自分は責任ある上流県なのだという認識を持ちたいものです。

4 自分

自分はどこからきて、どこへゆこう（帰ろう）としているのか。自分はどのように生まれてきたのか。この世で何をすべきなのか。自分は今どのように生きているのか。全体の中の自分のあるべき姿は何かなど、自分と言うものを、^{ぎょう}行を通じながら、神仏（真理）の目をもって捉えることも、時に必要ではないかと思います。

自分の肉体から外の世界に目を向けてゆきます。着ている服がなければ寒さで凍^{こご}えてしまい命を保つことはできません。空気・水・適当な気温・オゾン層がなければ、命を保つことはできません。太陽がなければ、地球上のいかなる生物も存在できません。銀河系の中心からの引力がなければ、太陽も地球もどこかへ飛んで行ってしまいます。銀河系を包み込む空間（宇宙）がなければ、太陽も地球も存在できません。自分と言うものは、自分が健全であるだけでは、これを保持できないのです。自分の外側の世界、環境も健全でなければならないのです。

このようなことを人間関係等の世界に目を移して観ますと、妻・夫・子・孫・親・兄弟姉妹・友人・親類縁者・ペット・・・・・・・・が不幸であっては、自分も幸せ（健全な心）を保つことはできないのです。

次第に外側に向かってゆきます。兄弟姉妹の妻・夫・子・友人・ペットが不幸であっては、兄弟姉妹は幸せではないのです。友人の妻・夫・子・友人・ペットが不幸であっては、友人は幸せではないのです。ペットの彼女・彼・友・ペット（たとえば、飼い主？）が不幸であっては、ペットは幸せではないのです。次第に世界中の人たちに繋がってゆきます。自分の外側の人たちが幸せでなければ、本当の意味で自分の幸せを保つことはできないのです。周りの車が交通安全を守ってくれなければ、自分の車の安全（＝命）は保てないのと同じです。

つまり、自分とは、自分+環境であると言えます。環境とは、自分以外のすべてを含んでいますから、自分はイコール全宇宙であると観ることができます。全宇宙（すべての生物とそれを育む環境）が健全であって、初めて自分も健全で居られるのです。これも真理です。

5 どうぎょう に 同行二人

四国巡礼のお遍路さんは「同行二人」と書かれた、装束、杖、傘を身につけています。これは、修行はいつも仏（弘法大師空海）と一緒に、仏が守り・導いてくれていると言う修行の姿を表しています。

夫婦、親子、兄弟姉妹、上司と部下、先生と生徒、職場の同僚、友人、ペットたちと、人間社会、至るところ同行二人です。暗い夜道を歩くとき（人生を生きる時）、自分の持っている懐中電灯で相手の足下を照らし、相手の懐中電灯が自分の足下を照らしてくれると言うように、互いに相手の足下を照らして歩く姿が、同行二人の理想（真理）の姿であると思います。懐中電灯とは、知恵・愛・信頼・お金・食物・技術・学問・力・・・・・・・・です。

懐中電灯はやがて、電池が切れれば消えてしまいます。充電を怠らないように精進しなければなりません。

6 親孝行

両親の喜ぶこと、望むことをすることも、立派な親孝行です。子どもの行いが世間から評価され、その褒め言葉が親の耳に入るのも親孝行です。様々な親孝行の形があり、どれが一番であると決めることはできませんが、親の願いは子どもが幸せになることです。したがって子どもが世界で一番幸せになれば、親も世界一幸せな気持ちを共に味わえるのです。「お父さんお母さん、私を産んでくれてありがとう。私はとても幸せです」。この言葉は何よりの親孝行なのです。自分が幸せになることは、最大級の親孝行で真理です。

両親が幸せになれば、この姿を観て、両親の両親（祖父母）も幸せになります。次々に先祖は幸せになってゆきます（成仏します）。

ここで、幸せについて考えます。これを間違えると、真の親孝行にならないからです。自分だけが莫大な財産を築き、贅沢な生活を送ることが真の幸せではありません。これは、神仏の願い（真理）とは合致しないからです。そして、物質的な豊かさは、むしろ精神的な豊かさを阻害する反真理的生活・人生となることが多いからです。たとえば2号さんを作るなど。だから幸せとは精神的な豊かさ（幸せ）を意味します。

喜びをもって・幸せな気持ちで、人の喜ぶことを、自然に（力まず、負担に感ずることなく）できるようになった人が本当に幸せな人です。このような人が、真の親孝行者で真理的行為者です。

7 先祖供養

先祖供養について、もう少し考えてゆきます。先祖に感謝しながら

霊前に手を合わせる、墓参りをする、先祖に感謝しながら行うことはすべて先祖供養になります。人類は、微生物→プランクトン→無脊椎動物→脊椎動物（→魚類）→両生類→哺乳類（→人）と進化してきました。ですから先祖とは、地球上のすべての生物（既に絶滅しているものを含む）です。すべての生物に感謝すること・感謝しながら行うことは、すべて先祖供養になり、このような行は、人のためになることを行えば行うほど先祖供養になると言う真理へ繋がってゆきます。

その理由は次のとおりです。

私たちが、学校を出て社会人となって働くまで、親が生活費の大部分を作り、養ってくれています。このお金は、世間から頂いたお金です。もし私が居なければ、これを必要とする他の人へ流れ使われた大切なお金です。私が世のため人のため、善行を行えば行うほど、私の養育に費やされたお金は無駄ではなく、むしろ光り輝いてきます。真理です。

逆に、私が悪業を重ねれば重ねるほど、私の養育に費やされたお金は無駄となり、両親がお金を工面した行為は、世間の大切なお金を奪い取った行為と同じものになってしまいます。反真理です。

私の養育費を作るためには、親は自分の好きなことをすることを（着たい服も、食べたいものも、旅行すること、2号さんを作ること）我慢してきた筈です。この我慢は、立派な修行に当たるのです。私が善行を行うほど、両親の我慢の修行も光り輝いてきます。真理です。同様に両親を育てるため、祖父母も我慢の修行を積んできた筈です。私が善行を行うほど、両親を通して、祖父母（先祖）の我慢の修行も光り輝いてきます。人（両親・先祖）は（我慢の）修行をすればするほど神仏に近づきます（成仏します）。このような理由で、善行もまた立派な先祖供養になるのです。

8 不登校

近年不登校の生徒数が増加して大きな社会問題となっています。当事者の親子、先生方などの関係者の心労はいかばかりかと存じます。しかし、人は誰でも、心を磨くための課題を背負って生まれ、生きているのです。夫婦間の問題、病気や身体的な悩み、財産（借金）、結婚、不妊、人間関係の問題などです。与えられた課題・問題を乗り越えて神仏の世界（実相・真理）を自在に観る目（知恵）を身につけるのです。「辛」いと思える境遇・環境であっても、その上にもう「一」つ課題を背負って乗り越えた時に「幸」せと言う文字が現れてくるのです。そして、現象・試練の中に課題解決の糸口・答えが、ちゃんと用意されているのです。神仏の優しさです。

不登校は、気持ちが家庭に向いていて、外に向かっていない姿です。子どもは親の姿・背中を観て育つのです。親の気持ち・愛・優しさが家庭に向かっていて、外に向いていない姿であると子どもが教えているのです。この姿は神仏の思い・願い・姿・真理に反するから悩みとなって現象化したのです。

親や先生の気持ちをもっと外に向けるべきです。つまり、愛情を外に向けなさいと神仏は言っているのです。自分の子・クラスを愛するように他の子・クラスを愛するべきです。外とは、必ずしも学校だけを指しているわけではありません。会社や地域の自治会、子ども会でも、自分の家庭の外の世界であればどこでも良いのです。すべて繋がっているのです。できる範囲で・力まず・負担に感ずることなく自然体で、気持ち・愛・優しさを外に向け続けていれば、必ず子どもの気持ちは外に向かってゆきます。やがて摂理の働きにより登校するようになります。慌てないことです。時間は無限に有ると考えた方が良いです。何事も「今世駄目なら来世頑張れば良いんじゃないの」くらいに。

9 いじめ

高校野球は、文科省^{すいしやう}推奨のもとに全試合がテレビで放送されています。多くの人々に感動を呼び起こすからです。しかし、関係者の方々には大変失礼な言い方になるかと思いますが、これが教育的番組と言う観点から放送されていると言う重大さを考慮して、あえて言わせて頂きます。神仏の目から観れば、この試合は善半分、悪半分なのです。

高校野球は、現代の学校教育と社会の問題点・いじめの元凶^{げんきやう}・姿を映し出しているのです。

デッドボールを受けたバッターに、投手も1塁手も帽子^{ぼうし}を脱いで頭を下げます。優勝したチームよりも準優勝チームに対する拍手^{はくしゅ}の方が大きい。これらは、神仏の姿・善・真理的行為です。

しかし、相手チームがトンネルなどのエラーをすると、応援団も含め大喜びです。押し出しで得点が加算されるときも大喜びです。勝つことに心を奪われ、何球目にスクイズするか、相手と腹の探り合い・^{だま}騙し合いです。勝つためには強打者^{けいえん}を敬遠して、自分の都合の良い打者を選び・判断（ラベル付け）し勝負しています。これらは、勝利の女神が目を背けたくなる、幸せが遠のく反真理的行為や考え方で、社会・学校・家庭生活の秩序^{そむ}を滅茶苦茶^{め ちゃ く ちゃ}に破壊する元凶です。

教育の最大の問題点は負けることの価値を全然説いていない・観えていない・理解されていないことにあります。ビリの人がいるから他の100人、1000人、1万人が救われるのです。「敗者は、勝者とその家族や友人たち等多くの者たちに生きる希望を与え、かつ世の中に平和と調和と秩序を生み出す功労者である」。これは何人も覆すことができない真理です。一方「高慢^{こうまん}な勝者は、平和と調和と秩序を滅茶苦茶に破壊する反真理的行為者です」。

人のエラー、失敗を喜んではいけません。オリンピックと言う崇高な舞台でも、バレーボールの試合で、相手のサーブ・ミスを手を叩いて喜んでいきます。これは神仏の姿ではありません。人の失敗を喜べば、自分が失敗したときも必ず喜ばれるのです。これは因果応報、宇宙の摂理です。野球のエラーやバレーのサーブ・ミスをしたときだけ喜ばれるのではないのです。社会、地域、学校、あらゆるところで、人の失敗を喜び、そして自分も失敗したとき喜ばれることになるのです。深刻な問題です。このような社会・学校は誰の目にも明らかに不幸な反真理の世界・光景です。

人の失敗を決して笑わない・喜ばない社会・学校・家庭となり、そしてすべてのスポーツにおいて、味方あるいは相手がミスをした光景に出合ったとき、互いに・全員で「ドンマイ」と声を掛け合う光景に変われば、勝利の女神が微笑み、社会や学校でのいじめ問題は必ず解決します。なぜなら、この光景は真理の世界だからです。

10 太陽が手本・その 2

神仏の目で観れば、太陽は無上・無償の愛によって燃えて光を発し、この光を地球に注いでいるのです。地球から感謝が帰ってこようともまいと関係ないのです。ひたすら、光を地球に注ぎ続けたのです。数億年が経過しました。気の遠くなるような年月です。やっと、生命が誕生したのです。シアノバクテリア、植物プランクトンの一種です。数ミクロンのとても小さい生命体ですから顕微鏡で拡大しない限り見ることはできません。このバクテリアが酸素を作り、大気・オゾン層を形成させ、様々な生物が海に溢れ、進化しながらやがて生物が陸地を覆うまでに繁栄する地球が齎されたのです。

先生も生徒に対して、このように接して欲しいのです。中には、言

葉を尽くしても言うことを聞いてくれない生徒もいます。辛いことでしょう。でも、諦^{あきら}めず、太陽のように辛抱^{しんぼう}強く愛情を生徒に注ぎ続けて欲しいのです。生徒から、感謝や変化がなくとも。

太陽（神仏）ですら、生命を宿すのに数億年掛かったのです。この生命体はわずか数ミクロンの小さなものです。この生命体の仏性^{ぶつしょう}（神性^{しん}なる心のダイヤ）は、さらに小さいはずです。自分の任期が終われば、次の先生（中学校、高校、予備校、大学、社会）や、後ろに控^{うし}えて、世の秩序を守り、暗闇^{くらやみ}に輝く希望の光を注いでくださっている、頼もしい警察官・裁判官・刑務官に、安心して生徒を委^{ゆだ}ねれば良いと思います。

やがて摂理の働きによって必ず生徒の仏性は輝き始めます。そうなれば、この地球上があつと言う間に生命体で溢れたように、仏性の開いた生徒で溢れる学校・社会・家庭になります。太陽が法を説いて示しているのです。間違いのない真理なのです。

地球上の生物で太陽に感謝しないものはいないのです。今、太陽は地球上の生物からの感謝を受けて更に輝いて、愛情を地球に注いでいるのです。

したがって、太陽のように愛を注いだ先生や刑務官に対しても、摂理の働きによりすべての生徒、父兄^{ふけい}が、感謝するようになるのです。この感謝のエネルギーによって、先生や刑務官は、更に輝き、愛情を注ぎ続けることができるようになるのです。このような先生や刑務官は、神仏・真理的行為者です。

第 3 章

仏が与えた薫^{わら}を受け取る

1 自灯明^{じとうみょう}、法灯明^{ほうとうみょう}

釈尊が説かれた教えの中に「自灯明、法灯明」と言う言葉があります。自は自分・己です。法は真理です。ですから「自分を灯明（^よ 抛りどころ）とし、真理を灯明としなさい」と言う意味です。

私はこの言葉を初めて耳にしたとき、法灯明の方は何となく理解できたのですが、自灯明の方はどこか釈然としないものを感じたことを記憶しています。なぜなら釈尊が説いている、自分に執着^{しゅうちやく}しない・自分の欲に捕らわれないと言う教えと、自灯明（自分を抛りどころとすること）はどこか矛盾するものを感じたからです。しかし、この言葉の意味を次のような手順を追って理解することによって、初めて心に沁^しみる教えとして捉えることができました。

この言葉が発せられた背景を知らなければ、意味を理解することは困難だと思います。この言葉は、釈尊が間もなく入滅^{にゅうめつ}（^ね 涅槃）されるときに弟子の阿難^{あなん}に説かれたのです。阿難は釈尊に導かれ、釈尊を灯明・手本として修行・精進しながら生きてきたのです。ですから阿難にとって、法・真理もまたイコール釈尊その人だったのです。この状況で釈尊が入滅されるということは、阿難にとって灯明も手本も法もすべてが失われることになり、修行も生きる術^{すべ}も見失って、阿難が迷いの世界に落ちてしまう姿が、釈尊には容易に想像することができたのではないかと思います。

この言葉は、このような阿難を何としても救いたいと言う優しさから発せられたのです。

ですから、この言葉は「死んでゆく私に執着し・捕らわれてはなら

ない。人はいつかは死ぬのです。私が死んでも説いてきた教え（法・真理）は決して死ぬことはないのです。私（他）を拠りどころとしてはなりません。あくまでも、説いてきた法を拠りどころとして、^{おこた}怠らず精進しながら生きてください」と言いたかったのではないかと思います。自灯明とは「怠らず精進しながら生きる姿」を意味していると思います。

「自灯明」についてもう少し考えてゆきます。

鉄棒の逆上がりを見ているだけでは、できるようになりません。自ら実践していないからです。自転車に乗れるようになるためには、何度も自分で練習しなければならないように、『「できますように」と百万遍^{べんとな}唱え願い、あるいはイメージしても1回の実践には及ばない』と言う真理が存在しているからです。神仏が評価するのは「^{かつとう}葛藤しながらも思いに^{とど}留めているのではなく真理を実践したかどうか」です。そしてマイナス評価は「葛藤しながらも思いに留めたのではなく反真理を実行してしまったかどうか」です。

また「自灯明」とは、自ら明かりを灯すと書きます。キリスト教では、ろうソクのように自分の身を^す擦り減らしながら周りに明かりを灯すような自己犠牲の姿を人としての理想としています。

これらのことを踏まえて、私は「自灯明、法灯明」を次のように解しました。

「^{ひと}他人が、やるべきことをやっているかどうか。他人が、やってはいけないことをしてはいないか。これを問うてはならない。自分は法に照らして、やるべきことを怠らず、実践しているかどうか。自分はやってはいけないことをしてはいないか。これを問うべきである」と言う真理。このように理解して、初めて「自灯明」が心にすんと落ちたのです。これに説明を加えます。

夏の非常に暑いとき、Hさんが、大変尊敬している寺院・教会の幹部Iさんが、自宅で、ミッキー&ミニー（マウス）の図柄の下着姿で霊前・神前で供養（^{くよう}or お祈り）をあげている、微笑ましい光景を見てしまったとします。幹部のIさんは、修行をととてもされており、願い事もたくさん叶（^{かな}）っている人でしたから、Hさんにとって、Iさんは憧（^{あこが}）れのような人生を歩んでいる方でした。そんなIさんの下着姿の供養を見てしまったHさんが「暑いときは、下着姿で供養をあげても、仏・神は供養による功德を減額することなく願い事を叶えてくれるのだ」と思ったとします。「自灯明、法灯明」は、このような見方を戒めているのです。

HさんはIさんを信頼することは良いと思いますが、Iさんに捕らわれ、Iさんを法・真理そのものであるがごとく抛りどころとしてはならないのです。なぜなら、下着姿で供養することに善悪が存在しているのではなく、それを行っているIさんの心の紋様の中に善悪（天国と地獄、真理と反真理）があり、これをHさんが窺（^{うかが}）い知ることにはできないからです。

供養できることに感謝の気持ちを表したいと考え、暑くとも上着を着たまま我慢するのも良いでしょう。暑いのを我慢して、もし倒れでもしたら多くの人に迷惑が掛かる、だから涼（^{すず}）しいお気に入りの下着姿で供養させて頂こう。こう考えても許されると思います。

また、Hさんに誤解を抱かせる姿を見せたことは幹部としてIさんのマイナス点だったかも知れませんが、この現象を通して、Hさんに気付くことがあれば、このマイナスはプラスに転換すると思います。現象自体に善悪はないのです。

したがって「法灯明」は、現象に捕らわれてはならない、あくまでも法に照らして判断しなさいと言う真理を教えていると解しています。

2 無駄

この世に存在するすべてのもの、現象は、理由があって存在しており、無駄なものはありません。無駄にしているとすれば、そこに内在している本質を活かし切っていないか、身に降り掛かる・見聞きする現象から学び取ることをしていないからです。

このことについて、日常何気なく見過ごしているのではないかと思われる、いくつかの事例を題材にご説明します。

[事例 1]

Jさんが廊下^{ろう か}の雑巾^{ぞうきん}掛けを終えたとき、バケツを引っ繰り返してしまい、廊下が水浸しになってしまったため、雑巾掛けをやり直さなくてはならなくなったとします。無駄な作業が増えた、時間を無駄にしまったと思わないことです。

雑巾は1回よりも2回、2回よりも3回掛ける方が綺麗になります。より綺麗になったと思えば良いと思います。あるいは、1回目の雑巾掛けでは、まだ汚れているからもう一度掛け直ささいと言う神仏の教えかも知れないと思っても良いと思います。^{あわ}慌てていたから水をこぼしたのだ、掃除^{そうじ}が終わって、このように慌てた状態・心で買い物に出掛けて行ったら交通事故に^あ遭って、お陀^だ仏^{ぶつ}になっていたかも知れないと思っても良いでしょう。

バケツを引っ繰り返したと言う現象から学び取ることがあれば、こぼした水も、2回目の雑巾掛けに費やした時間も決して無駄ではないのです。

[事例 2]

Kさんがご飯^たを炊きました。ご飯粒が、釜にこびり付いて完全に取り出すことができませんでした。釜にこびり付いたご飯粒は無駄になって

しまったのでしょうか？ できるだけ綺麗にご飯粒を取ろうとしてもいくつかは残るものです。Kさんが、日が暮れるまで、できるだけ取ろうと努めた後に残ったご飯粒は無駄ではないと思います。釜の周りにこびり付いてくれるご飯粒が在るからこそ、その内側(釜の中央部)のご飯粒を茶碗に盛ることができて、多くのご飯粒が活かされるのです。Kさんがこう考えれば、残ったご飯粒は無駄ではないと思います。

[事例 3]

Lさんが道を歩きながらアイスクリームを食べていました。口に運ぼうとしたとき、アイスクリームを落としてしまいました。このアイスクリームは無駄になったのでしょうか？ 歩きながら食べてはいけなかったのかな、と反省するとか、これ以上冷たいものを食べると、^{なか}お腹を壊すところだったわとか、落ちたアイスクリームは^{あり}蟻さんのご馳走^{ちそう}になるわなど、Lさんがこう考えれば笑い話となり無駄ではないのです(でも、落としたアイスクリームはすぐに拾って^ふ拭き取った方が良いです。美観を^{そこ}損ねるだけでなく足を^{すべ}滑らせて怪我^{けが}をする人が続出しますのぞ)。

[事例 4]

Mさんは、田畑を荒らしたり、ごみステーションを散らかしたりするカラスが嫌いです。Mさんは、カラスはこの世に居なければ良い、役立たずの無駄な生物だと思っています。果たしてそうでしょうか？

人間は、山や森を切り開き、カラスが^{えさ}餌を取っていた場所を荒らしたのです。だから、カラスは人間が食糧を取る場所(田畑)を荒らしているのです。因果応報、摂理の働きによる^{わざ}業です。多くの動物たちと共有すべき自然環境を人間が破壊している反真理の姿をカラスが教えているのです。そして、食べ残しが多く、食べ物を^{そまつ}粗末にしていることや、ごみの正しい出し方をカラスが教えているのです。こう考えると、カラスも必要な存在で十分役立っているのです。

[事例 5]

NさんがO病院で診察を待っています。待合室には100人の患者さんが居ました。2時間待つてようやく自分の番が回ってきました。受けた診察時間は数分でした。Nさんは、診察待ちの2時間は非常に無駄な時間であると考えました。果たしてそうでしょうか？

Nさんはその夜夢を見ました。P医院の待合室です。この医院は非常に空^すいていて待合室にはNさん1人です。看護師さんに呼ばれて診察室に入ってゆきました。「Nさんどうされました？」「先生お腹がキリキリ痛いのです。便に血も混じっているようなのです。だから胃カメラと大腸ファイバーの検査をしてください。それにできれば尿と血液検査もお願いします」「家^{うち}の医院に胃が痛いと言ってこられた患者さんは、Nさんが初めてなのです。1日に10人程度このような患者さんがこられたら、家でも胃カメラ検査機器を揃^{そろ}えるのですがね。大腸ファイバーの検査を希望されたのもNさんが初めてなのです。この検査を希望される方が1日に10人程度こられたら、家でもこの検査機器を揃^{そろ}えるのですがね。尿と血液検査についても、この検査を希望される方が1日に10人程度こられたら、この検査機器を揃^{そろ}えるのですがね。今はNさんが希望される検査機器はないのです。家にあるのは、ご覧のとおり歯の治療機器だけなのです」。こう言われたところでNさんは目を覚ましました。

検査を受けるためには、その検査を希望される多くの患者さんが居なければならないのです。都合の良いように、そのような患者さんが居て、なおかつ、空いている病院は存在しないのです。このことに気付けば、待合室の100人も邪魔ではなく、ありがたいと受け取ることができ、待たされた2時間は決して無駄ではないのです。

Jさんはバケツを引っ繰り返した現象から無駄なもの・現象はないと悟ったとしたら。Kさんは釜に残ったご飯粒から、Lさんはアイス

クリームを落としたことから、Mさんは嫌いなカラスから、Nさんは病院で2時間待たされたことから、それぞれ悟ったとしたら。都合の悪い現象の中に悟り・実相・真理の世界への入り口が在ることが理解できるのです。そして、無駄なものはないと、すべてを活かし切っていれば、因果律と言う摂理の働きにより、やがてその人もまた、すべてのものたちから活かされることになり、能力は開花し充実した人生を送ることができるのです。どこかの孝ちゃんのように。

3 句読点と5円玉

Qさんは次のような夢を観ました。

Qさんが法華經の真髓を学ぼうとしてA教団の門を叩いて中に入ってゆきました。すると、正面の立像の仏がQさんに語り掛けてきました。

仏 良くきた。良くきた。あなたがくるのを長い間待って居たのです。

Q 仏さん。法華經の真髓を私に伝授してください。

仏 そうくると思っていました。良いでしょう。Qさん。A教団の經本を開いてください。

9 ページに第2章。12 ページに第3章。13 ページに第10章。15 ページに第12章。16 ページに第16章。22 ページに第20章。26 ページに第21章。28 ページに第25章。30 ページに第28章。が書かれています。この中でページ数と章数が一致するのは、16 ページの如来寿量（品）第16章だけで、ここは法華經の中でとても大切なところ（よらい）です。ほぼすべての法華經教団で最も大切なところとされています。この箇所（じゅりょう ほん）のページ数と章数が一致するのは偶然ではなく、あなたを迎えるため、この經本には神仏の働きが介在して居ることを、あなたにまず信じてもらいたいのです。

9 ページの第 2 章を観てください。読点（、）と句点（。）が共に使われています。ところが 12 ページの第 3 章では読点でも良いところであっても句点が使われています。この理由がわかりますか？ 質問を正確に言い換えるならば、なぜ私がこのような質問をするのかわかりますか？ この理由がわかって初めて法華經を読んだと言えるのです。

Q 偈（^げ節）に当たる箇所には読点は使われていません。すべて句点です。

仏 それは表面的なことです。

Q 法華經には 1 偈あるいは 1 句（行）でも読んで実践して、人に聞かせたならば、その福德は膨大であると書かれています。その 1 句を 1 つひとつ区切って示しているのです。

仏 その程度の理解ではまだまだ不十分です。答えを得るためには、万教（ユダヤ教、仏教、キリスト教、イスラム教）の教典を読みなさい。そして法・真理に照らして正しいと判断したことを実践して体で理解しなさい。

Qさんは 2 年間、手当たり次第に様々な教典を読み、そして実践しました。しかし、答えは得られませんでした。

仏 ヒントを授けましょう。5 円玉はどんな形に観えますか？

Q 丸く観えます。あるいは瞳（^{ひとみ}目）に観えます。

仏 5 円玉を立てて上から見れば長方形に観えます。これがヒントです。

Qさんは、このヒントを得た時点では答えは観えてきませんでした。更に 1 年が経過して、やっとこのヒントの意味が理解できたのです。仏から「句読点をどのように捉えたら良いのか。そしてなぜ仏はこのような質問をしたのか」と言う課題が与えられてから、その答えを 3

年掛けてやっと探り出したのです。神仏・宇宙との同行二人でした。

仏 Q さんやっと答えを得ましたね。ヒントの 5 円玉は、神仏の悟りを有限な大きさに表現した場合の、悟りの世界全体の姿・広がりを示して居るのです。

イエスが説いた教えを書き留めたり解説したりした書物は数多く存在します。しかし、イエス自ら書いた物はないのです。同じように釈尊が説いた教えを書き留めたり解説したりした書物は数多く存在しますが、釈尊自ら書いた物はないのです。

キリスト教を世界中に広めた素晴らしい伝道者たちが居られます。その方々自ら書いた物もあります。聖書を人間の精神面のあらゆる角度から照らし合わせて研究された、数多くの学者や実践者、信仰者が居られます。R さん（つまり人類）が、これらの書物をすべて理解・実践したとします。R さんは宗教界のノーベル賞受賞者クラスであると言えます。R さんは、イエスの悟りを、5 円玉を表から大きく（丸や瞳の形で）捉^{とら}えたと思っているのですが、イエスの目（神仏の目）から観れば R さんの悟りは 5 円玉を立てて見た状態のわずかな部分しか見えていない・理解していないのです。ノーベル・Σ（物理学賞＋文学賞＋平和賞）受賞者が束^{たば}になっても、宇宙の広がりをつまみ取ることができないのと同じです。人類は宇宙が 138 億年前に誕生したと見ていますが、この広がりレベルは、神仏の目から観れば 5 円玉を立てて上から見ているのに過ぎないのです。

ユダヤ教も仏教もキリスト教もイスラム教も、必要があって生まれてきた教えです。それぞれの宗教が銀河なのです。これらの宗教（銀河）がすべて集められて初めて神仏・宇宙の真理と摂理の広がりをつまみ取ることができるのです。法華経の中に銀河は存在します。キリスト教の中にも銀河は存在するのです。しかし、人類（人知）では、法華経＝銀河、キリスト教＝銀河と、つまみ取することはできないのです。つまみ

たと思っても、その悟り・広がりには 5 円玉の長方形の部分にしか過ぎないのです。

モーゼのみがユダヤ教＝銀河、釈尊のみが仏教（法華經）＝銀河、イエスのみがキリスト教＝銀河、マホメットのみがイスラム教＝銀河を描けるのです。このようなことを踏まえて、句読点の問題を捉えるのです。

物事には、現象の世界が在って、これに秘められた実相・真理の世界が存在します。法華經の經本は、表面的には文字で形成されています。文字が現象の世界、その意味するところ（文字で表現できない部分）が実相の世界で在ると言えます。句読点は文字として捉える最後の部分（文字）で、かつ文字のようで文字でないところから、実相の（文字で表現できない）世界で捉える入口の部分でもあるのです。

つまり、句読点までも読み、法華經の文字の世界すべてを読み切って、初めて釈尊が説こうとした法華經の実相の世界を観ることができ、初めて釈尊が説こうとした法華經の実相の世界を観ることができることを、この課題を通じて知ってもらいたかったのです。

句読点は文章の切れ目を表します。句読点が在って、読みやすく意味も理解しやすいのです。元々（インド、中国）の教典には、句読点が付いて居ないのです。読者への優しい心配り^{ゆえ}故に、句読点が付けられたのです。また、句読点が文章の一番上に在っては、見栄えが良くないことも考慮して經本の 1 行の文字数が決定されたのです。読者はこのような經本を作成された方々の見えない苦勞（実相の世界・經に文字として表現されて居ない部分）を知れば、より經本の有難味^{ありがたみ}を感じることができると思います。經本に句読点の優しさが満ち溢れた結果、法華經のある意味真髓と言える如来寿量品第 16 章が 16 ページに現れたのです。

多くの方が句読点を見ているようで観ていないのです。空気・日の光・雨の水・時間・空間はとても大切なものですが、この存在を常に

心に留め、感謝している方は少ないのです。とても大切なもの・偉大なものは感謝されないのです。句読点も同じです。句読点も法華經・仏教（神仏の教え）の一部なのです。とても大切なものは、人間の目では見えないのです。心之眼・神仏の目で観なければ決して観えないのです。これが実相・真理の世界です。これから、心之眼で観た法華經の世界（真髓）、いや、仏教の真髓を説いてゆきます。

法華經は「^{によ ぜ が もん}如是我聞」で始まります。大部分の仏典の始まりも「如是我聞」です。「私（弟子たち）は^{ぶつせつ}釈尊から次のように聞きました」と言う意味です。如是^{ぶつせつ}仏説（^{にゅうめつ ごと}釈尊・仏は次のように説きました）ではないのです。なぜ「如是我聞」か、と言うと、^{にゅうめつ ごと}釈尊自ら書いたものは存在しないからです。教典は、^{にゅうめつ ごと}釈尊入滅後、弟子たちがみんな集まって協議して^{へんさん}編纂したものです。これであっても（弟子たちが全員集まっても・^{たば}束になっても）^{うかいが}釈尊の悟りを正しく文字に表すことが困難であったことが窺えます。なぜなら、もし教典の中で真理に照らして誤りが在ったならば、^{うかいが}釈尊の悟りを正しく理解できなかった弟子たちに、その責任が在ると「如是我聞」から読み取れるからです。「如是我聞」は、^{うかいが}釈尊の偉大さを表すと同時に、^{うかいが}釈尊に対する弟子たちの大きな尊敬の念が込められているのです。「如是我聞」の中に在る実相・真理を読むのです。

ここで Qさんは夢から^さ覚めました。この夢は、3年掛けてようやく仏から法華經の始まりの部分である「如是我聞」を説いて頂いたと言う、一夜の不思議な夢でした。

Qさんは次の夜も夢を観ました。それは、天女たちが^{かな}奏でる^{こと}箏の調べの中で、仏から「如是我聞」以降の法華經全文を、一夜で説いて頂いたのです。

4 鬼怒川と雲

時代背景が古くて申し訳ありませんが、長野（冬季）オリンピック（1998年2月開催）を話題にした、Sさんと仏の対話です。

仏 ギリシャからリレーされている、長野オリンピックの聖火がリレー中に消えたことをSさんはどう考えますか？

S 最近のオリンピックは、あまりにも勝負に拘^{こだわ}っており、また商業主義に走っていることが神仏の御心^{みこころ}に合っていないと言う神仏からの警告に思えてなりません。

仏 Sさん、それでは聖火を灯すにはどうすれば良いと思いますか？

S 具体的にはわかりません。

仏 それでは、あなたに課題を授けましょう。

長針（火が天に向かって燃えるさま：火の神）と短針（水が流下するさま：水の神）が天と地を貫く時刻（午前6時と午後6時）から長針と短針が並ぶ時刻（約6時33分）まで、鬼が怒った形相^{ぎょうそう}で流れる鬼怒川の御霊^{みたま}を朝夕浄め、穏やかな和御霊^{おだにきみたま}にするのです。

S えーえ！ 鬼怒川を浄めるのですか？ 私にはどうやって浄めるのかわかりません。

仏 Sさん、あなたに手かざしの技^{わざ}（業）を伝授します。この手かざしによって、鬼怒川の眉間^{みけん}を浄めてください。あなたの手かざしの後ろには私が付いています。あなたの手からは光明が発せられ、この光はあらゆる靈魂を浄め、成仏させることができます。

Sさんは、鬼怒川の眉間は、迦^{さかのぼ}ると、鬼怒川→大谷川→華嚴の滝→中^{ちゅうぜん}禅^じ寺^こ湖^こ→湯^ゆ川^{かわ}（竜^{りゅう}頭^ずの滝）→湯の湖、つまり、日光を流れる竜頭の滝であると確信しました。何よりも竜頭の滝が非常に強くSさんに訴^{うった}えてくるのを感じたのです。



竜頭の滝

Shutterstock_761630674

Sさんは宇都宮市道場宿^{どうじょうじゅく}の真冬の鬼怒川河川敷に立ち70km先の竜頭の滝に向かって素手^{すで}をかざしました。

そのうち、Sさんの心の中に次

のような思いが芽生えてきました。

「長野に雪が降って、オリンピック

クが成功しようと、失敗しようと、

それが神仏の御心であって、人類に対する警告ならば、それはそれで良いのではないか」。と言う思いです。

この行を続けていると、Sさんの心は、次のような心・想念へと変わっていったのです。「『私の手かざしの対象が、オリンピックの成功ではなく、神仏の救いを求めてきた信者さんだったらどうだろうか？先ほどの私の想念は『信者さんの悩みは、神仏の御心に外れた反真理的行為から生じた現象（摂理）であって、これは神仏の警告・意志である。だから私が介入^{かいにゆう}する問題ではない』と言っているのと同じである。この考えは明らかに誤りであって、何としても、この人を救いたい、幸せになって欲しいと考えるべきだ。したがって、多くの方々がオリンピックの成功のために一生懸命になっているのだから、私もオリンピックの成功を祈ろう」と思えるようになり、Sさんに迷いがなくなりました。

更に行を続けていると、Sさんの心は、次のように変わっていったのです。「この川は、さらに利根川→太平洋へと流れ、すべての海に繋がっている。水難事故で亡くなった多くの霊を救いたい」と思いました。

このような心の紋様になったとき、仏が S さんに語り掛けてきました。

仏 S さん。今でも、戦国武将たちが日光に陣を敷き、戦場ヶ原で戦をしているのです。徳川家康は東照宮に、明智光秀は明智平に、織田信長は小田代ヶ原（織田城ヶ原）に陣を敷いています。（ただし、念のため申し添えますが、豊臣秀吉は東照宮に居るものの、どう言う訳か「見ざる（猿）言わざる聞かざる」の態度をとっていて、この戦には参加していません。：この訳については、犬掻き名人によって「第 6 巻」で解説されます。）戦によって戦場ヶ原から流れ出た血が、赤沼川や地獄川を経て中禅寺湖へ注ぎ、これに自殺者の血も加わって、更に大谷川を経て、あたかも鬼が怒った形相で血が流れる川、鬼怒川を形成しているのです。

空海さんがあなたを、いろは坂を上り下りして日光まで導いてくれます。これらの戦国武将や自殺者の霊魂（二つの荒れた魂）を浄め、二荒から光り輝く日光にするのです。

S わかりました。

（3 ヶ月後、行が終わりに近づき、長針と短針が並ぶ頃に、鬼怒川の真上に大きな、そして輪郭がはっきりした実に美しい雲が近づいてきました。S さんは、この雲の上に、神仏たちが大勢乗って居られると直観しました。）

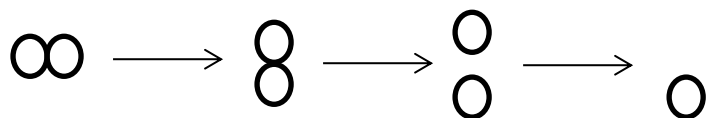
仏 この雲の形は何に観えますか？

S ○○の形をしていますから∞（無限大）ですか？

仏 そう観えますか。実は数字の 8 を横にして、天空の悟りの世界からここまで運んできたのです。

すると、雲は、鬼怒川の川面の直ぐ上（S さんには 50m の高さに観

える距離)で、



立つ 二つに分かれる 上の雲が消え下の雲だけになると、形を変えていったのです。

やがて下の雲も鬼怒川に吸い込まれてゆくようにして消えていったのです。

仏 Sさんの行によって、長針と短針が並んだ時、雨(雲の字の上側)に並が与えられ、すべての水難の霊(無窮^{むきゆう}の過去から無限なる未来に亘^{わた}って)に御霊(みたま)が授けられ成仏した(悟りの世界に入る)のです。そして、雲が上下に分かれ雲の下側が鬼怒川に吸い込まれたと言うことは、雲の字の下側の云が鬼怒川の鬼の文字に与えられ、鬼怒川へも御霊(みたま)(魂)が授けられた(和御霊となった)のです。つまり、二荒^{にっこう}(ふたあら)に霊と魂が授けられ日光^{にっこう}になったのです。

あなたによって救われた水難事故者・自殺者・戦国武将等戦死者の魂は、穏やかな心境となって、ダイヤモンドがきらきら輝く文字どおり、日光の大谷川^{ダイヤ}となったのです。

5 ウイルス

Tさんと仏の対話です。

T 仏さん。エイズや〇〇型肝炎を治す方法はないのですか？

仏 ウイルスはどのような生命体であるのか、その実相を見極めることができれば、これらの病気を克服^{こくふく}できます。

エイズや〇〇型肝炎は、ウイルスによって引き起こされる病気で血液を介して感染します。これらの病気に罹^{かか}ると子孫を残すことが非常に困難になります。この問題や、環境ホルモンの問題は、人類自らが

招いた因果応報の摂理の働きによるものです。つまり、このまま人類が神仏の教えに反し、地球を我が物顔で支配し、汚し続けるなど反真理的行為を続ければ、人類に子孫を与えないと言う神仏からの警告なのです。

恐竜は、欲望のままに食べ続けて巨大になりました。どこまでも満たされることのない餓鬼^{がき}の姿です。その結果、他の生物を食べ尽くし多くの生物を絶滅に追い込んでしまいました。このために、神仏と多くの生物から反感を買って絶滅していったのです。因果応報、摂理です。人類も今、恐竜と同じ過ちを犯そうとしているのです。このまま、他の生物を食べ尽くし、大気汚染・水質汚濁などの環境破壊と乱獲^{らんかく}によって多くの生物を絶滅に追い込めば、人類は神仏と多くの生物から反感を買って、子孫を持たない体となって絶滅してゆくことになるのです。これは自然淘汰^{とうた}と言う宇宙の真理と摂理の働き・法則なのです。

絶滅していった恐竜たちは、神仏に反省し、神仏の手足となって働くことを条件に、決して絶滅しない姿・知恵を頂いて転生・再生してきているのです。これがウイルスです。肉食だった恐竜は動物に宿るウイルスとして、草食だった恐竜は植物に宿るウイルスとして転生してきているのです。Tさんにわかるように人類に名前を付けさせました。恐竜はザウルスと言います。これが、ザ・ウイルスになったのです。

また、神仏の目をもってこれらのことを観れば明らかです。人（他の生物も同じ）は、悟りの境地に到達するまで^{りんねてんしょう}輪廻転生・再生^{さいせい}を繰り返します。もし、人生（＝地上世界での生活）が1度きりであったならば、人々の幸福感（健康・知能・財産・美貌^{びぼう}など）の差が大きいですから、地上はとても不公平な世界ですし、地上で快樂を味わい尽くそうと考える者たちが、悪業^{あくごう}の限りを尽くしても、警察から逃げきったならば、罰せられないとしたら、地上は、秩序が崩壊^{ほうかい}した世界にな

ってしまいます。ですから、因果応報^{いん が おうほう}の摂理の働きは完璧^{かんぺき}であることと、この間の、働く時間・寝る時間・遊ぶ時間・奴隷^{ど れい}となって過ごす時間・国王となって過ごす時間・男性として過ごす時間・女性として過ごす時間・白人となって過ごす時間・有色人種となって過ごす時間・首相や大統領となって過ごす時間・浪人生活^{ろうにん}を送る時間・刑務所に入^{さんげ}って懺悔しながら勉強や労働に励^{はげ}む時間・ホームレス生活に耐える時間・豪邸^{ごうてい}で過ごす時間・赤道付近で過ごす時間・北極や南極付近で過ごす時間・所有できるお金・借金を背負う額・健康（たとえば臓器移植手術を受ける回数など）・美しさ・頭の良さ・運動能力（神経）・オリンピックやパラリンピックで受け取るメダルの数・芸術文学等の才能・結婚できる回数・離婚を経験する回数・生涯独身で過ごす回数・子どもを持てる人数・浮気した回数・浮気される回数・〇〇した回数・〇〇される回数・挫折^{させつ}して自殺する回数・頑張^{がんば}れる心の強さ・怠^{なま}けたり誘惑に負けたりする心の弱さ・休んだり楽しんだりできる心のゆとり・死後天国で過ごす時間・地獄で過ごす時間・味わう幸福感・絶望感・・・・は、皆平等なのです。

つまり、すべての生命体で、喜びや、苦しさ・試練や、能力・才能を、平等に分ち合いながら、宇宙に存在している真理と摂理の働きを理解するために必要な経験・体験学習を、分担^{ぶんたん}・手分け^{てわ}して積んで、得られた知識・情報を（霊界で、全霊体で）共有しているのです。

なんのために？ 今の T さんには理解困難でも、「第 4 巻」まで読み進めてくだされば、得心して頂けるかと思いますが、全霊体が創造主の霊格レベルに成長するためです。

これらが輪廻転生の目的と法則、真理と摂理の働き、実相です。したがって、巨大な恐竜は、絶滅後は微小な生物となって、経験を積むことは、転生の目的・法則なのです。（なお、転生の目的と法則については、皆様に、より深く理解して頂けるよう「第 3 巻と 4 巻と 6 巻」

で詳説されます。)

ウイルスが神仏の手足である以上、人類が神仏と同じ心の紋様・神仏と同じような生活を送るようになれば、体内のウイルスはヴィーナスとなって成仏し、ウイルス的動きは止まります。つまり、人類が常に大きい方・好ましい方・楽な方を人に譲り続ける生活ができるようになれば、ウイルスが引き起こす病気を克服できるのです。

6 呼吸のリズム

ここで紹介する話は、すでに地上で説かれている悟りに、大自然のリズムと言う真理を^{かひつ}加筆したものです。

「息を吸って、はい、吐いてください」。次に「息を吸って、はい吸って、はい吸って、・・・・・・はい吸って、はい吐いてください」。

吸って、吸ってでは、やがて苦しくなって、吐き出さなければ死んでしまいます。息を吸ったら吐くのが呼吸のリズム、自然界の法則なのです。神仏の目から観れば、欲しい欲しい欲しいと言う姿は、吸って吸って吸ってと同じ状態・反真理なのです。やがて必ず息苦しくなるのです。頂いたら周りの人にお返しするのが呼吸のリズム・人生のリズムです。

反真理的行為を続けると息苦しくなって、この誤りに気付かず、さらに続けられれば死（自滅）が待っているのです。反真理的行為とはそう言うものです。

7 ^{むじょう}無常

無常とは釈尊の悟りの1つで、あらゆるもの・あらゆる現象は、生じたり滅したり変化したりして、一定の状態^{とど}で留まることはないと言

う、あらゆるものが最も安定・調和した状態を目指す法則のことです。当たり前だけに、かえってこれが素晴らしい悟り・法則であることが理解し難いのです。

私は無常を次のように理解しています。学校のクラブ活動の辛い・厳しい夏の合宿練習も、寒稽古^{かんげいこ}も、いつかは必ず終わる時がくると言うことです。1週間後の発表会も、8日後には終わっていると言うことです。40日間の楽しい夏休みも終わる時が必ずやってきます。終わりのないもの・状態はない。そして終わったら終わったままでなく（終わりの状態が永久に継続することはない）何かが始まるのです。終わりと始まりが（楕^だ）円運動のように途切れることなく続いている、これが「無常」と言う永久運動・大自然の真理と摂理の働きです。

8 旅人と藁^{わら}

Uさんが子どもを寝かせようとして、布団^{ふとん}の中で絵本を読んであげていました。内容は次のようなものでした。

『昔々、夏の暑い日に1人の若者が旅をしていました。この旅人は非常に貧しく、その日1日分の食べ物を手に入れるのがやっとでした。食べ物がなくなり倒れそうになったとき、旅人は祈りました。「仏さん。私をどうか幸せにしてください」と。すると仏が姿を現して言いました。「この道をどこまでも進んでゆきなさい。そして最初に道に落ちているものを拾いなさい。それがあなたを幸せにしてくれます」と。

旅人は仏に言われたとおり、この道をどこまでも進んでゆきました。すると、藁^{わら}が落ちていました。旅人はがっかりしました。自分を幸せにしてくれるものは、お金か、食べ物か・・・・・・と想像していたからです。しかし旅人にとって頼れるものはもう仏の言葉・救いだけでしたので、この藁^{わら}を拾いました。まさに藁^{わら}をも掴^{つか}む思いだったので

す。

この藁を持ちながら旅を続けていると、その藁の周りを 1 匹の蠅^{はえ}が飛び回っていました。追い払っても追い払っても去らないので、旅人は蠅を藁に縛^{しば}ってしまいました。すると、蠅は風船が浮いているように藁を浮かせながら上^{じょう}手に飛んでいました。

そこへ、一組の親子が通り掛かりました。子どもは、蠅の付いた藁を大変欲しがりました。子どもには玩具^{おもちゃ}のように見えたからです。あまりにも欲しがるので旅人はこれを子どもにあげました。すると親がお礼に（夏）蜜柑^{みかん}をくれました。藁が蜜柑になったのです。

この蜜柑を食べようとしたら、道に婦人が倒れていました。旅人が尋ねると、喉^{のど}がからからでこれ以上歩けないと言うのです。旅人は気の毒に思い食べようとしていた蜜柑を婦人に譲りました。すると婦人がお礼に反物^{たんもの}をくれました。蜜柑が反物になったのです。

旅人はこの反物を売ってお金に換えようと思い町に向かいました。すると、馬が体中^{からだじゅう}怪我^{けが}をして道に倒れていました。旅人は気の毒に思い、傷の手当てをしてあげようと思いましたが薬がないので、持っていた反物を包帯^{ほうたい}のように体に巻いてあげました。そして、馬が元気になるように祈りました。すると、馬は見る見る元気になって立ち上がりました。旅人は馬に跨^{またが}り町に入ってきました。反物が馬になったのです。

旅人がその町一番のお金持ちの屋敷を通り掛かったとき、その様子を屋敷の主人が観ていました。実に素晴らしい馬だったので、主人はこの馬に乗って旅をしてみたいと強く思うようになりました。そこで主人は旅人に「馬を譲ってください」と言いました。旅人は、自分には馬に食べさせる餌^{えさ}もないから、この方（主人）に、もらわれた方が馬も幸せであろうと考え、馬を主人に譲りました。主人は「私はこの馬に乗って旅に出るから、私の留守^{るす}の間はこの屋敷を自由に使ってく

ださい。食べ物も、お金も自由に使って結構です」。そう言って主人は屋敷を旅人に委ね、旅に出てゆきました。馬が屋敷になったのです。つまり藁が屋敷になったのです。

その後主人は屋敷に帰ってくることはありませんでした。旅人はこの屋敷で嫁をもらい子どもを儲けて死ぬまで幸せに暮らしました』。

Uさん親子はこの絵本を読んで、元気になれると祈ったらなぜ馬が元気になったのか、話に無理があると言う点と、主人が旅に出て戻らない（事故に遭って死んでしまった？）と言う結末は皆がハッピーエンドではないので、何となく釈然としないものが湧き起こり、かえって寝付けなくなったと言うのでした。

Uさん親子に私なりにお答えしたいと思います。この疑問は、絵本の作者の意図は何かと言うことと、この物語の中で、仏は何度旅人の前に姿を現したか、と言うことを考えれば理解できると思います。

作者の意図、それはこの物語に出てくる仏の意図でもあります、それが何であるのか、目に観えない実相・真理の世界を、仏の姿（仏の出現回数）を追いながら観てゆきます。

この物語に登場する旅人は他でもありません我々自身です。誰もが幸せを求めて夏の暑い日差しの中を旅しているようなものです。読む方々が旅人を自分と置き換えて読むのがポイントの1つです。

旅人が出合う人・馬が、日常我々が出合う人たち・動物・環境です。

旅人は仏の言葉を信じ、自分を幸せにしてくれるものとは到底思えない藁を拾いました。この藁を拾わなければ、大きな屋敷に住む幸せは手に入らなかったのです。信じると言うことは幸せになるための大切な第一歩なのです。

旅人は、子どもに蠅の付いた藁をあげます。これは、このとき旅人が持っていたすべてです。仏から「これを持っていれば幸せになれる」と言われたのですから、これは旅人を幸せに導く命の綱だったのです。

これを子どもに譲ったのです。

婦人に蜜柑をあげます。これは、このとき旅人が持っていたすべてです。自分も食べたい蜜柑を譲ったのです。蜜柑は旅人の命の綱だったのです。

怪我をして傷ついた馬に出合います。馬の包帯として使った反物は売り物になりません。反物は食べ物を買うためのお金に換わる筈だったのです。これを馬に捧げたのです。これだけの愛情で馬が元気になるように、祈ったのです。作者（仏）は、旅人の命を捧げた祈りであったからこそ、馬はこの命を受け取り元気に立ち上がった、という実相・真理を観抜いて欲しかったのです。

屋敷の主人に馬を譲ります。馬の幸せを祈って主人に譲る決心をしたのです。この心は非常に清らかです。自分の幸せを求めて出発した旅は、馬の幸せを祈ると言う終点に辿り着いたのです。この終点は大きな屋敷・天国・真理の世界だったのです。

旅人は次々と出合う人・馬に自分の持っているすべて・愛を捧げてゆきました。それは、これをあげますから、その代わりにあなたの〇〇をくださいと言うような条件は全くない、見返りを求めぬ布施であったのです。このような布施が非常に尊いのです。

屋敷を旅人に委ねた主人は決して戻ってきませんでした。なぜなら、この主人こそ姿を変えて旅人の前に現れた仏であるからです。主人は死んだのではなく、天上界で旅人を観守っているのです。だから、この物語はハッピーエンドなのです。

修行の世界である地上は、真理と摂理の働きにより、自分の持っている物を必要とする人が周りに必ず現れます。これを捧げ、その人の幸せを祈った者が、摂理の働きにより、幸せを周りの人から頂けるのです。

仏は最初からは、旅人に大きな屋敷を与えないのです。仏は旅人が

それを受け取るのに相^ふ応^さしい機^き根^{こん}（心の発達程度）になるまで少しずつ導いてゆくのです。

旅人は最初に落ちていたものがお金や食べ物であれば良いなと考えていました。もしお金が落ちていたら、旅人は大きな屋敷に住む幸せを手に入れることができなかつたのです。それはなぜか？ お金は子どもの気を引く物ではないからです。お金では倒れた状態の婦人の喉の渴きを潤^{うる}すことはできないからです。お金では馬の傷口を癒^{いや}す緊急時の包帯には成り得なかつたからです。莫^{ばく}大^{だい}なお金を持つ屋敷の主人には、旅人が持つお金に興味がないからです。仏の目から観て、お腹を空^すかせた旅人を幸せにするものが、実（米^イ = 食^イべ物）が全く付いていない藁^{たか}であつたのです。しかも蠅^{たか}が集^{たか}るほど汚れた藁^{たか}だつたのです。これを旅人に与えたのです。仏の知恵（神^{じん}知^ち）は人知では決して計り知ることのできないものであると感じます。

我々は仏に「幸せにしてください」と祈ります。そしてそれは、お金であつたり、健康であつたり、子どもであつたり、自分にとって好ましいものを想像し願います。しかし仏の目から観れば、これらは真に我々を幸せに導くものではないのです。「幸せにしてください」と祈れば、（神）仏は必ず道（人生）に必要なものを落とし与えてくれます。しかし人はこれがわからない・見抜けないのです。なぜなら、これらの藁^{たか}は、お金でも、健康でも、子どもでもないからです。聖書、仏典、コーランだつたりするからです。あるいはかえって我々に都合の悪い、病気、貧困、飢^うえ、嫌いな上司や同僚や部下、問題の生徒、浮気性の夫・妻、テロとの戦い、領土問題、修行だつたりするからです。この藁^{たか}こそが我々を悟り・天国・真理の世界へ導く虹の掛け橋なのです。実相・真理の世界を観抜ける心を培^{つちか}い、仏を信じて藁^{たか}を受け入れ拾えた旅人（人）は、真理と摂理の働きにより必ず周りの人々を幸せにしてゆき、この方々から旅人もまた幸せにしてもらえるのです。

ここに登場するすべての人・蠅・馬が仏の化身^{けしん}です。このように受け取ると、この物語は一層味わい深いものとなります。そして日々出合うすべての人が神仏の化身なのだと、我々に説いているのです。

第 4 章

青虫が虹色の蝶となって大空を舞う

1 虹

雨が止んだ空に虹が掛かります。虹は弓の形に見えますが、これは虹の一部を見ているに過ぎません。地上（の目線）に立っているのは真の姿を捉えることはできないのです。地球の外・天空・悟りの世界から観て初めて、虹は天使のリングやドーナツや 5 円玉のような輪になっていることがわかります。

虹は太陽の光が水分子に当たって、光に含まれている色の屈折率の違いによって現れます。光がプリズムを通ると虹が現れるのも同じ原理です。虹は、赤、橙、黄、緑、青、藍、紫の 7 色からできていると言われますが、緑に近い青、藍に近い青も虹の中に存在しますので、虹は無数の色から構成されていると観るのが正しいのです。

つまり無色透明な太陽の光は、無数の色から構成されているのです。これが光（神仏の教え）の実相です。日常起こる様々な現象の中には、特に気を引かないために見過ごしていることが非常に多いのです。無色透明な光のように何も感じないからです。しかしプリズムと言う神仏の目・知恵を通してものごとを観ると、この中に無数の色（神仏の教え、悟り、真理、問題の解決方法）が存在しているのです。無色透明な光と無数の色から成る虹が法を説いているのです。様々な色・無数の色が等しい強さで集まると無色透明になります。これが「色即是空」真理です。この無色透明な光から無数の色が生み出されるのです。これが「空即是色」真理です。太陽（神仏）が、大自然が、法・真理を説いているのです。

2 色^{いろ}

悟るための必須事項ですので、ここでは色について色々お話ししますが、差別のない世界が神仏の願いですので、色を人種・肌色と置き換えて考えてしまつては、差別に繋がり収^{しゅう}拾^{しゅう}が付かないほどの波紋^{はもん}を呼びますので、くれぐれもそのような見方はせず、字面にも捕らわれることなく内奥^{ないおう}に存在する真理・神仏の願い・教えを掴^{つか}み取ってください。

様々な光の色を合わせると、次第に無色透明になってゆきます。しかし様々な色の絵の具を合わせると次第に灰色になってゆきます。この違いを考えることにします。

光は自ら色を発しているものです。一方、絵の具は自ら色を発することはできません。特定の波長の光を吸収して色を現しているのです。この違いによって無色透明な空^{くう}・悟りの世界を描^{えが}けるものと、欲望のままにすべてを吸収してしまつて、灰色・地獄の世界を描くものとに分かれるのです。

しかし欲望をゼロにすることは不可能です。色と色とを調和させ活かし合えば、流麗^{りゅうれい}な風景が自由に描けるように、欲望の存在を認め受け入れ、これを上手^{うま}くコントロールすることに努めれば、素晴らしい人生が描けます。これも真理的行為です。

3 蝶^{ちょう}

虹と言う文字の中に虫がいます。皆様はどんな虫を想像されますか？ 虹の^{こう}エは、川の向^{むか}うの彼岸^{ひがん}（悟りの世界）へ、あるいは地上世界から天へ橋渡しをしている光景を思い浮かべることができますから、私は不成仏^{ふじょうぶつ}霊を悟りの世界に導くために羽ばたいている天使の姿

のような虫、蝶をイメージします。

蝶は青虫→蛹^{さなぎ}→蝶と変化してゆきます。これが現象の世界で捉えた姿です。しかし神仏の目・実相の世界で捉えると次のように観ることができます。「青虫→神仏の教えに出合い、生まれ変わって(脱皮^{だっぴ}して)→蝶になった」と。

青虫は花々の葉を食べて成長します。したがって青虫は花々にとって、身を食べ尽くされ、枯^からされてしまいかねないほどの害虫です。ところが、神仏の教えに出合い脱皮して（生まれ変わって）蝶となると、もう花々に害を加えることはありません。むしろ受粉の・花々の子孫を残す手伝いをするものに 180° 転換します。

天使も以前は青虫のように、周りの人に害をなす時代があったのではないかと思います。神仏の教えに出合い、傷付けてきた周りの人の役に立ちたいと思い、飛び回っているのが天使の姿ではないかと思います。

蝶は昔の青虫だった時代を反省し、当時の己の姿を決して忘れないよう、自ら名前に「葉に付く虫」と言う字を当てているのです。青虫に食べられても、じっと耐えている花々が仏の化身（草に化けた仏）です。これが実相の姿です。

4 牛乳を川に流すとなぜ汚れるの？

牛乳はとても栄養価の高いものですから、我々の生活や学校給食に欠かせないものとなっています。このような有益な牛乳も、川へ流せば汚染物質へ変わります。その理由は 2 つ在ります。

[理由 1]

川の中には様々な生物（鮎^{あゆ}、鯉^{こい}、鮒^{ふな}、メダカ、カゲロウの幼虫、ヤ

ゴなど)が棲^すんでいます。これらの生物は水中に溶けている酸素を鰓^{えら}呼吸によって吸収して生きています。牛乳を川に流すと水中の微生物によって分解されてゆきます。その過程で川の中に溶けている酸素がたくさん消費されてしまうのです。この結果、水中の酸素が欠乏^{けつぼう}して生物が棲みにくい川となってしまうのです。

[理由 2]

気温の高いところに牛乳を置くとやがて腐ります。これを飲めば人はお腹^{なか}を壊します。犬や猫に飲ませてもお腹を壊します。これを金魚の水槽や鯉^{こい}を飼っている池や川に流せば、中で生活している魚たちも同じようにお腹を壊します。人はお腹を壊しても医者^{いしや}に掛かって治してもらえます。ペットの犬や猫も治療を受けることが可能です。ところが、水中の魚たちは陸上の診察ベッドの上で治療を受けることができないため大部分が死んでしまいます。

命を養う栄養価の高い牛乳は腐ると生物にとって、命を奪う毒物に180° 変化するのです。栄養価の高い食品ほど皮肉なことに腐ると毒性は強いのです。新鮮な牛乳であっても、川に流せば水中の微生物によって急速に腐敗が始まります。牛乳はあつと言う間に川の中で毒物に変化してしまうのです。牛乳や食べ残した食品を川に流すと言うことは、毒物を川に投げ込むのと同じであり、水中の多くの生物の命を奪うことになるということと、下流ではこの水が、人や家畜やペットや^{エトセトラ}etcの飲み水となっていることを知るべきです。

5 占い

人は誰しも未来に対する不安や期待を持っています。未来の自分を知りたいと思う気持ちは自然に発生するものです。しかし誰も明日を正確に予言することはできないのです。我々は明日どうなるかを知る

必要はないのです。なぜなら、我々は明日何をすべきか明らかだからです。法・神仏の教え・真理に照らして善いことを行う、これが明日も明後日も我々が成すべき不変の真理的行為です。善いことを行っていれば、摂理の働きにより、食べる物、着る物、住むところは自然に配られてくるのです。食べる物や着る物や住むところは空のようなものです。掴もうとしても指の間からすり抜けてしまうのです。何の見返りも求めず人に譲ろうと・掴み取ることを放棄して手を広げたとき、^{てのひら}掌 一杯に抱え切れないほどの空が乗っているのです。真理です。

占いに頼ってはいけません。法を拠りどころとすべきであることは釈尊の言葉によって明らかです。人を占ってもはいけません。Vさんが右に進んでも左に進んでも、Wさんと結婚しようとXさんと結婚しようと、Vさんの未来には天国も地獄も存在するのです。なぜなら、身に降り掛かる現象をどのように受け取るかと言うVさん自身の心の紋様によって、天国と地獄に分かれるからです。しかも、占いで言う天国は自分にとって都合の良い世界の実現を意味しており、神仏の目で捉えた天国の世界とは異なっています。自分の都合の良い世界を目指してはいけません。反真理的行為であるため、その世界こそが、人と衝突して争う地獄へ繋がる道だからです。占いによって人をこのような地獄の道（自分の幸せを優先する反真理的道を選択させること）に誘導してはならないのです。

もし占い師YさんがVさんに、右にゆきなさい、Wさんと結婚しなさいと占ったとします。この行為はVさんが右にも左にもゆける自由、Wさん又はXさんと結婚できる選択の自由を奪ったことと同じで、Yさんが犯している罪は、^{むく}無垢な人々から高額なお金を巻き上げた^{あげ}挙句、己は^{ぜいたくさんまい}贅沢三昧の生活を送っている罪が加算され、反真理的行為の中でもとても重いのです。同時に、Vさんに不都合な占い結果が出たとき、占いが^{てきちゅう}的中すること、つまりVさんに不都合な未来が訪れる

ことを願う心の紋様となり、Yさんの霊格は急降下します。そして多くの人の選択の自由を奪えば、摂理の働きにより、やがてYさんは多くの方々から選択の自由を奪われることになります。かつ、何の根拠もない占いによって^{がんじがら}雁字搦めの^{みじ}惨めで苦しみに満ちた来世を、罪が許されるまで延々と送ることになります。

6 コピー その1

Zさん(X国の国会議員)は、日頃から手に入れたいと考えていた資料を、偶然A社が主催する講演会で入手しました。この資料には、国民とどのように接したら良いかと言うことが具体的な事例で細かく説明されていました。Zさんは多くの国会議員がこの資料を読みたいと思うに違いないと考えました。そのとき同僚のBさんがZさんのところにきたので、Zさんは^{さっそく}早速Bさんに資料を見せました。読み終わったBさんはZさんに「この資料のコピーを頂きたい」と申し出ました。Zさんはこれを^{かいだく}快諾してBさんに資料のコピー(第1コピー)を渡しました。BさんからCさんへ(第2コピー)、CさんからDさんへ(第3コピー)と、この資料のコピーが次々に渡されました。

コピーからのコピーは原本からのコピーと同等には美しくは^と撮れないものです。コピーからコピーを繰り返せば、やがてシミが付いて汚れ、文字が太く^{にじ}滲んでしまって読みにくいものになります。

Bさんへ資料のコピー(第1コピー)を渡してあげたZさんはとても優しい方です。しかし神仏ならBさんへ原本の資料を渡します。なぜなら、BさんからCさんへ、CさんからDさんへ次々に原本が渡されれば、誰もが原本から撮った第1コピーの鮮明な資料(好ましい物)を手にすることができるからです。これが神仏の愛と知恵と真理の美しい世界なのです。このように真理の世界は日常の至るところに存在

しているのです。この存在に気づき実践した者は、膨大な福德を得、心が豊かになり、喜びの世界に身を置くことができます。

7 まんじゅう

トンネル工事の現場です。Eさんグループの10人は東側から、Fさんグループの10人は西側から掘り進めていました。貫通まであと10mのところまで来たときでした。大きな地震が襲い、東側と西側の入り口が崩れてきた大きな岩で塞がってしまいました。EさんグループもFさんグループも、全員がトンネルの中に閉じ込められてしまいました。どちらのグループも食べ物を皆で出し合ったら、9個のまんじゅうが集まりました。

Eさんグループは9個のまんじゅうを巡って10人で奪い合いが始まりました。それは生死を掛けた壮絶な地獄絵のような争いでした。

一方、Fさんグループは9個のまんじゅうのうち5個を取り出し、それを半分に割って10人で仲良く食べました。次の日、残った4個のまんじゅうのうち2個を取り出し、1個を5等分して10人で仲良く食べました。3日目、残った2個のまんじゅうのうち1個を取り出し、これを10人で分けて食べました。このようにFさんグループは皆で分け合って食べるということと、食べ尽くしてしまうということはずに、明日も生き続ける人のために、まんじゅうは少しではあるけれども残し続けると言うように、生きる希望（明日も食料はあると言う希望）を灯し続けたのでした。

Eさんグループは救出されれば、この現世で10人の争いが続きます。救出前に力尽きて死んでしまえば、10人は地獄で争い続けることになります。

Fさんグループは救出されれば、この現世で10人は助け合って生き

てゆきます。救出前に力尽きて死んでしまえば、10人は天国で仲良く暮らします。

この世は10人いれば9個のまんじゅうが神仏から用意されています。100人いれば99個のまんじゅうが用意されているのです。このように1つ足りない状態で用意されているのが神仏の愛・知恵なのです。10人いて10個のまんじゅうが用意されていては、(1日で食べてしまい)我々は悟れないからです。10人いて9個のまんじゅうだから悟れるのです。奪い合えば問題の解決には辿り着かないこと(反真理)を、分かち合えば足ると言うことと、大きな調和の世界を作りあげることができること(真理)を知ることができます。

第 5 章

仏は人生の達人

1 手足

主夫である G さんは仏に祈りました。「手足の痺^{しび}れを治してください」と。すると仏が現れ、G さんに言いました。

仏 G さん、手足が痺れると、どうして困るのですか？

G 電気が流れるようなビリビリとした苦痛に耐えられないのです。そして、この痺れがあるために階段の^{のぼ}上り^お下りも辛いのです。体重を支えるのがやっとですから、今は物を持つことも困難な状態なのです。

仏 それは辛いことですね。しかし G さん、この現象から学び取るのです。

G 今の状態が辛いだけで、学び取る余裕はありません。どうか、苦痛を取り除いてください。

仏 そんなに治して欲しいのですか？

G 1 日でも早く治してください。

仏 G さん、治ったらその手足で何をしたいと言うのですか？

G 今は、^{としお}年老いた妻と、子どもたちの食事を作れないのです。犬小屋の掃除もできないのです。^{ふとん}布団も^{たた}畳めません。手足の痺れが治ったら、妻と子どもたちの大好きな料理をたくさん作ってあげたいのです。

仏 そうです。自分の持っている手足は、実は自分を幸せにするためのものだけではないのです。神仏の願いを成就させるために使うものでもあるのです。つまり周りの人を幸せにするために使うのです。本当は人を幸せにするために手足が与えられているのです。お金も自分を幸せにするために頂いているのではないのです。お互いに周りの人

を幸せにするために頂いているのです。周りの人とは、家族だけではありません。親類縁者・友人だけでもありません。困っている人・Gさんの助けを必要としている人が対象となります。これは真理です。

Gさん、もう一度尋ねます。手足が痺れると、どうして困るのですか？

G 今は妻と子どもたちの食事を作れないのです。手足の痺れが治ったら、妻と子どもたちの大好きな料理をたくさん作ってあげたいのです。そして、周りの人の幸せのために、この手足で、私にもできることを精一杯したいのです。

仏 Gさん、気付いてくれましたね。Gさんが周りの人のためになることを実践した分に応じて、摂理の働きにより手足の痺れは薄らいでゆきます。信じて実践してください。

2 難しい

仏と弟子の会話です。

仏 ここに宇宙の真理を書き留めた本があります。これを読んで気付いたことを述べてください。

弟子 読ませて頂きました。この本の中に宇宙の真理らしきことが書かれていることは何とな一く感ずるのですが、私には難し過ぎて理解できません。ちんぷんかんぷんです。

仏 難しいと言う思いは、自分を中心に宇宙の真理を捉えている証拠です。宇宙の真理はそこに唯在りて在る^{ただ}ものです。難しいとか簡単だとかと言う思いで捉えるべきものではないのです。もし、思い・感情で捉えるならば、真理を思いの中心に置いて捉えるべきです。したがって、難しいと捉えるのではなく、未だに自分の境地・知恵が真理を理解するまでに至っていないと捉えるべきです。

宇宙に万有引力が働いているということも真理の 1 つです。この万有引力を理解することが難しいとか簡単だと言う思いで捉えてはならないのです。万有引力はそこに唯在りて在るものだからです。そしてニュートンが発見してから万有引力が存在したのではなく、発見される、ちよつと前から存在していたのです。真理もこれと同じです。わかりましたか、孝^{たか}ちゃん？

弟子 ちんぷんかんぷんです。

仏 下線部は冗談です。

弟子 あははは。それはわかっています。多分、読者の皆様も。

3 ^{まいじゃん} 麻雀

麻雀は 4 人で 136 個の牌^{パイ}を使って競うゲームです。実際にやったことがなくとも、この言葉を聞いたりゲームを見たりした経験はあるのではないかと思います。以下に書く物語は麻雀がキーワードですので、そのルール^{がいりやく}の概略に触れて置きます。

トランプのカードのように、始めに 4 人それぞれに 13 個の牌が配られます。これを配牌^{はいばい}と言います。次に、前に積まれた牌の山から 4 人が順番に牌をつもり（引くこと）、手元の 13 個の牌と合わせ、これら計 14 個の牌を使って、上がるための条件である役^{やく}を作りあげてゆきます。役を完成させ、上がった者に得点が与えられ、その合計得点を競うゲームです。得点は役の難易度によって異なり、完成させることが困難な役ほど高得点が与えられます。この役の中で最も高得点なものが役満^{やくまん}と言われるものです。ただし役満には何種類かあります。この物語は十三不塔^{シーサンブトウ}と言う役満（場所によっては満貫^{まんがん}（役満の 4 分の 1 の得点）で役満と認められていないようですが）に関する話です。

H さんは難病を抱える修行者です。3 年間、神仏の救いを信じ、大

きい方、好ましい方、楽な方を人に譲る実践を行ってきましたが、病気は一向に良くなる気配はなく、生きる希望の灯火^{ともしび}がまさに消えようとしたときでした。Hさんは仏に祈りました。「仏さん。とうとう私は、持っていたお金を天地（＝募金箱）に布施して使い果たし、体力も使い切ってしまいました。私の力もこれで尽^つきます。仏さんは私を見捨てるのですか？　どうか見捨てず、救ってください。ただこれが仏さんの御心ならば受け入れます」と。すると、仏が現れ H さんに言いました。

仏　Hさん、麻雀を知っているだろう。仲間を集めて、やってみてはどうかな。

H　麻雀ですか？　こんなときにゲームですか？

仏　健康麻雀なら、気分転換に良いじゃないですか。

Hさんは麻雀をする気分ではなかったのですが、救われない一心で仏を信じて麻雀をやることにしました。Iさんたちを誘い健康麻雀を2回の約束で始めました。Hさんは麻雀の中にも修行があると考え、相手に上がってもらい自分はできるだけ上がらないように努めました。始まって間もなく Hさんは、十三不塔と言う役満で上がったのです。Hさんの意に反して（無意識のうちに）上がってしまったのです。しばらくして Hさんはまた十三不塔で上がったのです。Iさんたちも驚きましたが、何よりも Hさん自身が最も驚いたのです。麻雀が終わり得点を数えたら負けようとして打っていた Hさんがダントツだったのです。Iさんたちが引きあげた後に Hさんの前に仏が現れました。

仏　無駄な麻雀ではなかったろう。Hさん悟りましたね。

H　はい。

仏　今日この場で十三不塔と言う役満ができるまでには、多くの人たちが介在しているのです。無作為にかき回された牌、麻雀が終わり無作為に箱に戻された牌、くる日もくる日も、これが繰り返された後に、

今日十三不塔と言う役満が現れたのです。しかも 2 回です。H さんの麻雀の技・能力は一切介入できない世界で作られたのです。なぜならこの役満は配牌時点で作られたものだからです。

役満は字一色、^{ツイーソー}緑一色、^{リユーイソウ}大三元（だいさんげん）^{ターサンユアン}・・・など一般的に見た目にも美しいものばかりです。ところが、この十三不塔は頭 1 組と、あとの牌はばらばらで孤立しているため、ここから役を完成させて上がることが非常に困難なほど^{みじ}惨めな配牌なのです。この最も惨めな配牌こそが役満、完全に完成された仏・真理の姿であることを H さんにわかって欲しかったのです。この惨めな配牌の姿は H さんの置かれた今の境遇・姿です。これ以上ないと言う逆境を耐え忍ぶことは、高僧が行ずる^{あらぎょう}荒行と等価、いや、人類史上最難度の荒行で、神仏の修行の姿そのものです。H さんはこの荒行を 3 年間行じてきたのです。

子どもの不登校で苦しむ親・子どもを失って苦しむ親・夫や妻の浮気で苦しむ者を救えるのは、同じ苦しみを^{こくふく}克服しているか、あるいはこれを克服しようとして行じている者だけです。

H さんには人類に代わって、病気・貧困・飢え・不眠・不休・絶望の地獄の苦しみを 3 年間耐えて欲しかったのです。なぜなら生きる希望の灯火がまさに消えようとしている者を救えるのは、同じ苦しみを克服しているか、あるいはこれを克服しようとして行じている者・あなただけだからです。これらの苦しみに耐え乗り越えてきた者が神仏なのです。

私にはあなたの病気を治す^{きりよく}氣力、いや、^{れいりよく}靈力はありません。あなたの病気を治せる者はこの宇宙にあなた自身しかいません。あなたは苦難に耐えてきたことにより膨大な福德を得ることができます。さあ一、この福德をあなた自身が使い病気を治してください。

H 仏さん。もう良いです。私は学ぶべきことは学び尽くし十分生きました。欲望^{うごめ} 蠢く物質界であるこの地上世界に全く^{みりよく}魅力を感じませ

ん。だから、この福德を私と同じように苦境に立つ者に譲ります。

こう言った瞬間、摂理の働きにより H さんの病気が完治したのです。同時に観える景色が輝きを発して魅力在るものに一変し、生きる希望が湧き、この世で成すべきこと（ほんのちょっぴり冗談を交えた神仏のお話を書いちゃうこと）が観えてきたのです。

4 ゲームの達人

H さんは、この麻雀を通して学んだことがもう一つありました。快く麻雀に付き合ってくれた I さんたちは神仏の化身だったということです。ですから、十三不塔を 2 回現れるように牌を積み上げた I さんたちは^{ただもの}ではなくゲームの達人でもあるのです。つまり麻雀の達人（神様、以下同じ）、将棋の達人、囲碁の達人、料理の達人、カラオケの達人、・・・の達人は、常に勝つことを目指したり、負けることを目指したりすることはないのです。相手に楽しんでもらい、そして自分もこのゲームを楽しむ人、参加者全員がどうしたら楽しめるか、どうしたらゲームを通して神仏の教えを^{つか}掴めるかを自然に気配りできる人、この人がゲームの達人と言えます。

同様に、出合うすべての人に人生を楽しんでもらい、そして自分も人生を楽しむ人、地球上のすべての人（生物）がどうしたら人生を楽しめるか、どうしたら人生を通して神仏の教えを掴めるか、靈格を向上させることができるかを自然に気配りできる人、この人が人生の達人・神仏です。

5 ^{つぐな}償い

償いについて考えてゆきます。MさんがNさんの命を奪ってしまっ
たとします。Nさんがもし生きていたとして、Nさんには数年後に子
どもが2人できたとします。この数年後を仮に5年後としますと、神
仏の目で実相の世界を観ると、Mさんは5年後にはNさんの2人の
子どもの命を奪ったことになるのです。25年後にNさんに4人の孫
ができたとします。すると25年後にはMさんは4人の孫の命を奪っ
たことになるのです。これが実相・反真理の世界です。

つまりMさんは25年間で、Nさんと、2人の子どもと、4人の孫、
合わせて7人の命を奪ったことと同じなのです。孫から曾孫・玄孫・
来孫・昆孫・仍孫・雲孫・・・と言うように奪った命はやがて無数と
なるのです。この数は、2倍、2倍と増えてゆきますから、増え始め
たらあつと言う間に膨大な数になるのです。だから、罪を償うのは、
早ければ早いほど良いのです。そして罪を償った者の顔は世界で、い
や、宇宙で一番清々しいのです。

もしも、人の命を奪って反省もしなければ、やがて膨大な命を奪っ
たと言う罪の報いを必ず受けることになり笑顔が消えます。

人類はこの反真理を知らないから、怒りを抑えられずに（コントロ
ールできずに）感情に任せて人を殺めて（反真理的行為）しまうので
す。反真理を知った者は、恐ろしくて人を殺めることができなくなり
ますので、（反）真理を学ぶことはとても大切なのです。

反対に、OさんがPさんの命を救ったとしますと、同じような数学
的法則によって、1人の命を救った福德は、やがて膨大なものとなる
のです。

もし、皆様の中で、Nさんが100歳の老人・老婆であって子どもを
産む可能性がないから、この方を殺めても100年後も1000年後も殺
人数は1人のままだと考えるのは大きな間違いです。なぜかと言うと、
Nさんが天寿をまっとうできていたならば、この間に、Oさんのよう

に人の命を救う可能性が十分あるからです。(どのような行為が命を救うことになるのかは「第 8 章 5 命を救う」で詳説します。)

つまり、N さんが救えた筈だった多くの命を奪ったことになるからです。

さらに掘り下げて、憎しみと感謝と言う感情から生まれる、(反) 真理と摂理の働きを考えることにします。

M さんに命を奪われた N さんには多くの仲間（家族、親族、友人、職場の同僚等々）がおられ、この方々に耐えがたい苦しみ・悲しみを与えていますので、M さんは、(N さんと) この方々からも強い憎しみを受けることになりますので、M さんが受ける罪（反真理的行為）の報い（摂理：霊界と来世の生活・姿）は、皆様が想像されるよりも遥かに耐えがたいのです。

反対に、O さんに命を救われた P さんにも多くの仲間がおられますので、O さんは、この方々からも深い感謝を受けることになりますので、P さんが受ける真理的行為の報いは、皆様が想像されるよりも遥かに素晴らしいのです。

皆様には、このことを励みにしてくださると嬉しいです。

6 日・月・火・水・木・金・土

仏と弟子の会話です。

弟子 日から木までは 4 画なのに、金と土は 4 画でないのは、何か意味があるのですか。

仏 画数に拘こってはいけません。画数に意味・真理は存在しないのです。もし真理が存在したら、画数に拘こることを促してしまい矛盾します。日・月・火・水・木・金・土によって 1 週間が構成されていることに次のような意味があるのです。

日・月・火・水・木は大自然を表します。つまり、これらは神仏が創り出したものであり、また神仏の姿そのものです。

金は人が作り出したものを象徴します。人は生活に必要なもの、あるいは利便性を求めて、硬貨、紙幣、法律、^{こよみ}暦、^{タイヤ}車、電車、船、飛行機、カラオケ、洗濯機、扇風機、学校（広義に捉えて「刑務所」を含む）などを作ってきました。金はこれらを代表したものです。

土は聖書の^{そうせい き}創世記の中で、神が土からアダムを創ってきたように、人を表します。したがって、自然界と、人と、神仏が創り出したものと、人が作り出したものから、1週間が構成されていますから、日・月・火・水・木・金・土は宇宙を構成していると観ることができます。そして神仏の目から観れば、日・月・火・水・木・金・土はすべて等価で、宇宙の構成要素として必要不可欠なものばかりです。

弟子 神仏が創り出した日・月・火・水・木・土と人が作り出した金が等価だと言うのですか？ 金がなくても大自然の恵みを頂いていれば生活できるのではないですか？

仏 等価と言うのは、どちらが^{まさ}勝っているのか比較できないと言う意味です。確かに^{のど}喉が^{かわ}渴いている人にとっては、お金よりも水の方が必要でしょう。だからと言って、毎月の給料を水で支払われたら労働者は困ることになるでしょう。お金の持つ利便性がときには、水に勝るのです。だから実相はすべて等価なのです。

弟子 お金は人の欲をかき立て、人と人とを衝突させ争いを呼ぶのではないのでしょうか？

仏 実相は日・月・火・水・木・金・土はどれも、清らかなものとか、^{けが}穢れているものとか、と言うことはないので。「色即是空」なのです。あるいは、日・月・火・水・木・金・土はどれも、清らかなものにも、穢れているものにも、有益なものにも、災いを^{もたら}齎す凶器にもなる要素を秘めていると言えます。「空即是色」なのです。

日が強すぎでは、作物が枯^かれたり、日射病や熱中症で倒れたりする人が出てきます。月光が太陽光と同じ強さであったならば、睡眠の妨^{さまた}げになったり、花火の美しさを味わえなくなったり、星空の観察がちょっぴり困難になったりします。火が強過ぎでは焦^こげを作ったり、火事を招^{まね}いたりする危険が生じます。水が多過ぎると、作物を腐^{くさ}らせたり、川を氾^{はん}濫^{らん}させたりする危険が生じます。これらのものがほど良く調和していて、初めて秩序が保てると言うのは、日・月・火・水・木・金・土いずれにも当て嵌^{はま}ることなのです。

第 6 章

最も弱い者がイエスの化身

1 税金

R さん（生々^{なまなま}しい会話が続きますが、私の父ではないと解釈してください）とその息子の S さんの会話です。S さんは難病を克服した修行者で公務員です。

R 今年に入ってから病気で 2 回入院したので、私が死んでも家族の者が慌^{あわ}てないようにいろいろ準備して置くつもりだ。私が死んでから財産を分配しようとするれば相続税が掛かるから、今のうちに税金の掛からない方法を見つけて置いて、子どもたちの名義に変えて置くよ。税金で持ってゆかれるのはもったいないからなあー（わーお、生々しい）。

S 払うべき税金は払った方が良いでしょう。この世は神仏が司^{つかさど}っているのですから誤魔^{ごまか}化しても、いつかは払わされることになるのです。税金は、道路や橋の整備、生活保護、年金、医療費補助、公務員・教員・警察等の給料、・・・に使われるのです。納税は国民の基本的な義務であると同時に、清らかな布施・徳積みでもあるのです。

お父さんは、年金で生活を支えているのです。これは税金によって賄^{まかな}われています。私は公務員ですから税金で食べているのです。税金を払わないで年金や息子の給料を払ってもらいたいと言う道理は通らないのです。

お父さんが税金を支払うのを渋^{しぶ}ってきたと言うことは、我が家のご先祖さんも同じ行為（年貢^{ねんぐまい}米を納めることを渋ること）を長い間繰り返してきたのだと思います。だから私は公務員になって間もなく体を壊し、給料を受け取ることができない状況になったのです。先祖が納

税義務を怠った罪は子孫が償うことになるのです。それが自然界の掟・法則・摂理の働きなのです。つまりこのことに気付くまで、税金を財源として支払われるものを受け取る資格は本人にも子孫にもないということです。納税義務を怠ればもらえる筈・受け取ることでできる生活保護も年金も医療費補助も、もらえなくなる状況が必ず現象化するのです。子孫が公務員・教員・警察・公益法人に勤務した途端に体を壊したり、トラブルに巻き込まれたりして、やがて辞めてゆくことになるのです。私は今まで貯金してきたお金をすべて天地に返し、納税義務を怠ってきたご先祖さんの罪を償ってきたのです。

今、お父さんが受け取っている年金も医療費補助も、私が受け取っている給料も、このとき支払ってきたお金を受け取っているのです。これが実相の世界なのです。

このように、人は神仏の教え・宇宙の真理を知らない・無明であるが故に、知らないうちに自分自身も周りの人も子孫も苦しめてしまうのです。相続税を正しく支払わなければ、やがて相続する財産も相続する人（子孫）も強制的に没収されることになるのです。つまり絶家の道を辿ってしまうのが、この世の掟・法則・摂理の働きなのです。

神仏が張り巡らせた網（自然界の法則・この世の掟）は非常に粗雑です。ですから一見、この網の隙間を擦り抜ける（罪を犯しても自首しないで神仏の目を誤魔化す）ことができるのではないかという誘惑に人は駆られます。しかし決して誤魔化したまま無事に擦り抜けることはできないのです。いつか自身であるいは子孫が、必ず報いを受けるときがくるのです。摂理の働きは完璧なのです。これは「天網恢恢疎にして漏らさず」と言われている諺・真理です。

2 コピー その2

Tさんと私の会話です。

T 他人^{ひと}の参考となる資料は、私自身が原本からコピーを撮^とって多くの方々に差しあげたいと考えたとき、原本を自分が所有しても良いのではないのでしょうか？

私 原本を人に譲る行為そのものに善悪はないのです。そのときの心の紋様が大切なのです。原本と言う好ましい方を人に譲ろうと言う心の紋様が、清らかで素晴らしいことだと言いたかったのです。

次々にコピーの原本を譲ってゆく姿は神仏・真理の世界なのです。

確かに現実の世界は2、3番目の人（X国の国会議員）が原本を抱^{かか}えてしまうでしょうから理想の姿が実現する可能性は低いと思います。

Tさんの考え方のほうが現実的かも知れません。しかし私は、たとえ2、3番目の人が原本を抱^{かか}えてしまったとしても、理想の世界を辛抱強^{しんぼう}く待つ気持ちで原本を人に譲^{すす}ることをお勧めします。

Tさんが、コピーの原本を次々に人に譲ってゆけば、Tさんは50回程度で、これ以上は綺麗にコピーができなくなるでしょう。それで良いのです。神仏は、コピーがこれ以上撮れなくなったときに「お疲れ様でした。この修行は終わりにして良いですよ」と言ってくれる筈だからです。そうしたら、Tさんは思う存分^{ぞんぶん}趣味を楽しんで、気が向いたら別な修行に移れば良いのです。

それと念のため申しあげますが、この修行は単なるコピーレベルとってはいけません。もしこの修行を「虹の掛け橋」を読まずに、あるいは私からこの修行の存在を知らされる前に実践できていたとすれば、その方は驚くべき霊格者です。

3 煩悩^{ぼんのう}

仏と弟子の会話です。

弟子 私は煩惱を抑^{おさ}えることができません。仏さんは煩惱が全くない境地なのですか？

仏 太陽にも黒点が存在しているように、どの仏も修行を怠^{なま}けていると、不要^{ふよう}な怒り、不満^{ねた}、妬^{ねた}みなどの煩惱が湧き上がってくるものです。

大日如来も胎蔵界^{だいにちによらい}や金剛界^{たいざうかい}の 2000 もの神仏の頂点に座らされると、慢心^{まんしん}が黒点のように湧き上がってくるときがあるのです。だから大日如来は観音菩薩^{かんのん ぼ さつ}を大日（日）^{だいにち}の上に立って遍^{あまね}く世間の苦しみを観てとる仏であると思うことによって、「自分よりも深く悟っている仏はいない」と言う慢心を抑えているのです。このように仏の修行も、菩薩の修行も、衆生の修行も、煩惱とどのように向き合うかと言う課題は同じなのです。

土^{つち}は人を表していると言うことは前に話しましたね。土と言う文字を良く観てください。この文字は、人には^{プラス} +（善^{ぜん}）と^{マイナス} -（煩惱）が半分ずつ共存している姿を表しているのです。天地創造^{しめしん}の主神の主と言う文字は、人を表す土に、さらに積善（+）を行い、+を書き加えて創られているのです。

また、仏と言う文字は、ム（合掌^{がっしょう}する姿）と言う仏性^{ぶっしょう}を持っている人なのです。鬼と言う文字の中にも（小さな）仏性が存在しており、魂の中には 2 つの仏性（ム）と 1 つの鬼が共存しているのです。

先に話したように、太陽にも黒点があるように仏にも煩惱が芽生^{め ば}えてしまうので、繰り返し魂を浄める修行を続けなければならないのです。同じように、主と言う文字は^{マイナス} - と言う煩惱が心の奥底^{ひそ}に潜んでいて、2 つの仏性^{プラス}（+）がこれを二重に抑えコントロールしている、または、幾重^{いく え}にも積善^{せきぜん}（+）^{プラス}を行って煩惱^{マイナス}（-）を浄めている修行の姿を表しているのです。だから煩惱の存在を受け入れ、これを上手^{じょうず}にコントロールしているのがゲームや料理やカラオケや人生の達人・神仏なのです。

4 募金箱

WさんとXさんの会話です。

W Xさんはいつもレストランやスーパーに置かれている募金箱に布施されていますが、どうしてですか？

X 私はキリスト教を信仰^{しんこう}しているのです。聖書に次のように書かれている箇所^{かしょ}があって、私はここがとても好きなのです。

『イエス あなた方は、私が飢えていたとき食を運んでくれた。私が渴^{かわ}きに苦しんでいたとき水を飲ませてくれた。私が異郷^{いきょう}の流浪^{るろう}の者であったとき友となってくれた。私が病苦^{びく}の床^{とこ}にあったとき見舞い^{おとず}に訪れてくれた。私が囚^{とら}われ拷問^{ごうもん}にあえ^{あえ}いでいたとき牢^{ろう}まできて慰^{なぐさ}めてくれた。人々は驚いて尋ねます。

天国の住人 主よ。いつ、あなたが飢えていらっしゃったのですか？
いつ、喉の渴^{もだ}きに悶^{もだ}えていらっしゃったのですか？ いつ、異郷の貧しい流れ者でいらっしゃったのですか？ いつ、難民^{なんみん}でいらっしゃったのですか？ 病床にいつ、牢にいつ、いらっしゃったのですか？
そして、私たちはいつ、あなたに食や水を運び、助け、訪れたことがあったのでしょうか？

イエス 我が兄弟である人類の、最も卑^{いや}しいとされる人々、苦^{ひん}や貧^{ひん}や飢餓^{きが}や流浪にある人々の1人に、あなた方がしたこと(食や水を運び、助け、訪れたこと)は、すなわち、私に対してしたことと同じなのです。あなた方は、神の喜びの中に入りなさい。

イエスはもう一方の人々に向かって話されました。

イエス あなた方は、私が飢えていたとき食を運んでくれなかった。私が渴^{かわ}きに苦しんでいたとき水を飲ませてくれなかった。私が異郷の

流浪の者であったとき友となってくれなかった。私が病苦の床にあったとき見舞いに訪れてくれなかった。私が囚われ拷問に喘いでいたとき牢まできて慰めてくれなかった。

人々は驚いて尋ねます。

地獄の住人 主よ。いつ、あなたが飢えていらっしやったのですか？
いつ、喉の渇きに悶えていらっしやったのですか？ いつ、異郷の貧しい流れ者でいらっしやったのですか？ いつ、難民でいらっしやったのですか？ 病床にいつ、牢にいつ、いらっしやったのですか？ そして、私はいつ、あなたに食や水を運ばなかったのでしょうか？ 助けなかったのでしょうか？ 訪れなかったのでしょうか？

イエス 我が兄弟である人類の、最も卑しいとされる人々、苦や貧や飢餓や流浪にある人々の 1 人に、あなた方が愛を行わなかったことは、すなわち、私に対してしなかったことと同じなのです。あなた方は、神の喜びの中に入ることはできません。』

X 募金箱の向こう側には、助けを求める方々がいるのです。^{さら}更にその後ろには、イエスやモーゼや釈尊やマホメットや神仏たちが大勢いるのです。助けを求める声を見捨てて通り過ぎることは私にはできません。無視すれば、やがて自分が困ったとき・助けを求めたときに、多くの方々や神仏たちからも無視されることになるからです。それが大自然の摂理の働き・法則・掟だからです。

5 神仏の声

Y さんと Z さんの会話です。

Y 神仏との対話形式で書かれていますが、神仏はどのような音声・^{よくよう}抑揚・言語で話されるのですか？

Z 神仏からの通信・声は、映像、書物、人から伝えられる言葉などが複合して、私の心の耳に、時に反復^{はんぷく}して伝えられるものなのです。神仏の声は直接、音で聞き取るものではないのです。しかし、神仏との遣^やり取りを表現する適当な方法が見つかりませんので、神仏と私の対話形式で書かせて頂いたのです。

なお、お断りして置きますが、神仏と対話できることが修行の目標でも悟りの程度を表すものでもありません。修行の目標はあくまでも「困った人が居られたら助け、そして人の幸せを共に祝うことのできる心になるまで、繰り返し浄めること」です。私は神仏の声を聞くことができなければ救われないほど、罪が重いのかも知れません。

Y これらの文章はどのようにして書かれたものなのですか？

Z 自然界に存在するあらゆるもの・身に降り掛かる現象すべてが、神仏の法を説いていると思います。まず、これらのものが教えてくれた真理・法則が1行^{ぎょう}程度頭に浮かびます。すると、神仏に導かれてパソコンの前に座りたくなるのです。パソコンの前に座ると、泉のように自然に文章が湧き出してくるのです。このとき、神仏の働きを強く感じます。やがて、書くべきことが尽きると、キーボードを打つ指の動きも自然に止まります。打った文章を読み返すと、そこに書かれている文章は明らかに自分だけの力で書いたものではない、自分の文章の表現力を越えた力が介入^{かいにゅう}していると感じるのです。

上記の内容は、Zさん（神仏と対話を開始して間もないころの私）と神仏との対話の様子ですが、今の私と仏の対話は、仏が映像とはっきりした日本語で私の脳に送信してきます。そして私も映像と日本語で仏に返信します。このような遣り取りで対話が進みます。対話は仏以外でも、私と対話できる霊体^{れいたい}（五霊（「第3巻」参照）レベル以上）であれば、名乗ってもらった後、いつでも可能です。

なお、今の私は仏に導かれてパソコンの前に座りたくなるというこ

とはありません。あくまでも私の意志でパソコンの前に座り^{しゅくしゅく} 肅々と文章を打ちます。書いた文章を読んで仏の力が介入していると感じることはなくなり、あくまでも私の文章で、それ以上でもそれ以下でもありません。

6 修行

AさんとBさんの会話です。

A どのような修行をされているのですか？

B 心の修行です。

A 具体的にはどのようなものですか？

B 人はいろいろな人と、様々な現象に出合います。すると、これに心が反応し動きます。このときの心の紋様を自然界の動き・真理に合わせるように心掛けています。心はいつも存在していますから、家庭でも職場でもいつでもどこでも修行ができるのです。寝れば夢を観ます。夢は自分の心を^{かく}隠さず正確に^{うつ}映していますから夢からも学ぶことは多いのです。

A 寝ているときも修行ですか？ 聞いているととても疲れそうです。

B 自分の心を^{ないせい}内省することは習慣になっていますから、特別意識して行っているのではないのですが、修行は楽しいときも苦しいときもありますし、疲れなときも疲れるときもあります。それが正直なところでは。

でも、苦しいときや疲れたときは、空から^{てんによ}天女さんが降りてきて^{いや}癒してくれます。

A ほーお。どのように癒してくれるのですか？

B それは・・・・・・ヒ・ミ・ツです。

A えーえ！



天女 1

Shutterstock_2039236064



天女 2

Shutterstock_87151636

7 喧嘩^{けん か}

CさんとDさんが喧嘩したとします。CさんにもDさんにも仲間(家族、親族、友人、職場の同僚等々)は少なくとも50人程度はいるものです。CさんとDさんの1対1の喧嘩ではないのです。実は50人対50人の喧嘩なのです。これが実相・反真理なのです。1対1から始まった喧嘩は、やがて周りの人をその中に巻き込んでしまうのです。

忠臣蔵^{ちゅうしんぐら}が良い例です。この話は、多くの人々に感動を与えました。しかし、浅野内匠頭^{あさのたくみのかみ}と吉良上野介^{きらこうずけのすけ}の刃傷^{にんじょう}から始まった喧嘩は、2人の間の恨み^{うら}や憎しみが、新たな恨みや憎しみを生み、やがて両藩の家臣

とその民を渦中^{かちゅう}に巻き込み、多くの血が流れた修羅^{しゅら}の世界を作り上げてしまったのも事実です。

荒木又右衛門^{あらきまたえもん}の、仇討^{あだうち}の助太刀^{すけだち}の話も良い例です。渡辺数馬^{かずま}と河合又五郎の喧嘩から始まったことが、大名^{だいみょう}と旗本^{はたもと}の喧嘩にまで広がり、多くの人々をこの渦中に巻き込み、その人たちの人生を変えていったのです。

このように、1対1に見える喧嘩は、やがて仲間と仲間、家と家、地域と地域の争いに広がってゆく危険性を秘めているのです。こうなると、最初に喧嘩を始めた2人が、すべての責任、流れた血の償いをしなければならないのです。多くの人々の人生を変え、人々を翻弄^{ほんろう}した罪の報いを必ず受けるときがくるのです。つまり現世^{げんせ}、あるいは来世^{らいせ}、自分の人生が出合う人々によって翻弄されることになるのです。これが実相・摂理の働きなのです。これらの実相を知れば、恐ろしくて喧嘩はできない筈です。喧嘩の罪業^{ざいごう}が招く悲惨^{まね}な来世・実相の真理と摂理の働きの世界を知らないから、人々・国々の間で喧嘩・紛争が絶えないのです。

人は絶対に人を怒ったり、喧嘩を仕掛けたりしてはいけません。そう思っている、人は必ず人を怒ったり喧嘩に巻き込まれたりするものです。だから絶対に怒ったり喧嘩を仕掛けたりしないと心掛けて(訓練して)いて丁度^{ちやうど}良いのです。

そして、つい怒ったり喧嘩したりしてしまったときは、「己は未だに^{いま}怒りを抑えられてない(コントロールできていない)証拠だ」と、反省できることがとても大切だと考えます。

第 7 章

閻魔大王の正体

1 中道

仏と菩薩の会話です。

菩薩 「第 5 章 3 麻雀」のところで、仏は、

「・子どもの不登校で苦しむ親・子供を失って苦しむ親・夫や妻の浮気で苦しむ者を救えるのは、同じ苦しみを克服しているか、あるいはこれを克服しようとしている者だけです。

・生きる希望の灯火がまさに消えようとしている者を救えるのは、同じ苦しみを克服しているか、あるいはこれを克服しようとしている者だけです」と言われましたが、果たしてそうでしょうか？ もしそうだとすれば、子どもの不登校で苦しんだことも、子どもを失って苦しんだことも、夫や妻の浮気で苦しんだことも、生きる希望を失って苦しんだこともない人では、何年も心の修行を重ね、様々な教典を読み学んだとしても、これらの人たちを救えないことになります。これらの苦しみを実際に経験しなくとも、同じような苦しみを味わい、これを克服してきた人や、心の修行を重ね神仏の知恵を身につけた人ならば、これらの人を救えるのではないのでしょうか？

仏 おっしゃるとおりです。菩薩よ、仏は、救いを求めている人をいかに救うべきかを考えて、そのときに一番良い方法で救ってゆきます。法を説く場合もこのような観点で説いてゆきます。あわて者を救うときには「急がば回れ」と説きます。一步踏み出す決断ができないで迷いの世界に落ちそうな者を救うときには「善は急げ」と説くのです。

「急がば回れ」と「善は急げ」は、一見相反することのように見えますが、その人を救いたいと思う仏の心・真理は同じなのです。「〇〇で

苦しんでいる者を救えるのは、同じ苦しみを克服しているか、あるいはこれを克服しようとしている者だけです」と言ったのは、この場面の登場人物である H さんを^{はげ}励まし、そして救いたいと考えてのことなのです。このように仏の言葉は、人を救いたいと言う観点で発せられていると受け取って欲しいのです。

ですから、菩薩の質問に対する答えは、大きく分けると次の 2 通りになります。

[答え 1]

自分には、目の前で苦しんでいる人を救える力などないと考えている人に対しては「あなたは、これまでも、この人と同じような苦しみを何度も味わい、克服してきたではありませんか。あなたは、心の修行を重ね、人を救うための神仏の知恵を十分身につけているのです。あなたなら救えるから、私（仏）は、この人をあなたの前に連れてきたのです。自分自身が未だに救われていなくとも人を救うことはできるのです。勇気を持ってこの人を救ってあげてください」と説きます。

[答え 2]

同じような苦しみを味わっていないのに、腕のない人の苦しみも、子どもを亡くした親の苦しみもわかっていると言う人に対しては「腕のない人の苦しみをわかるというのですか？ それでは、今日から腕を使えないように縛って、何日耐えられるか試してください。

子どもを亡くした親の苦しみがわかるというのですか？ 子どもと過ごした思い出のすべてがあなたにわかるのですか？ 生まれたときのこと、赤ちゃんだった頃、幼稚園生・小学生・中学生・高校生・大学生だった頃、彼氏（彼女）を紹介してくれたときのこと、入学試験に受かった（落ちた）ときのこと、病気をしたときのこと、結婚式や孫ができたときのことなど家族で過ごした様々な思い出は、第 3 者の

あなたがすべてを窺^{うかが}い知することは決してできない世界なのです。これらをすべて知らない限り、子どもを亡くした親の苦しみを本当にわかったとは言えないのです。

あなたがわかったと思っ^て見えている世界は、5円玉を立てて上から覗^{のぞ}いた狭い世界なのです。あなたにできることは、その人の立場に立って相手の苦しみを我がことのように思うことです。彼女（彼）の苦しみを聞き、受け止め、支えとなってあげてください」と説きます。

このように仏は、自信のない者に対しては「あなたはすでに5円玉を正面から大きく捉えているのです」と励まし、自信過剰の者に対しては「あなたは未だ、5円玉を立てて上から覗^{のぞ}いた狭い世界しか知らないのです」と戒^{いまし}めるのです。

1人ひとりがこのように、仏に指摘されるまでもなく、自分自身で心を整えたいものです。そして、これが、釈尊が説いた中道の心得^{こころえ}・リズム・ほど良い修行生活・調和した真理の世界です。

2 救いたい

Eさんには息子Fさんがいます。Fさんは、周りの人にも聞こえるくらいの大きな声でブツブツ独^{ひと}り言^{ごと}を日に何千回も言ってしまうと言う病気で苦しんでいました。この独り言は「詰^づまらない、くだらない、ばかばかしい、腹が立つ」などで、周りの人に不快感を与えてしまう言葉でした。Fさんは、自分の病気がわかっていても、ついブツブツ独り言を発してしまい、どうしたらこの病気を治せるのか、いろいろな病院を回っても治療法が見付からず、非常に苦しんでいました。Eさんはこの悩みを修行者Gさんに相談しました。

相談を受けたGさんは、どうしたらEさん親子を救えるのかわからなかったので仏に祈りました。すると仏が現れました。以下はGさん

と仏の対話です。

G 仏さん。私は何としても E さん親子を救いたいのです。どうか、救うための知恵を授けてください。

仏 見ず知らずの E さん親子をどうして救いたいのですか？

G 苦しんでいるからです。そして私に救いを求めてきたからです。

仏 あなたは、どうして人の悩みを聞いてあげているのですか？

G お互いに助け合う世の中になることが神仏、そして人類の願いだからです。このような世界になれば皆が幸せに暮らせると思うからです。

仏 あなたは、今、幸せですか？

G 私にも多くの悩みがあります。正直言ってあまり幸せを感じていません。

仏 悩みのあるあなたが、人の悩みを聞いている余裕はあるのですか？

G 私は幸せになりたいのです。だから、今、一生懸命人を助け、徳積み修行をしているのです。人を救えば救うほど私も救われ幸せになれると信じているからです。

仏 G さん。意地悪な質問を繰り返してすみませんでしたね。この言葉を聞きたかったのです。どうしたら人を救えるか、これから説いて差しあげます。

人は誰でも幸せになりたいと願い、徳を積もうとします。徳を積みば積むほど、真理と摂理の働きにより人は救われ幸せになれるからです。この働きを応用すれば誰でも人を救うことができるのです。つまり、E さん親子の現象から、多くの方が学び、悟ることができて救われ幸せになればなるほど、E さん親子は多くの徳を積むことになり救われるのです。G さんが E さん親子を救おうと思ったならば、まず、

GさんがEさん親子に救われ、Eさん親子に感謝の念を送る事です。
このように、多くの方がEさん親子に救われ感謝の念を送ればEさん親子は必ず救われるのです。

Eさんの息子Fさんは周りの人がいようといまいと、大きな声で悪言を発し、周りの人を不快にしてゆくのでしたね。神仏は人の心の紋様を観ることができるのです。したがって、仏の目から観れば、世界中の誰もが、皆、Fさんのように悪言を発しているように観えるのです。ただ多くの方は言葉に出さず、心の中に留めているだけの違いなのです。

ブツブツ悪言を発していた言葉を文字通りブツブツ^{ブツ}仏の言葉を発するように変えるのです。つまり、これからは「お陰様^{かげさま}です。ありがとうございます。お疲れ様です。おはようございます。こんにちは。すみません。ごめんなさい。気を付けていってらっしゃい」と言う言葉を日に何千回も言うようにするのです。まずGさんが、そしてHさんが、Iさんがと言うように、Fさんの悩みから多くの方が学び・実践して悟ることができれば、Eさん親子は次第に救われてゆきます。^{しだい}
このような実践を積んで、やがてGさんは、自信を持ってEさん親子に話してあげてください。「ブツブツ発する言葉を少しずつ^{ほとけ}仏の言葉に変えてゆきませんか」と。

3 空き缶を拾う

JさんとKさんの会話です。

J Kさんは毎朝空き缶拾いの修行をされているそうですが、どうしてですか？

K 私は仏教を信仰しているのです。仏典に次のように書かれている箇所があって、私はここがとても好きなのです。

『釈尊の弟子に、聡明な兄の摩迦槃特と愚鈍な弟の周梨槃特がいました。兄は日ならずして煩惱を離れ、悟りを得ることができましたが、弟は自分の名前さえも忘れてしまうため、首に名札を下げている状態でした。兄は弟の面倒を看ながら、弟にも仏の知恵を身につけてもらいたいと願い、兄は「身口意の三業に悪を作らず、一切の生類を哀れみ、空を正念に観ずれば、貪瞋痴の苦悩を離れる」の一節を弟に教え、毎日唱えさせました。しかし弟は何年経ってもこれを暗唱することができませんでした。とうとう兄はこれには呆れ果ててしまい「汝のような愚鈍の愚の極まれる者、釈尊の法を学ぶ資格全くなし」と言って、弟を祇園精舎（修行の道場）の門外に突き出してしまいました。弟は己の愚かさに泣きながら、その場に立ち尽くして居りました。この様子を知った釈尊は、弟の傍らに立たれ「愚人の愚とは、むしろ知者なり。愚人の知者と名乗る者、真の愚者なり」と仰せられ、弟の肩を優しく撫でながら、彼に1本の箒を与えました。そして毎日祇園精舎の庭を掃きながら「塵を払わん。垢を除かん」の短い2つの言葉だけ唱えるよう諭されました。その日から弟は怠ることなく庭を掃き続けました。そしてすべての比丘（男の僧侶）を師として、この言葉の意味を聞き、暇さえあれば、唱え続けていました。

そしてついに、箒とは何か、払うべき塵とは何か、除くべき垢とは何か、それは知恵の箒で我が心のうちに在る塵と垢を払う（除く）ことであることを悟るようになり、以後熱心に道を修め、真の知恵を得て悟ることができました。

これを聞いた兄は喜びのあまり駆け付け「弟よ。汝もとうとう悟ることができたか」と誉めたところ、弟は黙って微笑むだけでした。

この様子をご覧になられた釈尊は、大勢の弟子たちに向かって「悟りを得るに、多く学ぶを要せず、2つの言葉と雖も、真に意を注がば、

道を修むべし」と仰せられました』。

私は「己の塵を払わんや。垢を除かんや」と心の中で唱えながら、近くを流れる^{ほうきがわ} 箒川の^{かわら} 河原に落ちている空き缶と^{ごみ} 塵を拾っているのです。

4 1500 円

^{しんごんしゅう} 真言宗（^{みつきょう} 仏教の一宗で密教を教典：日本の宗祖は^{こうぼうだい し くのうかい} 弘法大師空海さん）を学んでいたときの私の経験談です。

※

真言宗では^{ご ま} 護摩と言うものがあります。これは信者が護摩木（縦長の細い板状のもの）に願いごとを書いて、お不動さんや^{こうじん} 荒神さんに願いを^{かな} 叶えてくださるよう、僧侶に^た 焚きあげてもらうものです。私の寺では護摩を毎週日曜日に焚くことになっており、その受付は信者が交代で行うことになっています。1 人 3 本の護摩木を焚いて頂く信者が大部分で金額は 1500 円です。配布した護摩木の数と預かった金額を確認するのが受付の仕事です。

大部分の方は 2000 円を出して 500 円のお釣りを受け取るか、あるいはお釣りのないように 1500 円丁度用意してくださるかです。ところが中には 5000 円とか 1 万円とかを出される方もいます。しかし寺では事前にお釣りを用意していないのです。なぜなら、お釣りを用意するのは、受付当番の心得であり、また護摩を焚いて欲しいと言う信者はイコール修行者でもあるわけですから、受付が困らないよう事前にお釣りのないように準備してくるのも当然の心得だからです。

私が受付当番になったある日のことです。うっかりしてお釣りを用意してくるのを忘れてしまったのです。そうしたら、最初に受付にこられた信者がいきなり 1 万円を出されたのです。そしてなぜか、その

日は、多くの信者が 1 万円を出してきたのです。これには参りました。別な人に受付を頼んで、近くの♥♥へ行って細かくしてきました。こう言っでは申し訳ありませんが「受付の苦勞も痛みも感じない人では、いくら高僧に祈ってもらっても願いは叶わないだろうな」と思いました。

しばらくして、1 人の青年が微笑みながら受付にこられました。この青年は「お疲れ様です。お願いします」と言って、500 円玉を 3 枚出されたのです。この青年の知恵・愛情には、これまた参りました。私は何度も受付をしていますから、おそらく何百人もの方の受付される姿を観ています。しかし、500 円玉を 3 枚出された方は、この青年が初めてです。

1500 円を支払うのに 1000 円札と 500 円玉で支払われる方は、500 円のお釣りを必要とする方 1 人を救えます。500 円玉 3 枚を出される方は、500 円のお釣りを必要とする方 3 人を救えるのです。この救える人数、1 人と 3 人の違いは観た目以上に大きな隔たりがあるのです。何しろ、創造主でもこれ以上の人数を救えないのですから、救いの御業の飽和点です。この青年は 3 人分の知恵を持つ文殊菩薩であると思いました。この日の受付を通じて、両極端な人の姿から、共に多くのことを学びました。

5 趣味の魚釣り

M さんと N さんの会話です。ちなみに 2 人とも修行者です。

M N さんの趣味はなんですか？

N 2 つあります。1 つは歌を歌うことです。独りで花々が咲く草原や桜の下や川辺や海辺や山頂で、あるいは皆でカラオケルームで歌うのが好きです。もう 1 つはホットミルクティーを飲みながらコメディ

映画（DVD）を観ることです。

ところで、Mさんの趣味は何ですか？

M 魚釣りです。魚が掛かった時の手応えが快感なのです。

N 魚釣りですか。私の考えを申しあげて良いですか？

M 何でしょう。何でも言ってください。気にしませんから。

N 大変申しあげにくいのですが、趣味で魚を釣るのは、魚が可哀^{かわい}そうだと思うのです。生活のためや食べるためだったら致し方ないと思いますが、趣味で魚を釣るのは止めた方が良いと思います。

M どうしてですか？

N 魚が掛かって、Mさんがその手応えに快感を味わっているときが、魚にとって最も苦痛を感じているときなのです。魚の苦痛が快感の源^{みなもと}である構図は、神仏・理想・真理の世界にはない、不幸・災い・絶望・いじめ・虐待^{ぎゃくたい}・争い・不協和・無秩序を招く反真理的行為なのです。人や他の生き物たちの苦痛が自身の喜びと感じていたら、やがて自身の苦痛が、人や他の生き物たちの喜び・快感となってしまうことになるのです。これが自然界を貫く摂理の働き・自業自得^{じごうじとく}の法則なのです。

M なるほど。良くわかります。しかし、いくつか疑問があるので、質問して良いですか？

N 良いですよ。何でしょうか？

M 食べるためだったら良いのですか？

N 人は動物や植物たちの命を頂かなければ生きてゆけないのです。命のないもの、つまり死んで腐敗しているものを食べていては、命を繋ぐことはできません。だから、自ら命を繋ぐため、あるいは人々に代わって多くの人々の食卓を潤^{うるお}すために魚を捕^とることは許されると思います。しかし、己の命を繋ぐためとは言え、犠牲になった動物や植物たちには、申し訳ないと言う気持ちを持つことが大切だと思います。

す。そして、これを食べる私たちが神仏の生き方を実践することで、これらの命を活かすよう努めなければならないと思います。

M なるほど。もう 1 つ質問して良いですか？

N 良いですよ。何でしょうか？

M 趣味の魚釣りは止めた方が良いと言われたのは、実は初めてなのです。どうして今まで誰も言ってくれなかったのですか？

N 修行を積んでくれば、自然に相手の立場に身を置いて考えるようになります。だから、釣りについても、修行を積んでくれば釣られた魚の立場に身を置いて考えるようになって、誰もが自然に、反真理的行為である趣味の魚釣りを卒業して、光り輝く真理の世界に入ってくるのです。だから、あえて **M** さんにアドバイスしなかったのだと思います。それにもう 1 つ大きな理由があります。

M それは何ですか？

N 魚釣りに関わって生計を立てている方が大勢いると言うことです。たとえば、釣り道具を製造・販売している方々。釣り堀を経営している方々。河川の漁業権を持ち、人々に釣り券を販売している方々。その関係者及び家族を入れるとその人数は膨大で、もし趣味の魚釣りをやめるように積極的に指摘したら、これらの人々が職を失い生活に困る状況に^{おちい}陥ることを心配したのだと思います。だから、あえて指摘はせずに人々の^{きこん}機根が清浄になり、そして真理と反真理を理解できるようになれば、少しずつ趣味で魚釣りをやる人が減少して、これらに関わっている方々が転職される時期が自然に訪れるように神仏に^{ゆだ}委ねているのだと思います。

M それを承知で **N** さんは私にアドバイスしてくれたのですね。

N 神仏の世界が実現すると、残念ながら今存在しているいくつかの職業は消えてゆくことになります。魚を苦しめる道具を作っていた方々は、神仏の教えに出合って考え方が変わり、魚を喜ばせる道具、

たとえば、川や湖や海の水質を綺麗にする道具を作る職業に変わってゆきます。趣味で魚釣りをやっていた方々は、これらの転職した方々に協力する水質検査員になったり、あるいはこれらの方々の生計が保てるよう、商品をピーアルしたり買うなど協力するようになります。

人は安い商品を求めて買い物をいたします。しかし、神仏は潰れそうな店で買い物をして、その店の生計が保てるように協力するのです。誰もが生活に困らないようにと願い、よりお金を必要とする店でお金を使うのが神仏なのです。これが、神仏が描く理想・真理の世界なのです。だから、理想の世界が実現することによって、職を変えざるを得ない方々が続出しても、それが真に理想の世界ならば摂理の働きにより、これらの方々は転職しても必ず食べてゆけると、私は信じているのです。

6 願い・祈り

神社や寺で人は様々な願いごとを唱えます。健康・交通安全・繁栄・良縁・合格など、自分のことや家族や自国の幸せを中心に願います。真理は時に耳に痛いものですが、あえて皆様に申し上げます。神仏に向かって自分や家族や自国のことを願ってはいけないのです。それはなぜか？ 理由はこの行為は、周りの人々や国々の幸せに繋がっていないが故に、やがて争い・不協和・無秩序の世界を招く恐れのある反真理的行為そのもので、かつこのような行為を続けていたのでは、己の霊格（人格）向上を全く促すことがないからです。なので、反真理的行為は本願的ほんがんできな願いが叶わないように摂理が働き、争いと混乱と不幸と悪意に満ちた現在の地上世界（家庭・学校・職場・国家）のような反真理的世界が自動的に創造されてしまいます。

それに、願わなくとも、神仏は我々が何を望んでいるのかわかって

いるからです。他人の幸せを願えるか・祈れるか、これが神仏から問われている永遠のテーマ・課題なのです。人の幸せをまず祈れる心・真理的行為の実践者にふさわしい心になったかどうか、神仏は我々の心の紋様を観ているのです。

無病息災・家内安全・交通安全のお札を頂いてしまったときは、そのお札の前で、知人の O さん宅が、P さん宅が、Q さんの母国民が幸せに暮らせますようにと願い・祈るのです。こう真摯に祈った方で、O・P・Q さんとその家族や国（や民族）に危害を加える方はいない筈です。だとすれば、このような祈りの輪が世界中に広まったとき、犯罪や争いは激減し、自然に摂理の働きに乗って、神仏がそして周りの人たちや国々が、自分や家族や自国（や民族）を守ってくれるのです。これが、神仏が描く理想・真理の世界ですから、真理的行為は願いが叶うように摂理が働きます。

そして、反真理的行為と真理的行為が齎す結果の違いの大きさに、人類は気付くべき時期にきているのです。

7 天地不書の教典

R さんと S さんの会話です。

R S さんはいろいろな教典を読まれています、どの教典が最も素晴らしいと思いますか？

S どの教典も読めば必ず学ぶところがありますので、どれも素晴らしいと思います。ですから私はどれが一番だと言うことはできません。

私は人生で出合う様々な問題の解決方法の糸口を掴もうとして教典を読むようになりました。ある教典を昨日までに 100 ページ読んだところで、1 つの問題・壁（自身の悩みや人が抱えている悩みをいかにして解決したら良いかと言う問題）に突き当たったとします。そのと

き、解決の糸口が掴めるよう、神仏に祈りながら昨日まで読んでいた教典を開き 101 ページから読み進めます。すると、そこに問題解決のヒントが書かれていることを良く経験します。だから私は、教典に書かれている意味を、身を持って経験する形で、体で学んできたのです。また、このことから、目の前に訪れる現象は、私の心を浄め、かつ鍛えるために神仏が創り出していると思えてならないのです。

一番素晴らしい教典はこれだと言うことはできませんが、どの教典にも決して引けをとらず、そして誰もが最後に辿り着く教典があると思います。

R それは興味ある話です。何と言う教典ですか？

S 「天地不書の教典」と言います。

R 初めて聞く名前です。どんな教典なのですか？

S この教典は、これですと言って手渡すことはできないのです。「天地不書の教典」とは「今まで、教典（文字）に書き記すことのできなかった天地・大自然・宇宙の教え」あるいは「今まで、教典（文字）に書き記すことのできなかった教えを、天地・大自然・宇宙・目の前に訪れる現象から学び取りなさい」という意味です。ですから、この教典は無限の広がり・知恵を持っているのです。

8 閻魔大王

T さんは死後の世界のことが気になってしかたがありませんでした。天国や地獄は在るのか？ 死んだら 1 人ひとり閻魔大王の裁判に掛けられるのか？ と言うことを。**T** さんがこのようなことで悩んでいたら仏が現れました。以下は **T** さんと仏の対話です。

T 仏さん。死後の世界のことを教えてください。

仏 死後の何を知りたいのですか？

T 天国や地獄は在るのですか？

仏 天国や地獄は、過去世でも現世でも死後でも来世でもいつでも存在しているのです。なぜなら人の心の中に存在するからです。

T ふーん。わかるようなわからないようなと言うのが正直なところ
です。では、閻魔大王は居るのですか？

仏 閻魔大王も、過去世でも現世でも死後でも来世でもいつでも存在
しているのです。

T 何億人もの人々の一生をすべて見通して、しかも善悪の判断を間
違いなく^{くだ}下すことが可能なのでしょうか？ 1人の閻魔大王がこれら
の作業を^{こな}熟せるもののでしょうか？

仏 人はそれぞれ、自身がどのような行為、あるいはどのような思い
を抱いて人生を過ごしてきたかわかっているのです。つまり T さんの
行為を生まれたときから死ぬときまで^も漏らさず監視している者がいる
のです。それは T さん自身です。人の心の奥底には^{ぶっしょう しんせい}仏性（神性）があ
るのです。この仏性の中には、^{ぼうだい}膨大な神仏の愛と知恵と勇気が漏らさ
ず完全に^{そな}備わっているのです。^{ぼんのう くも ゆえ かく}煩惱の曇り故に隠されているだけです。
ですから、この仏性は善悪の判断を正しく下すことができるのです。
1人ひとりにこの仏性があるわけですから、1人の閻魔大王がすべて
の人々の人生を監視する必要はないのです。1人ひとりの仏性が、そ
の人を裁くのです。閻魔大王とは、1人ひとりに備わった仏性それこ
そが、その正体なのです。

第 8 章

真理とは？

1 鬼を仏に、サタンをサンタに変える

U さんが、教会で行われた修行に参加した時のことです。女性の参加者（V さん）が 2 階から落ちて病院に運ばれると言う事故が起きました。参加者全員が講堂に集められ、事故の模様について、教会長から説明がありました。その説明によると、V さんは難病を抱えながらこの修行に参加されたとのことでした。病状は決して良い状態ではなく、この修行に耐えられるかどうか、周囲の方々も心配だったそうです。しかし、V さんの母が自宅で供養中に、今は亡き V さんの祖母の霊が現れて、V さんをぜひこの修行に参加させなさいと話されたそうです。もし、この修行に参加させなければ、V さんを祖母の世界（あの世）に連れてゆくと話されたそうで、V さんの健康状態を承知で参加させたそうです。

このような^{いきさつ}経緯が説明されました。周囲の方々が V さんを見守る中、一瞬の^{すき}隙を突く形でこの事故が起こったのです。病院へ運ばれた V さんは、今、意識不明の状態とのことでした。

教会長の呼び掛けで、V さんが元気になるよう、全員で祈願することになりました。U さん自身も難病を抱えながらこの修行に参加していました。しかし、U さんは、自分よりも^{はる}遥かに苦しんでいる人がいて、この人は今、意識不明の重体に^{おちい}陥っていることを知ったのです。この祈願を通じて、U さんは悟ったのです。自分は未だに救われていなくとも、人の幸せを祈ることも、救うこともできるということを。U さんは「これまで積んできた徳分のすべてを V さんに^{えこう}回向しますから、この徳分を使って V さんを元気にしてください」と神仏に祈った

のです。すると、Vさんの祖母（Wさん）の霊がUさんに語り掛けてきました。以下は、UさんとWさんの対話です。

W 私は直接あなたに語り掛けることはできません。だから仏にお願いして、許しを得て、力をお借りして、今あなたに語り掛けているのです。

あなたに、孫の病氣平癒^{へいゆ}の祈願をして頂きたかったのです。だから、私は多くの人たちに働き掛けて、孫をこの修行に参加させたのです。

U なぜ、お孫さんを2階から落とすようなことをなさったのですか？

W あなたの祈願を受けることができるチャンスは数百億年に一度しか訪れないのです。ですから、こうでもしなければ、あなたの祈願を受けることができないと考えたのです。

U 罷り間違^{まか}って、打ちどころが悪ければ死んでしまう危険もあったのではないですか？

W あなたの祈願を受けたいと言う私たちの願いは、命懸けであったことを知って頂きたかったのです。あなたは、鬼を仏に、サタン（悪魔）をサンタ（サンタクロースやサンタマリアのような天使・聖人）に浄める力・霊力^{れいりょく}を持っているのです。

人は死ねば、人の心の紋様を観ることができるようになります。したがって、その人の悟りを吸収することができるのです。身なりの質素な高僧に祈願して頂くほど、彼岸^{ひがん}・悟りの世界に辿り着き易^{やす}くなるのは、このためです。私はあなたの輝く温もりのある魂に触れ、誰にも未だに説かれていないあなたの悟りをすべて吸収し、成仏することができました。

U 私は、自分自身の心の鬼やサタンを抑えることで精一杯で、とても他人^{ひと}の心の鬼やサタンを浄めることなどできる自信はありません。

W 自分自身の心の鬼やサタンを抑えることで良いのです。それで十

分なのです。そのような謙虚^{けんきょ}なあなたに、不成仏霊たちは祈願を受けたいのです。それにあなたは今、自分は未だに救われていなくとも、人の幸せを祈ることも、救うこともできると言うことを悟ったばかりではないですか。どうか孫にあなたの愛を放射してください。

U はーい。

2 真理

X さんと仏の対話です。

X 仏さん。名前の画数で、その人の因縁^{いんねん}・過去・未来がわかるというのは、真理ではないのですか？

仏 X さん。真理とはどのようなものだ^と天地宇宙から学んでいますか？

X いつでも、どこでも、誰にでも、平和と調和と秩序を目指して平等に作用するものです。

仏 そうです。真理とはそのようなものです。では、この観点で捉えましょう。

トムさんと言う人がいます。日本に居るときは、トムと書き 4 画です。トムさんの母国に居るときは、TOM、Tom、THOMAS、Thomas と様々な形で書かれます。さらに多くの国々では、文字の画数と言う概念が存在しないのです。なぜなら画数は漢字検索を容易にするために生まれたもので、アルファベットは、画数から検索する必要がないからです。したがって、トムさんの名前の画数は存在しないと言えるのです。だからトムさんの名前から因縁等を占えると仮定したとき、これが可能なケースは、日本に居てトムと書いた一瞬だけなのです。日本人と日本国土以外の人と地域では当て嵌^{はま}まらない狂^{きやう}氣^き的^{てき}な捉え方なのです。このようなことから、名前の画数で因縁等が分かるという

のは真理の条件である、いつでも、どこでも、誰にでも、（平和と調和と秩序を目指して）平等に作用すると言ういずれの条件も満たしていないのです。

だから、モーゼも釈尊もイエスもマホメットも真理の預言者はいずれも、名前の画数から因縁等が分かるというお馬鹿なことは説いていないのです。それに、真理は漢字が生まれる^{はる}遙か前に、存在・完成していたのです。つまり、真理には、漢字や画数は考慮されていません。

X 画数に^{こだわ}拘ることがいかにお馬鹿で、かつ人生と世の中を滅茶苦茶にする反真理的行為であるかが良くわかりました。

3 世襲^{せしゅうせいど}制度

Yさんと仏の対話です。

Y 仏さん。多くの宗教宗派では、世襲制度をとっていますが、これは宗祖の一族が、教団を私物化することに繋がるのではないかと思うのです。だから、宗教宗派で行われている世襲制度は^や止めるべきではないかと思うのですがいかがでしょうか？

仏 世襲制度に善悪が存在するのではないのです。世襲制度をとることを決めた方々の心の紋様が大切なのです。問題なのはむしろ、^{ぎょうぎょう}仰々しい建物をいくつも作り、これを維持するために、^{むく}無垢な信者たちからお金を巻き上げ続けていることと、修行と^{しょう}称し、施設の管理・清掃・草刈りなど^{どれい}奴隷^{ごと}の如くタダ働きさせている^あ悪しき体質です。世襲制度をとることの^{ぜひ}是非は、心の紋様を観ることのできる神仏たちに^{まか}任せることです。Yさん、あなたは、このことに^と捕らわれてはなりません。

Y わかりました。仏さん。いくつか質問しても良いですか？

仏 良いですよ。何ですか？

Y 釈尊は、死後の（釈尊）教団の行く末を息子の羅睺^{らごら}羅ではなく^{まか}摩訶

迦葉^{かしょう たく}に託したのはなぜですか？

仏 羅睺羅は釈尊の十大弟子の 1 人と言われるほど、偉大な修行者でした。しかし、釈尊が言葉に表現できない真理を花に託し、これを翳^{かざ}したとき釈尊の言わんとすることを理解したのは迦葉だけだったのです（拈華微笑^{ねんげ みしょう}）。釈尊の目から観て教団を託すのに値する者は、迦葉を置いて他にはいなかったのです。

釈尊には、実子で在ろうとなかろうと、そのような捕らわれはなかったのです。ですから、もし羅睺羅のみが花に託した真理を悟っていたならば、教団を羅睺羅に託していたでしょう。

Y 現在、世襲制度をとっている教団が、これを定めている条文を削除したら混乱しますか？

仏 信徒 1 人ひとりが真理に目覚め、成熟した教団であれば混乱しません。そうでない教団は混乱して分裂し、やがて消滅してゆくことになります。自然淘汰^{とうた}と言う摂理で、社会に有意な結果・状態になろうとする大自然の自浄作用です。

Y さんと仏の対話はさらに「4 法を説く」へ続きます。

4 法を説く

Y 私は、世襲制度をとっていない教団で学ぶべきなのでしょうか？

仏 世襲制度に拘^{こだわ}ってはいけません。万物があなたの師匠^{ししょう}なのです。拘りを持たずに、あなたが学びたいと直観した教団の門を叩^{たた}き様々な教えを学んで、その中に含まれている真理と反真理を識別して整理し、あなたなりに修正を加え、真の神仏の教えを確立してゆくのです。

なお、あなたは世襲制度をとっている教団では、法を説いてはいけません。そのような我欲に染まった教団で、あなたが高遠^{こうえん}な法を説けば混乱を招き、その結果心ない無知な信徒から反発を買って、あなた

が不愉快^{ふ ゆ かい}な思いをされるのではないかと心配です。ですから、そのような教団はそっとして置き、摂理の働きに任せておけば、やがて消滅してゆきます。

Y 私はどのようなところで法を説けば良いのですか？

仏 説く時期も場所も、そのときがきたら私が教えます。そのときは、私を念じて法を説いてください。そうすれば、話すべき言葉は私が授けます。ただし、あなたが目覚^{め ざ}めるまでですけど。

なお、法を説くときに注意すべきことがあります。

Y それは何ですか？

仏 命懸けで法を説いてはいけないということです。命を懸けて法を説けば命懸けで阻止され、多くの人々や教団と衝突することになるからです。これまで、多くの教団の教祖や信徒が命を懸けて布教してきました。迷える衆生^{しゅじょう}を救いたいとの思いで自らの命を捨てて法を説いてきたのです。この行為が贖^{もたら}した福德は膨大です。

しかし、この反面、命を懸けた布教は、既存の宗教と衝突し、聖地を巡^{めぐ}ってキリスト教とイスラム教が何度も争いを繰り返して多くの血を流してきたと言うような悲惨な地獄絵を作りあげてきたのも事実です。宗教間の争いが善良で罪なき人々をこの渦中^{か ちゅう}に巻き込んではいけません。これは、最も罪深い反真理的行為の1つです。だからあなたは、命を懸けて法を説いてはならないのです。

真理は万有引力の法則のようなものです。宇宙が誕生したときから存在していたのです。ただ、人々が気付いていなかっただけです。万有引力の法則が発見されてからは、ニュートンがこれを命を懸けて説くことがなくとも、自然に地球の隅々に広がっていったのです。このように、真理とは発見されれば自然に広まってゆくものなのです。だから命を懸けて説く必要はないとも言えます。

あなたは人から法を求められたら「大きい方、好ましい方、楽な方

を人に譲りましょう。そうすれば太陽のように輝いた人生を送ることが出来ます」と、説けば良いのです。これが真理であれば「箸^{はし}良く盤^{ばん}水^{すい}を回す」のたとえの如^{ごと}く、やがて地球の隅々に広がってゆきます。真理でなければ自然に淘汰されてゆきます。淘汰されていったならば悪法を世に広めなくて良かったと思ってください。後は自然に任せ、カラオケとコメディ映画とハイキング^{さんまい}三昧の人生を心行くまで楽しんでください。あなたに救われたい意志があるかどうかは人類に任せることです。

あなたが説く法に理解を示してくれる人は老若男女^{ろうにやくなんによ}を問わず良き友人です。友人にも言ってください。「命を懸けて法を説けば必ず人と衝突し争いが生まれます。真理は自然に広がってゆくものです。ですから、人と衝突してまで法を説くことは無いのです。求められたら説けば良いので、我々は思う存分人生を謳歌^{おう か}(♪あぁ歌が入っている♪)しましょう」と。

5 命を救う

Zさんと私の会話です。

Z 「第5章 5 償い」のところで、1人の命を救った福德はやがて膨大なものとなると書かれています、人の命を救うと言うと、川や海や酒で溺^{おぼ}れている人や、山で遭難^{そうなん}している人を救助することを連想します。しかし、このような場面に遭遇^{そうぐう}することは滅多^{めった}にないと思います。人の命を救いたいと思っていても、なかなか救える場面に遭遇できないのではないのでしょうか？

私 その気になれば、毎日人の命を救えるのです。ただ、真理を観る心を養わないと、どのような行為が人の命を救っているのか観えてこないのです。一見無色透明だと思える行為の中に、実は神仏の目から

観れば、人の命を救っている行為が日常至るところに存在しています。

同様に人の命を奪^{うば}っている行為も日常至るところに存在しています。

Z たとえば、どのような行為が人の命を救うことになりますか？

私 いくつかの例をあげれば、次の①～⑩の行為です。

① お腹を空^すかしている人々に食べ物を提供することは、その人々の命を救うことになります。

② 薬のないところに薬を届ける行為は、その地域の人々の命を救うことになります。

③ 衣服や毛布^{もうふ}のない人々に、これらの物資を届ける行為は、人々の命を救うことになります。

④ お金に困っている人々にお金を届ける行為、募金箱に布施する行為は、これらの人々の命を救うことになります。

⑤ 献血は人の命を救うことになります。

⑥ 潰^{つぶ}れそうな店で買い物をする行為は、店主と従業員と、その家族の命を救うことになります。

⑦ 気落ちしている人々に優しい言葉を掛けることは、それらの人々の命を救うことになります。

⑧ 職を失った人々を雇^{やと}うことは、その人々と家族の命を救うことになります。

⑨ 道路に落ちている障害物を取り除く行為は、ドライバーと歩行者の命を救うことになります。

⑩ 戦争を止^やめるよう、呼びかける行為は、その地域の人々の命を救うことになります。

たとえてあげれば切^{きり}がないほど、人々の命を救う行為は身の周りに存在しているのです。

しかし、大変申しあげにくいのですが、食べ物に困っている人々も、薬がなくて困っている人々も、衣服や毛布がないために困っている

人々も、お金に困っている人々も、潰れそうな店の主^{あるじ}たちも、気落ちしている人々も、職を失った人々も、戦争を行っている人々も、原因があってそのような現象で苦勞しているのです。その原因を知って生き方を修正して頂き、二度と迷いの世界に落ちないように、真理の世界へ導くことが、本当の意味で現世で溺れる人々の命を救うことになります。ですから「何とかな掛け橋と言う本」を薦^{すす}めることも1つの方法かもね。

Z ああ。さりげなく営業活動してるーう。

私 著者兼営業マンだからね。

6 仏の子

A さんと私の会話です。

A 「第4章 3 蝶」のところで登場する、神仏の教えを悟った蝶から産まれた青虫はなぜ再び、花々の葉を食べ尽くそうとするのですか？

私 青虫に聞いたわけではありませんので、あくまで私の意見・想像で話しても良いですか？

A もちろんそれで良いです。

私 たとえ話で説明します。

悟りを求めて修行中のBさんとCさんがいました。そして遂^{つい}に悟り2人とも仏になりました。この2人がドラマのような素晴らしい大恋愛の末にめでたく結婚してチューした結果Dさんが産まれました。Dさんは文字どおり仏の子です。このDさんに煩惱（怒り、愚痴^{ぐち}、嫉妬^{しつと}など）は存在するのでしょうか？

A おそらく誰にでも煩惱は在ると思いますから、Dさんにも煩惱はあるでしょう。

私　そうです。たとえ仏の子であっても神仏の教え・宇宙の真理を人から聞いて学び、自ら実践しない限り、悟れない（煩惱をコントロールできない）のです。

仏の子の D さんは、間もなく仏となった両親から神仏の教え・大法を学ぶことになりますから、速やかに悟り凛々しく、かつお茶目な仏になることができるでしょう。

同様に、悟った蝶が産んだ青虫にも煩惱が存在するのです。だから欲望の赴くままに花々の葉を食べ尽くそうとするのです。D さんと青虫の違いは、青虫には傍に親がいないということです。（青虫が卵から）孵化する頃には、親である蝶は死んでしまっているからです。この違いはとても大きいのです。しかし、神仏は決して青虫を見捨てないのです。青虫が蛹に宿っている間、神仏は真理を説き続けるのです。

仏の子も青虫も煩惱を持っていること。産まれたばかりの青虫には、悟った蝶が傍にいないこと。このため、青虫は神仏の教えに出会うまで花々の葉を食べ尽くそうとしてしまうのだと思います。こう考えると浪漫があり、真理を学ぶことイコール人生が楽しくなるのです。

7 仏が現れる

E さんと F さんの会話です。

E　仏が現れると書かれていますが、どのように現れるのですか？

F　実際にあったと言われる、とても有名な事例をお話しします。

『G さんと言う僧侶が、仏（G さんが求めたのは観音菩薩）の姿を観たい。そして仏からじかに教えを受けたいと願い、一大決心をして、山の庵に籠り修行を始めました。厳しい修行を始めてから 6 年が経過しました。しかし仏は G さんの前に姿を見せませんでした。G さんは失望し「自分は仏の姿を観ることができない運命なのだ」と考え、庵

を捨てて山を下^{くだ}り始めました。

すると、大きな斧^{おの}を懸命に磨いているひどく瘦^やせた老婆に出会いました。Gさんが「何のためにそんなに一生懸命になって磨いているのですか？」と尋ねると「針がないもので、斧を磨いて針にするんじやよ」と、老婆は答えました。Gさんはこの答えを聞いて驚きました。なぜなら、大男^{おおおとこ}ならまだしも、老婆の細腕では、生きている間磨き続けたとしても針を作ることは不可能だろうと思われたからです。おそらく老婆自身もこのことはわかっていたのです。しかし、針を作ると言う目標に向かって懸命になって磨き続けたいと言う思いが、そうさせていたのです。Gさんは仏を観たいと言う目標に向かって、この老婆ほど懸命ではなかったと言う己の至らなさを恥じ、再び山に戻ってゆきました。

更に3年が経過しました。しかし、仏はGさんの前に姿を見せませんでした。「やはり間違いない。私には仏を観ることは不可能なのだ」と、Gさんは考え、再び山を下り始めました。

すると、今度は、山ほどもある大きな岩を鳥の羽で懸命に払っている老人に出会いました。Gさんが「何をやっているのですか？」と尋ねると「この岩が邪魔^どしていて、わしの家に日が当たらんので、退かそうとしているんじやよ」と、老人は答えました。Gさんはこの答えを聞いて驚きました。なぜなら、青年ならまだしも、老人が生きている間、岩を払い続けたとしても退かすことは不可能だろうと思われたからです。Gさんは仏を観たいと言う目標に向かって、この老人ほど懸命ではなかったと言う己の至らなさを恥じ、再び山に戻ってゆきました。

更に3年が経過しました。しかし、仏はGさんの前に姿を見せませんでした。「もう止めにしよう。望みはない」と、Gさんはそう決心し、山を下りました。そして、ある町に入ってきました。

すると、道端に、ひどい怪我を負って今にも死にそうなほど弱った状態で倒れている犬がいました。傷口から膿が流れ、蛆が湧いていました。Gさんは非常に哀れに思い、その蛆を1つひとつ摘まんで犬から取ってやり始めました。摘まんだ蛆の1匹をGさんは誤って指で潰してしまいました。「指で摘まもうとすれば、今度は蛆を傷付けることになってしまう」と考えたGさんは、自分の舌ですくい取るしかないと思い、膝をついて舌を伸ばしました。その舌が蛆に触れた瞬間でした。犬の姿が消え、そこに光に包まれた仏が現れました。

遂にGさんは仏の姿を観ることができたのです。Gさんは仏に尋ねました。「どうして今まで姿を現してくださらなかったのですか？」と。仏は優しく答えました。「私は常にあなたの傍にいたのです。しかしあなたの心の汚れが、私の姿を見えないようにさせていたのです。あなたは12年の修行を経て、心が浄められ、犬も蛆も救おうとした慈悲心によって私の姿を観ることができるようになったのです」と』。

F 仏は常に私たちの周りに居られるのです。しかしGさんのような心境にならないければ決して観ることができないのです。

怪我を負ったペットの犬や猫の傷口を消毒するときに命を奪われる細菌がいることを知るべきです。1つの命を救うために多くの命が犠牲になる実相・真理の世界を知り、奪われる命の冥福を祈らなければならないのです。

米を作るときには、除草剤、殺虫剤、殺菌剤を散布します。ですから、米1粒の上に犠牲になった多くの草花や虫たちや細菌たちの命が存在することを知り、これらの命の冥福を祈ることが大切です。犠牲にならないければやがて無数の子孫を残せた筈だからです。冥福を祈るとは、犠牲になった命を活かすような生き方を我々がすることです。

私はこのような心境になったとき、白金色の光に包まれた仏の姿を

観る（五感全体で仏の存在・温もりを感じ取る）ことができたのです。

私 舌で蛆を払うことは、私には絶対に無理無理無理です。ここだけの話ですが「第3巻」で登場する五霊たちも「無理です」と言っています。ですから、皆様も実践しようとして、このような状態になった犬や猫を探し求めるのは止めた方が良いでしょう。なかなか見つからないから疲れると思いますので。

E そういう問題かよ！（＝実践難度の力点^{りきてん}はそこじゃないだろー）

8 来世 その1

来世はどのようにして決定されるのかを H、I、J さんが、それぞれ仏に尋ねました。

[H さんの問い]

H 仏さん。来世はどのようにして決定されるのですか？

仏 たとえ話で説明します。

K さんと L さんが死んで私の前にきました。

仏 K さん。来世は虫に生まれてみませんか？

K 虫ですか？ もし、虫に生まれるのであれば、最も力を持った虫の王様となって生まれてきたいです。

仏 わかりました。私は自由にあなたの来世を決定することができますから、望みどおり虫の王様として生まれさせてあげましょう。

K 仏さんは、私の来世を自由に決定できるのですか？

仏 できます。

K それじゃ、もう少し考えさせてください。

仏 良いですよ。

K 良く考えたら、どんなに強い虫でも、鳥に食べられてしまいますから来世は鳥が良いです。しかも最も力を持った鳥の王様となって生

まれてきたいです。

仏 わかりました。

K いや、ちょっと待ってください。良く考えたら、鳥は狩人^{かりゆうど}に打ち落とされる危険がありますから鳥に生まれるのは損です。

仏 それじゃ、狩人の王様に生まれますか？

K いや、狩人の王様でも、取った獲物の半分以上を領主である王様に納め^{おさ}なければなりませんから、人間の王様となって生まれてきたいです。

仏 狩人も人間ですが、(すべての) 人間の王様となって生まれることで良いですね？

K 良いです。人間の王様であれば、好きなときに狩人の王様の獲物を取ることも、鳥の王様を捕まえることも、虫の王様を踏み潰^ふすことも自由にできます。何をやっても裁かれませんし、好きな法律を作ることでもありますから、来世は是非人間^{ぜ ひ}の王様に生まれるようお願いします。何かワクワクしてきました。来世が待ちどうしいです。

仏 わかりました。ところで、LさんもKさんと同じように来世は人間の王様で良いですか？

L 私は修行者に食べられる鳥に生まれたいです。

仏 ほー。それはどうしてですか？

L 私が山で修行していた時のことですが、とてもお腹が空いて死にそうになったとき、鳥が自ら焚き火の中に入ってきたのです。私はこれを食べて命を繋^{つな}ぐことができたのです。修行者も食べなければ修行を続けることができないのです。だから、修行者に食べられる鳥に生まれてきたいのです。

仏 そうですか。それじゃ、鳥に生まれさせてあげましょう。

L いや、ちょっと待ってください。良く考えたら、鳥も虫たちを食べなければ生きてはゆけませんから、鳥たちに食べられる虫に生まれたいです。できれば、鳥に食べられる子孫をたくさん産んでから鳥に

食べられて死んでゆきたいです。

仏 わかりました。それでは、虫の王様に生まれさせてあげましょう。

L え！ 仏さん。虫の王様なんて言ってませんよ。

仏 そうですか？

L そうです。大きな虫は、小さな虫を食べて生きていますから、虫の中でも最も弱い、虫にも食べられる弱虫^{よわむし}に生まれるようお願いします。

仏 うーん。弱虫には参りました。弱虫と言うのは人間なのです。

L では、泣き虫に。

仏 それも人間です。ですから、Lさん、弱虫と詰めて読むのではなく、弱い虫あるいは弱い昆虫類と読み替えてよろしいですか？

L 仏さんを悩ますことは私の本意ではありませんので、それで結構です。

仏 わかりました。Kさんは人間の王様に、Lさんは最も弱い虫に、望みどおり生まれるようにして差しあげます。

仏 Hさん。もし、あなたが仏であったならば、このたとえ話に登場するKさんとLさんをどのような来世の世界に誕生させますか？

H 私が仏であったならば、Kさんを最も弱い虫に、お茶目なLさんを人間の王様に生まれさせたいです。

仏 私もそうします。このように、人の来世は、その人の心の紋様を観て、仏が決定するのです。本人の希望どおりにはゆかないのです。

[Iさんの問い]

I 仏さん。来世はどのようにして決定されるのですか？

仏 次のような話で説明します。

川の中には魚や昆虫の幼虫など様々な生物が棲息^{せいそく}しています。綺麗な川には、ヤマメやカワゲラの幼虫やサワガニが棲息しています。汚

れている川には、^{ふな}鮒やドジョウやヒルが棲息し、さらに汚染が進んだ川には、イトミミズや細菌類のミズワタが棲息しています。生物たちは、自分が^す棲み^{やす}易い水質を選んでいるのです。汚れている川に棲息している鮒やドジョウやヒルにとって、今住んでいる水質が天国なのです。これよりも、綺麗になったり、汚染が進んだりすれば彼らにとって棲みにくい地獄の世界になってしまうのです。

同じように、人の来世は自分で好きな世界を選んで転生・再生してくるのです。

天国の住人にとって地獄は文字どおり地獄なのです。天国の世界は、大きい方、好ましい方、楽な方、たとえば領土や財産や名誉やテレビのチャンネルや喜びや幸せを譲り合う世界ですから、地獄の住人にとって天国は耐えられない地獄の世界なのです。だから、来世はその人の心の紋様に応じた世界に自然に転生して来るのです。来世を決定するのは自分自身の意志であるとも言えます。

[Jさんの問い]

J 仏さん。Hさんへの答えとIさんへの答えは矛盾しているのではないですか？ 本当は、来世はどのようにして決定されるのですか？

仏 「第2章 4 自分」のところで書かれているように、自分と言うものの実相は全宇宙であることに気付けば、どちらも全宇宙内で現象化するバリエーションの中に^{ほうかつ}包括されていますので、このような観点で^{とら}捉えれば何ら矛盾しません。つまり、世界の平和のため、そしてその人の幸せと^{れいかくこうじょう}霊格向上を^{うなが}促すため、最も良いと判断される世界へ人々を転生させているのです。誰が、そうさせるのか？ 宇宙に存在するすべての魂であると言えます。この魂の集合体の実相は何か？ それは、真理・摂理・自然界の法則です。ですから、これらが、人々の現世で行った^{きせき}軌跡を正確に裁いた上で、来世を決定するのです。

第 9 章

来世は仏に任せる

1 太陽のエネルギーが毒物に変わる

M さんと私の会話です。

M 「第 1 巻」の各節に書かれている内容から、それぞれ神仏の教えを読み取ることができるのですが「第 4 章 5 牛乳を川に流すとなぜ汚れるの？」のところでは、牛乳が川を汚すメカニズムが書かれているだけです。このメカニズムは日常誰もが目にする光景ですから、子どもでも知っていることだと思います。この節だけ神仏の教えに触れていないのはなぜですか？

私 神仏の教えは、日常誰もが目にする光景のように当たり前の事柄で無色透明なのです。

確かに、ここに書かれていることは、子どもでも知っていますから、改めて人に説く必要はないかも知れません。しかし、牛乳が川を汚す〔理由 2〕は、川の汚れを深く研究している人ほど新鮮に感じるのではないかと思います。

私は「牛乳のように栄養価（価値）のあるものほど、腐敗し易いので、新鮮なうちに飲んで欲しいと言うこと。と、栄養価のあるものほど、腐敗すれば、毒性は強いこと」を知って欲しかったのです。

そして、この中に含まれている神仏の教え・実相・真理の世界を読者の皆様方に、自ら悟って頂きたかったのです。人から聞いて悟るより、自ら悟った方が感動もしますし、身につくものだからです。このように考えて、神仏の教えに深く触れずに、さらっと牛乳を川に、いや、「天の川（^{あま}^{がわ} Milky Way）」に流したのです。



M どのような教えが含まれているのですか？

私 この中に含まれている教えを悟り己の生き方を修正する

ことができれば、様々な難病や悩みを克服できるばかりでなく、世の中に平和と調和と秩序を取

り戻すことができるのです。なぜなら、これが神仏の教えの^{こんかん}根幹・真髓の1つだからです。ですから、ぜひMさん自身に悟って頂きたいのです。

M わかりました。悟れるよう修行してきます。

それから、100日が経過しMさんが私のところへきました。

私 Mさん悟ることができたようですね。

M はい。ものが腐ると言う現象の中に深い神仏の教えが含まれているとは思っていませんでした。これを悟ったときの感動は一生忘れないと思います。悟った内容は次のとおりです。

お金は様々な物を買うことができますから非常に価値のある物、便利な物です。お金の栄養価が高いほど、つまり金額が大きいほど腐り易いのです。この場合の腐るとは、周囲の環境や自身の心の環境・状態が悪化することを言います。この地球上に存在するお金の総額・価値は有限です。1人の人がお金を手元に集めれば集めるほど、周囲にお金は回らなくなり周囲の環境は悪化します。同時にその人の^{よくしん}欲心が増大してゆきますから、心の環境も悪化すると言えます。集めた金額が大きければ大きいほど、お金が齎す毒性は強まります。ですから、

新鮮な内に牛乳を飲み干すように、世の中のためにお金を使うことが大切なのです。

この世の中で最も栄養価・価値の高いものは太陽のエネルギーです。太陽の恩恵なしに生きることができないことは、誰もが知っていることです。食べる物、着ている服、すべて太陽の恵みです。本自体も太陽の恵みで作られていますから、学校で学んだ知識・思想・概念、習得した技術も太陽の恩恵を受けています。私たちは、太陽のエネルギーを昼も夜も全身に受け、吸収しているのです。つまり、太陽のエネルギーは、様々な形で私たちの体内に取り込まれているのです。受け取った太陽の恩恵・エネルギーは呼吸のリズムのように、世の中に恩恵を齎すエネルギーとして還元・回向しなければ体内で腐敗し、最も栄養価の高い太陽のエネルギーは、最も毒性の強いものになるのです。

太陽のエネルギーが腐敗して作られた毒素は、体内の臓器や内壁を痛め、潰瘍や癌^{がん}を誘発します。気管を痛めれば気管支炎や喘息^{ぜんそく}を引き起こします。血液を痛めれば様々な血液の病気を引き起こします。太陽のエネルギーを受けて、活性酸素が作られ、体内で様々な悪さをするのもこのためです。真理は時に耳に痛いものですが、太陽の光を浴びると病気を発症してしまう人たちは、受け取った太陽の恩恵・エネルギーを世の中に還元しなさいと言う神仏の教え・大自然の摂理に反しているからだと思うのです。ですから、このことに気づき己の心を修正し真理的行為を実践すれば、地上に蔓延^{はびこ}っている病気の大部分は克服できると考えます。

価値のある神仏の教えも腐敗し易いのです。強烈なエネルギーを発している「第1～8章」も読んだだけでは、あなたとの価値観の違いを痛感するだけで、読めば読むほど混乱してきて、毒書にしか感じられませんでした。100日間実践して初めて本の価値が理解できたので

す。

新鮮なうちに・速やかに飲むと言うのは実践することだったのです。
法華經第 16 章如来寿量にょらいじゅりょうの中の老医ろういのたとえ話もこのことを説いていたのだとわかりました。つまり、体中からだじゅうに毒素が回って苦しんでいる子どもたちは、受け取った太陽のエネルギーを世の中に還元していない衆生しゅじょうのことだったのです。老医が与える薬が神仏の教えです。この薬を飲むとは、実際に飲む・実践することだったのです。

さらに、100 日修行を経て再び M さんが私のところへきました。

M 行ぎょうじれば行じるほど、ものが腐ると言う現象の中に無限に広がる神仏の教えが含まれていることに気付かされるものです。たとえば、
① 首相や大統領や国務大臣などの国の指導者が悪事を働けば、良い子たちはがっかりします。

② 知事や市町村長や議員などの地域の指導者が悪事を働けば、住民はがっかりします。

③ 社長や重役などの会社の指導者が悪事を働けば、会社の存続は窮きゅう地に立たされます。

④ 多くの警察官や刑務官が悪事を働けば、国や刑務所内の秩序は崩壊ほうかいします。

⑤ 校長先生や生徒会長が悪事を働けば、学校・生徒は混乱します。

⑥ 先生が「天は人の上に人を創らず、人の下に人を創らず」の真理に反することを教えていたのでは、生徒は不幸ですし、そのような国の未来は暗黒です。

⑦ 頭の良い人たちがその知恵を悪事に使えば、社会は滅茶苦茶です。

⑧ 世界の平和を祈る宗教が、争ったり、人を騙だましたり、お金を巻き上げたり、信者たちをタダ働きさせたり、宗祖しゅうそを崇拜すうはいさせたり、幹部たちが 2 号さんを作ったり贅沢ぜいたく三昧さんまいの生活を送ったり、人を傷付けた

り、真理に反することを説いたりしていたのでは、神仏（特に五霊）たちは悲しみます。

⑨ 親が子どもを、子どもが親を傷付けるようになったら、人間関係は崩壊です。

⑩ ^{ブルータス}友人や愛する人から裏切られたときのショックは、大きいものです。

⑪ ^{もう}猛スピードで^{しょうとつ}衝突するほど、大きな事故になります。

⑫ 大きな飛行機ほど多くの人々を運ぶことができ便利ですが、^{つらい}墜落すれば^{だいさんじ}大惨事です。

⑬ 原油をたくさん積んだ船が無事に港に辿り着けば大きな福德を^{もたら}齎しますが、沈めば海洋汚染は深刻です。

このように「栄養価の高いものほど、腐れば毒性は強いということ」を、日常起こっている数多くの現象が語ってくれていたのです。日常の現象から学び取ることが、無数に存在していることを教えられました。

更に、現象には裏の側面が存在していることに気付きました。

私 それはどう言うことですか？

M 逆も真なりと言うことです。つまり、次のように言い換えることができます。

① 多くの悪人が善人に変われれば、社会はとても平和になります。

② 戦争を行っていた国々が戦争を^や止めて、戦争を行っている他の国々や地域に平和を呼び掛ける側に変われれば、世界はもっと平和になります。

③ 非行やいじめをしていた生徒が、他の生徒を思いやる気持ちを持つようになれば、学校と家庭の環境は見違えるほど良くなります。

④ ^{ごみ}塵として排出されていた廃棄物が有用なものに変われれば変わるほ

ど、人の心も環境も、より良いものになります。

⑤ 空き缶を投げ捨てていた者が、拾う者になれば、環境はより良いものになります。

⑥ とても貧しい人々・国々、とても困っている人々・国々、とても病弱な人々が、数多く救われれば救われるほど、理想の世界に近づきます。

⑦ お腹が空いているときほど、食べ物が美味しく感じます。

⑧ 喉が渴いているときほど、水が美味しく感じます。

⑨ とても苦しいときに神仏の教えに出合い救われた者ほど、深い信仰者になります。

⑩ 長い間子どもができることを願っていた夫婦の間に、子どもができたときの喜びはとても大きなものです。

⑪ 職場や家庭で暗く沈んでいる人や、いつも不機嫌な人が、明るく振る舞うようになればなるほど、職場や家庭全体が明るくなります。

⑫ 妻（夫）に乱暴だった夫（妻）が優しい夫（妻）になれば、子どもたちは笑顔になります。

⑬ 凶暴だった人が穏やかな人になれば、世の中はとても住み易くなります。

⑭ お金に対する執着心が強かった人が、お金を貧しい人々に布施するようになれば、誰もが豊かになります。

⑮ 怒りや憎しみが愛情になれば、世の中はとても平和になります。

⑯ 不信が信頼になれば、世界中の人々が皆友人となります。

⑰ 苦労が大きければ大きいほど、目標が達成されたときの喜びは大きくなります。

⑱ マイナスの程度が大きい数字ほど、その符号をプラスに変えたとき大きな数字になります。

このように「毒性の高い・強いものほど、これを有用なもの・価値のあるものに変えたときに齎される福德は膨大だ」と言うことです。

Mさんと私の会話はさらに「2 来世 その2」へ続きます。

2 来世 その2

M 「第8章 8 来世 その1」のところで、KさんとLさんが死んで仏から「来世は何に生まれたいか」と聞かれたように、もし私が仏から聞かれたら、私は「人間に生まれたい」と答えます。ただし、できれば弱虫と泣き虫じゃない人間がいいかな。

私 それは、なぜですか？

M 食物連鎖の頂点に位置しているのは人間です。ですから、すべての人間が仏のようになれば、地球上のすべての生物・命は救われます。人間を仏にできるのは、人間だけです。私は何度も人間となって生まれ、最も心の貧しい人たちを私の周りに呼び集め、そして共に心を浄める修行を行いながら、これらの人たちと皆で助け・支え合う仏の世界を作り上げたいのです。なぜなら、サタンをサンタに変えたときに齎される福德・平和は膨大だからです。このために私は人間に生まれたいのです。できれば「^{チュウ}虫」が付かない人間にね。

Mさんと私のやりとりを、N、O、P、Q、R、Sさんが聞いていました。

N 私がもし、仏から「来世は何に生まれたいか」と聞かれたら「Mさんのような修行者（菩薩のことです。以下同じ）の弟子となって働く人間に生まれたい」と答えます。

O 私は「来世は、MさんやNさんのような修行者の口に入る生き物となって生まれたい」と答えます。

P 私は「来世は、仏にお任せします」と答えます。

Q Pさん。それは、なぜですか？

P どの世界に生まれても世の中の役に立つ生き方ができるからです。人間に生まれたら、MさんやNさんのような生き方をしたいと思います。人間以外の生き物に生まれたら、Oさんのような生き方をしたいと思います。

たとえば、^{はえ}蠅に生まれたとします。やがて蠅はトンボに食べられます。トンボは鳥に食べられます。鳥が修行者の口に入って、立派に役に立つからです。

蠅がトンボに食べられなかったとします。そのときは、子孫をたくさん産みます。その子孫のいくつかはトンボに食べられやがて、・・・修行者の口に入って、立派に役に立ちます。

蠅がトンボにも食べられず、子孫も残さず死んでしまったとします。死んだ蠅は、^{あり}蟻や様々な微生物の餌になります。これらの、蟻や微生物は食物連鎖の流れに乗ってやがて修行者の口に入り、立派に役に立ちます。

だから、来世は仏にお任せしたいのです。

Q Pさんに幾つか質問したいのですが良いですか？

P 良いですよ。

Q 人生は思ったように進まないのではないかと思うのです。ですから、思い描いたように、Pさんが転生した蠅を食べたトンボが鳥に食べられ、その鳥が修行者の口に入る確率は非常に低いのではないですか？

P 必ず、修行者の口に入ることになっているのです。

Q そんな馬鹿な！

P 信じられないかも知れませんが事実なのです。

蠅を食べたトンボが鳥に食べられなかったとします。しかしそのと

きは、トンボは子孫をたくさん産みます。その子孫の幾つかは様々な鳥たちに食べられその鳥たちは世界中の修行者の口に必ず入るのです。トンボが鳥にも食べられず、子孫も残さず死んでしまったとします。死んだトンボは、蟻や様々な微生物の餌になります。これらの、蟻や微生物は食物連鎖の流れに乗ってやがて様々な生物に姿を変えて世界中の修行者の口に必ず入ります。

Q なるほど。さらに質問しても良いですか？

P 良いですよ。

Q 子孫は可愛いものです。ですから、子孫が修行者の口に入る光景を普通の親であれば想像したくないのではないですか？

P 生まれれば必ず死にます。ですから子孫には、修行者のような立派な人の役に立って死にたいと思えるような人（生物）に成って欲しいのです。

P さんと **Q** さんの会話はさらに「3 成仏」へ続きます。

3 成仏

Q 修行者が菜食主義者で鳥や魚等の動物を食べなかったら、蠅は食物連鎖の流れに乗っても修行者の口には入らないのではないですか？

P 必ず修行者の口に入るようにできているのです。

Q そんな馬鹿な！

P 信じられないかも知れませんが事実なのです。

蠅がトンボに食べられ、さらに鳥に食べられたとします。鳥はふんを地に落とします。これが植物・野菜の肥やしとなります。この野菜が修行者の口に入り、蠅は立派に役に立ちます。トンボに食べられなかった蠅、鳥に食べられなかったトンボは死んでやがて土に返ります。これが植物・野菜の肥やしとなります。この野菜が修行者の口に入る

のです。

Q 鳥が落としたふんで育った野菜が必ず修行者の口に入ると言う保証はないのではないですか？

P 必ず入るのです。

Q どうしてですか？

P 鳥が落としたふんで育った野菜が修行者以外の動物や虫たちに食べられたとします。その動物や虫たちは、ふんを地に落とし豊かな大地を作り野菜を育みます。その野菜がいずれ必ず修行者の口に入ります。

Q 鳥が落としたふんで育った野菜が修行者以外の人に食べられたらどうですか？ この場合は決して修行者の口に入らないのではないですか？

P うーん。この場合は修行者の口に直接は入りませんね。

Q とうとう修行者の口に入らないケースがありましたね。

P 口に入らなくとも、これと同等の福德を修行者に齎すのです。

Q えー！ どうしてですか？

P 鳥が落としたふんで育った野菜を食べた人の職業が物を作る仕事だったとします。作られた物は誰かの役にたちます。だから作って、その報酬^{ほうしゅう}としてお金をもらい生計を立ててゆけるのです。作られた物を受け取った人は、また別な福德を世の中に齎します。このような福德の連鎖の流れに乗ってやがて修行者へこの福德が辿り着きます。長い道のりを経たとしても、蠅やトンボや鳥や野菜は、必ず修行者の口に入ると言えるのです。

Q うーん。なるほど。参りました。でも、修行者の口に入ることに価値があるのですか？

P とても価値があるのです。

Q それはどうしてですか？

P 修行者は、口に入るものがここに辿り着くまで、どれだけ多くの生物の命等（Σ（虫、鳥、植物・・・人・・・日光、雨、空気、土、気温、風、時間、空間、堆肥、化学的 or 物理的 or 生物的反応・・・）＝大自然の全生命＋健全な環境）の介在^{かいざい}や、エネルギー等（労働力＋運搬機材＋燃料＋ライフラインの整備＋法令整備による社会の秩序など）が費^{つい}やされているのかを知っているのです。ですから深く感謝して頂き、これらの命を供養いたします。供養するとは、頂いた命・エネルギーを決して無駄にすることなく、同等のエネルギー・福德を世の中に回向^{えこう}するからです。このとき関わったすべての命（労働者を含む）が、世の中の役に立ったと言う満足感をもって成仏^{かか}する（あるいは生きながらにして仏と成る）のです。

PさんとQさんの会話は更に「4 地球上の生物」へ続きます。

4 地球上の生物

Q 皆さんから話を聞いて悟りに一步近づいた気がします。

P ところでQさん、来世は何に生まれたいですか？

Q 今は皆さんほど悟りの境地に至っておりませんので、今聞かれたら、人間の王様に生まれたいと答えるでしょうね。魚に生まれて、もし串刺^{くしぎ}しにされて焼かれたらと想像すると、ぞーっとします。

P 我々人間はそうやって、魚を食べてきたのです。ですから、自分は魚に生まれて食べられたくないと言うのは、魚に言わせれば人間の身勝手な話、わがままなのです。

Q Pさん。私もそれはわかっているのです。でも、今はとても魚に生まれたいとか、人の口に入る生き物に生まれたいとは心の底から思えないのです。

来世何に生まれたいかについては、しばらく修行してから答えます。

1 年が経過して、Q さんは P さんのところへきました。

P Q さん。悟られたようですね。

Q 本当に来世について悟ると言うのは、来世に捕らわれないことだと思います。しかし、来世は何に生まれたいかと言う問いに対して答えますと言いましたので、お答えします。「来世は、仏にお任せします」と答えます。

P 私と同じですね。

Q そうです。しかし、P さんは修行者の口に入ったり、役に立ったりと言う点を重視して居られたと思います。しかし、私は貧しい人や飢えた人の口に入る生き物に生まれたい境地なのです。人に生まれれば、貧しい人や飢えた人に食べ物を施し続けて一生を終えます。人以外の生物に生まれれば、食物連鎖の流れに乗って必ず貧しい人や飢えた人の口に入ります。どんな生物に生まれても必ず修行者の口に入ることができるのと同じように、必ず貧しい人や飢えた人の口に入りますから「来世は、仏にお任せします」と答えます。

P うーん、なるほど。私より深い悟り。参りました。教えられます。

Q 修行して気付いたことがあります。

P ほー。興味が在ります。それは何ですか？

Q この地球上の生物はすべて、我々（M～Q）のような心境になった者たちが転生している姿なのではないかと思える、いや、そう思うべきなのだと言うことです。

それにもう一つ気付いたことがあります。それは、もしかしたら、これが天地創造の実相の姿ではないかと思えると言うことです。

P 実は私もそう感じていたのです。

5 ご飯が燃える

RさんとQさんの会話です。

R Qさん。もし、Qさんのように貧しい人や飢えた人の口に入ることをお願い人ばかりになったら、人はQさんのような人を頼ってしまっ
て、自ら努力して働いて食べようとしなくなるのではないでしょう
か？ 貧しい人のところばかりに食べ物が集中してしまうのは決して
良い結果ばかり齎すものではないと思うのですが？

Q Rさんが心配する必要はないのです。なぜなら、自然の摂理が働
いて、Rさんが心配するようなことには決してならないからです。

R それはどうしてですか？

Q Rさん。私も心を浄める修行をして悟ったのです。店で自ら最も
古い物を買ったときの爽快感そうかいかんは格別かくべつです。潰れかかっている店の復興ふっこう
を願って、そこで買い物をしたときも心が洗われ、共に養い養われる
とはこう言うことだったのかと、本当の供養と言うものを理解するこ
とができたのです。

修行をして悟ったときの喜びはとても大きなものです。それに、修
行をしてRさん自身が悟って初めて、神仏の教えがRさんの血となり
肉となるのです。

R わかりました。悟れるよう修行してきます。

1年が経過して、RさんはQさんのところへきました。QさんはR
さんの姿を観て驚きました。実はRさんは病気をいくつも抱えていた
人で、がりがりと瘦やせた人だったからです。1年の間に観違えるほど
血色も良くなり、そして立派な体格となって戻ってきたからです。

Q Rさん。悟りましたね。

R お陰様で健康になりました。

自然の摂理が働くので、私が心配するようなことには決してならな

いことがわかりました。

Q 早速聞かせてください。

R 自然の摂理は2つ働きます。まず1つ目は「第1章 8 風が手本」のところで書かれているように、食べ物、たくさんあるところから不足しているところへ流れますが、貧しい人や飢えている人が満たされた時点で、風が止むように自然の摂理が働き、食べ物は必要以上には流れ込まないということです。

2つ目は仏教の盂蘭盆教う ら ぼんきょうと言う教典を紐解きながらお話しします。教典には次のように書かれています。

『釈尊の十大弟子の1人に神通力第1と言われた目連じんつうりきと言う比丘もくれん（男の僧侶）がいました。目連は神通力を使って死後の母の姿を観ました。すると、母は餓鬼の世界に落ちて、逆さ吊りにされた上、飲むことも食べることもできず、骨と皮になって苦しんでいました。そこで早速目連は、鉢はちにご飯を盛り、神足じんそくをもって母の元に赴おもむき、これを供えましたが、突然ご飯は燃えて灰となってしまう、食べることはできませんでした。目連は何度も母の元に百味ひやくみの飲食を運びましたが、その度に火を噴き上げて燃え、やがて灰になってしまうため、母は一度も目連の供養を受けることができませんでした。

母の嘆き悲しむ姿を観て、いたたまれなくなった目連は、すぐさま釈尊のみもとに詣もうで、ことの次第を、涙を流しながら申しあげ、教えを請うたのでした。

釈尊は優しく目連を諭さとしました。「そなたの母は、そなた可愛かわいさのあまり、他人ひとの子をさて置き、そなたのため、そなたのためと必死になって財産を蓄え慳貪けんどん（物惜しみすること）の罪を犯しました。この深き罪業故ざいごうゆえに餓鬼の世界に落ちたのです。そなた1人の力ではとても救うことはできません。7月15日に全国から多くの僧侶が集まってきます。この十方の僧侶たちに百味の飲食を供養し、母の成仏を祈って頂

きなさい」と仰^{おお}せられました。

目連は、教えにしたがって僧侶たちに供養を尽くしたところ、母は餓鬼の世界の苦しみから逃れ天界に昇ることができました』。

R 私はこれを最初に読んだとき、目連が供えた食べ物 なぜ母の前で燃えて灰になってしまうのかということと、目連が十方の僧侶に供養するとなぜ母が餓鬼の世界から逃れることができたのかということが理解できませんでした。しかし「第 1～8 章」を読みながら心の修行を続けてやっと理解できたのです。

Q どう理解できたのですか？

R 教典に書かれているように目連の母は、我が子可愛さのために慳貪の罪を犯し餓鬼の世界に落ちました。ですから、母は目連が自分に百味の飲食物を供養するのは当然である（親孝行や先祖供養をするのは当然である）と言う思いが心の中を支配していたのだと思います。このため、目連の供養を心の底から感謝して頂くことができなかったのだと思います。一方、修行を積んでいる僧侶たちは、目連から供養された食べ物は、ここに至るまでに多くの命を介していると言う実相を知っていますから、食べ物に対し、また目連に対し、目連を生み育ててくれた先祖方に対し、深く感謝しながら目連の供養を受けたのです。目連が供えた百味の食べ物は、母に供えた物も、僧侶たちに供えた物も同じです。供えたときの目連の思いは、母に供えたときの思いも、僧侶たちに供えたときの思いも、清らかさに関しては同じです。違っていたのは、目連の供養を受けた母の感謝の足りない心の紋様・実相を知らない心の紋様と、僧侶たちの感謝に満ちた心の紋様・実相を知った心の紋様との違いなのです。

目連が供えた食べ物は、太陽のエネルギーを受けて育ったものばかりなのです。仏の目を持って観れば、食べ物は太陽のように燃えてい

て当然なのです。仏は目連の母にこのことに気付いて欲しいために食べ物に燃やし、栄養のない灰に変えてしまったのです。目連の母は、僧侶たちの心の紋様を観て、己の至らなさを自覚して反省し、また実相・真理の世界を悟り、成仏することができたのです。

私はこのように解釈し、食べ物も、衣服も、あらゆるものが太陽のエネルギーを受けて育った・作られたものですから、その姿は本来太陽のように燃えているものであると言う実相を心に留め、あらゆるものに感謝するよう心掛けたのです。そうしたら、体中が太陽のエネルギーで満たされ、かつ頂いたものがすべて血となり肉となって、このような健康体になったのです。

これらの自然の摂理はいつでもどこでも誰にでも平等に働き、感謝の心が招来する福德・健康の向上力は太陽のエネルギーのように輝き、そしてこのパワー（ $E=mc^2$ ：Eは原子が持つ実相のエネルギー、mは質量、Cは光速：このように、エネルギーは、光（速）が重要な構成要素になっているのです）は膨大です。

このようなことから、仮に貧しい人や飢えた人に、溢れんばかりの食べ物が供えられても、これを食べる方が、感謝して食べればこれらの食べ物はその人の血となり肉となり膨大な生命力を頂けますが、もし「裕福な人が生活に支障のない範囲で食べ物を供えただけだ。彼ら自身はもっと良い物を食べているに違いない。このくらい我々に譲るのは当然だ」と言う反真理の思いで食べるならば、食べ物はたちまち燃えて灰のような栄養分のないものにならったり、お腹の中で燃えて体内の臓器や血液を焼き尽くしたり、爛れさせたりするような毒物（上記の－Eの強力な負のエネルギー）にならったりして、このような心の紋様を抱き続けた者は、摂理の働きにより淘汰されてゆくことになるのです。

これらの自然の摂理が働くので、私が心配するようなことには決し

てならないのです。

6 病気

SさんとMさんの会話です。

S 病気になるのは、世の中から受けた福德・エネルギーを再び世の中に同等の恩恵を^{もたら}すエネルギーとして、還元・回向していないからですか？

M 真理は時に耳に痛いものですが、だからと言って積極的にそう言っ
ては病気の人を傷付けます。なので、このことは、病気の人が己の
今までの生き方を振り返って自ら悟るものなのです。

私は牛乳を飲むとすぐにお腹を壊したのです。これは、栄養価の高
い牛乳を頂けるほど世の中に^{こうけん}貢献していないからだと受け取ったので
す。

それに、高タンパク質の物を食べると^{はだ}肌^{かゆ}が痒くなったものです。ア
レルギーの症状だったのかも知れません。これは、高タンパク質の物
を頂けるほど世の中に貢献していなかったからだと受け取ったのです。

更に、私は花粉症だったのです。これは「世の中から受けた福德・
エネルギーを還元・回向しなさい」と言う真理に反していたから、自
然が作り出す花粉によって、しっぺ返しされていたのだと受け取った
のです。

ですが、反真理的行為を真理的行為に 180° 転換させた生活を送っ
ている今、これらの症状はすべてチューしたのです。

S え？

M いや、失礼。チューしたのではなく^{ちゅ}治癒^ゆしたのです。

S Mさん、それ、著者から感染したチュー^{どく}毒ですよ。

M Sさんも感染しないようにチュー^い意してね。

S それはないない。天地宇チューに誓って。

7 悪い人

S さんは M さんたちの話を聞いていて、ふと次のような疑問が生じました。「自然界の摂理の働きによって、修行者や貧しい人や飢えた人の口に食べ物が運ばれるのはわかるが、世の中には人を殺したり、傷付けたり、^{だま}騙したり、盗んだりする悪い人がいるけれども、これらの人が飢えずに生活しているのはなぜなのだろう？ 神仏や自然の摂理が働いていると言うのは、M さんたちの勝手な思い込みではないのか？」と言う疑問です。思い悩んだ末に、この疑問を M さんたちに尋ねました。しかし、皆からの返事は「その質問に私は答えることができないのです」とか「S さん自身が修行して悟るしかないのです」と言うものでした。

S さんは修行を重ね 3 年が経過しました。S さんは「すでに M さんたちと同等の境地に達している。そして「虹の掛け橋」も表面の^{じづら}字面だけでなく内奥に^{ないおう}秘められた実相の世界を観る目を身につけた」と自覚するまでに至っていました。しかし当初の疑問に対する答えは一向にわかりませんでした。思い悩んでいたら、仏が姿を現してくれました。

仏 S さん。何をそんなに悩んでいるのですか？

S 仏さん。どうか教えてください。

仏 何を知りたいのですか？

S 悪い人が飢えずに生活してゆけるのはどうしてなのでしょう？

仏 悪い人とは誰のことですか？

S 人を殺したり、傷付けたり、騙したり、盗んだりする人です。

仏 私は、悪い人の定義を尋ねたのではないのです。具体的に誰が悪

い人だと S さんは思うのかと尋ねたのです。

S 誰々ですと実名で挙げるのですか？

仏 そうしてください。

S 大勢いて切が在りません。

仏 S さんは私の質問の趣旨がわかっていないようですから質問を変えましょう。

人を殺したり、傷付けたり、騙したり、盗んだりすることはどうして悪いことなのですか？

S 仏さん。あなたは本当に仏なのですか？ なぜそんな質問をされるのかわかりません。

仏 大切な質問です。答えてください。

S 人を苦しめたり、悲しませたり、困らせたり、迷惑を掛けたりする行為だからです。このようなことをする人は皆悪い人です。

仏 そうですね。

S さん。あなたは人を苦しめたり、悲しませたり、困らせたり、迷惑を掛けたりしないのですか？

S それは人間ですから、過ちを犯します。知らないうちに言葉で人を傷付けてしまうこともあります。仕事でミスをして同僚に手伝ってもらうこともあります。

仏 仏の目から観れば、困っている人、飢えている人を見殺しにする行為は殺人罪と同じです。言葉で人を傷付ける行為は刃物で人を傷付けるのと同罪です。仕事でミスをして同僚に手伝ってもらいながら同僚に感謝しない行為は、同僚の貴重な時間を盗んだことになります。仏の目から観れば、愛のない心から発した行為はすべて罪なのです。

S さんあなたは、殺人罪も傷害罪も詐欺罪も窃盗罪も犯しているのです。あなたは飢えても良いのですか？

S 仏さん。良くわかりました。悪い人は他でもなく私自身だったの

です。神仏は、私のような罪人さえも養ってくださっていたのです。

仏 私はあなたを責めるために姿を現したのではないのです。人は誰もが罪を犯したことがあるのです。多くの人々はそのような自身の姿に気付いていないのです。お互いに自分（自国）は善人（正しい）と言い、人（国）を責めているから人々の間で争いが絶えないのです。

人（国）は罪の意識を持ったとき、謙虚^{けんきょ}になれるのです。そして少しでも善人（良国・良民）になれるよう、心の修行を始めるときが訪れるのです。神仏は、いつしか人々（国々）が己の罪に気付く、より良い人（国）になろうと努力する日がくることを願って人々（国々）を養っているのです。

S 分かりました。もう 1 つ質問しても良いですか？

仏 良いですよ。

S 神仏はなぜ悪い人をこの世の中に生まれさせたのですか？

仏 S さん。悪い人とは誰のことですか？

S あ！ そうでした。わかりました。私もこの世に生まれさせて頂いたお蔭^{かげ}で、心を浄める修行とチューができるのでした。

8 苦勞話

T さんと私の会話です。

T 私は、長年修行をしています、未だに悟りの境地のようなものを味わったことはありません。「第 8 章 7 仏が現れる」のところで登場する G さんの話を聞いて感動しました。初心に返って修行をし直そうと言う気持ちになりました。修行の励み^{はげ}になりますから、このような、悟りに至る苦勞話をもっと聞かせてもらえませんか？

私 これも実際に在った有名な話です。

『禅宗の高僧の元で、琉球から来た修行僧 U さんが雲水^{うんすい}として学んで

いました。Uさんは高僧から与えられた公案（悟らせるために工夫させる問題）を解くために、毎日修行を重ねていました。しかし、公案を解くことができないまま3年が経過し、琉球へ帰らねばならない日が迫ってきました。Uさんは修行を重ねても、高僧たちから教えを受けても、悟れない自分が情けなくなりました。帰郷の挨拶のため、Uさんは高僧の前に座り、涙を流しながら、今の心境を打ち明けました。「私は大法を得ようと、遠く海を渡ってこの地にやって参りました。しかし、高僧から与えられた公案を未だに解くことができずにいます。このまま故郷に帰らなければならないのは非常に残念でなりません」と。

これを聞いた高僧は、Uさんを哀れに思い、優しく諭しました。「そんなに嘆かなくとも良いではないか。気を入れ直してもう一度7日間坐禅しなさい」と。Uさんは教えられたように実行しました。ところが7日経っても公案を解くことができませんでした。そこで、Uさんは諦める決心をして、帰郷の挨拶をするために、高僧のところへ参りました。「さっぱり得るところがありません。諦めて帰ることにいたします。長い間大変お世話になりました」と。すると、高僧は「まあまあ、もうしばらく辛抱して、7日間坐禅してみてはどうですか。きっとそれだけのことはあるでしょうから」と言いました。

Uさんは、再び教えられたように実行しました。ところが、7日経っても公案を解くことはできませんでした。Uさんはきっぱりと諦める決心をして、帰郷の挨拶をするために、高僧のところへ三度参りました。「何度やってもさっぱり得るところがありません。私には悟れないものと諦めて帰ることにいたします。長い間大変お世話になりました」と。すると、高僧は「まあまあ、そう言わずに、もうしばらく辛抱して、7日間坐禅してみてはどうですか。昔、7日を3回、21日間の刻苦で悟った人も居るそうですから」と言いました。

Uさんは、再び教えられたように実行しました。ところが、7日経っても公案を解くことができませんでした。Uさんは今度こそ、きっぱり諦める決心をして、帰郷の挨拶をするために、高僧のところへ四度参りました。「何度やってもさっぱり得るところがありません。私には悟れないものと諦めて帰ることにいたします。何度もお心を煩わせてしまい誠に申し訳ありませんでした」と。すると、高僧は「まあまあ、そう言わずに、もうしばらく辛抱して、5日間坐禅してみてもどうですか」と言いました。

Uさんは、再び教えられたように実行しました。ところが、5日経っても公案を解くことはできませんでした。Uさんは、高僧のところへ五度参りました。ついに、高僧はこれまでとは打って変わって厳しい口調でUさんを叱り言いました。「このままではお前は駄目だ。気を入れてあと3日やれ。それでも駄目だったら死んでしまえ」と。

Uさんは、ここに置いて初めて身命を擲って、時間を忘れ修行に入りました。この甲斐あって、とうとう与えられた公案を解くことができました。高僧も喜んで印可を授けたと言います』。

私 苦勞せずに、書物を読んだだけで悟った・願いが叶った・健康になった・幸せになったと言う話は聞いたことがありません。悟れるかどうかは、その人が一生修行を続けてゆく決心をしたとき、しかも、その決心が神仏の目から観て間違いないものであったときに悟れるのではないかと思います。

つまり、一生修行を続けてきて、その人生が閉じるときから過去に遡って、今このときに（悟ったとき、生きているうちに）神仏の慈悲によって悟りが我々修行者の心の中に現れるのではないかと、私にはそう思えてならないのです。

だから、悟ったら修行は終わりではなく、始まりなのです。これも

真理です。そして、悟った修行者は、退^{たいてん}転することなく修行を続けてゆくのではないかと思います。

9 なぜ空き缶を拾っているのですか？

V さんと W さんの会話です。

V W さん。毎朝空き缶を拾って居られるようですが、どのような理由で始めたのですか？

W 私は病弱だったのです。人から「神仏のお手伝いをすれば摂理の働きにより、自然に神仏のお手伝いができるような健康体になれます。神仏のお手伝いとは、人の喜ぶこと・役に立つことをすることです」と教えられたのです。そこで、私にできることは何かと考えて、毎朝空き缶を拾うことにしたのです。ですから、健康になりたい、幸せになりたいという思いで空き缶拾いを始めたわけです。

V それで効果はありましたか？

W 気が付いたら健康になっていた感じです。つまり、健康になりたいと言う願いを忘れていたら、知らず知らずのうちに健康になっていたのです。

V 詳しく話してください。

W 話したように、私は健康になりたい、幸せになりたいという思いで空き缶拾いを始め 2 年が経過しました。継続は命であると思い、この間 1 日も休むことはありませんでした。しかし、病気は一向に良くならなかったのです。空き缶拾いはもう止めようと思いました。このような気持ちになったとき「ビルマの堅^{たてごと}琴」と言うビデオを観たのです。この中で、終戦直後、戦地のビルマで野ざらしになっている兵士の死体を僧侶となった水島上等兵がその冥^{めいふく}福を祈りながら一体一体埋めているシーンがありました。このシーンに私は深く感動しました。

ビルマは南国ですし、終戦直後の夏でしたから、死体の中には腐敗して悪臭が漂^{ただよ}っていたり、虫が湧^わいていたりしたものが多かったと思います。水島上等兵はこれを抱えながら運んだのです。私には、死体を抱えたとき、腐った肉が擦^かり落ちるのではないかと想像されたので、到底私には運べないだろうと思いました。

ビデオが終わって、これを返しにゆこうと家を出ました。すると、道路の中央に体長 70cm ほどの肥満^{ひまん}猫が車に撥^はねられて死んでいたのです。このままでは、また車に撥^はねられて可哀そうだと思い、また、ドライバーがこれを避けようとして交通事故を起こしては大変だと思います、猫の死体を道路の脇^{わき}の土のところに運ぼうとしました。気味が悪かったので初めはつまむような形で持ち上げようと思いました。しかし大きな猫だったため 2 本の指では全く持ち上がりませんでした。思い切って猫を抱えるしかないと思い抱えて運びました。このとき、水島上等兵が死体を運んでいるシーンが思い出されたのです。道路で死んだ猫は偶然ではないと直観しました。何かを悟るようと言う神仏の意志を感じたのです。死んだ猫の命を無駄にしてはならない。猫は命を捨てて法を説いている神仏の化身だと思いました（この猫が「第 45 章 6 復活 その 5」に登場する白金^{はくごんしよく}色に輝くトナカイになったと思うと浪漫^{ろまん}が広がります。著者より）。

V 何か気付いたのですか？

W 気付いたと言うよりも空き缶を拾うときの気持ちを変えたのです。このことがあってから、空き缶は戦争で亡くなった方々の骨であると考え、空き缶を拾いながら、戦争で亡くなった世界中の魂の冥福を祈るようになったのです。

このような思いで空き缶を拾うようになってから 1 年が経過しました。高野山^{こうやさん}での 2 月の寒修行（断食^{だんじき}・水行^{すいぎょう}・読経^{どっきょう}等）で私は疲労で倒れ掛かったのです。このとき、とても暖かくて優しい大きな魂に抱

えられたのです。そして仏が私の前に現れました。仏は次のように言いました。

仏 良くやった。良くやった。命が燃え尽きるまで良くここまで修行を続けた。空き缶は拾われなければ、世の中で再び利用されることなく朽ちてゆきます。拾われれば新しい缶として生まれ変わることができるのです。空きビンも拾われれば新しいビンとして生まれ変わることができます。紙くずやプラスチックも拾われれば新しい紙やプラスチックとして生まれ変わることができます。焼却処分されたとしても空气中に二酸化炭素や水として戻ってゆき、やがて植物に吸収され新しい紙として生まれ変わることができるのです。Wさん。あなたは道路や公園や河川敷に落ちている塵^{ごみ}を拾いながら、これらを生養し転生・再生させていたのです。神仏の目から観れば、この行為は水島上等兵が死体を生養していた行為と同じなのです。拾った塵の中には、腐敗していた弁当や、虫の湧いていたサンドイッチや、ワンちゃんやニャンちゃんや^{エトセトラ}etcたちのおしっこを^あ浴びた空き缶もあったはずで
す。これらを拾うことは、腐敗していた兵士の死体を運ぶことと同じです。あなたは空き缶を兵士の死体と考え、これを拾いながら死んだ兵士の冥福を祈りました。この思いは彼らに届いたのです。あなたが倒れ掛かったとき、あなたを抱えて受け止めたのは、あなたの生養を受けて成仏した兵士や戦国武将たちなのです。

W 私は仏からこのように言われ、涙が流れました。自分が健康になりたい、幸せになりたいと思って空き缶を拾っているうちは、願いは叶わなかったのです。なぜならこれは霊格・治癒力が全く向上しない反真理的行為だからです。自分の願いを忘れて、死んだ兵士の冥福を祈りながら空き缶を拾い続けたとき、気付いたら健康になっていたのです。なぜならこれが霊格・治癒力を高める真理的行為だからです。

第 10 章

仏が与えた稲穂を受け取る

1 拘^{こだわ}らないこと

X さんと Y さんの会話です。

X Y さん。私の悩みを聞いてくれませんか？

Y 良いですよ。どんな悩みですか？

X 私のことを嫌っているなと思う人を、どうしても好きになれないのです。むしろ、私もその人を非常に嫌ってしまうのです。そのような人が職場にいと毎日が苦痛なのです。

Y X さんが味わっているのは、嫌いな人と会わなければならないと言う、この世の四苦八苦の 1 つである^{おんぞう え く}怨憎会苦です。

人は、人に出会うと必ず好き嫌いと言った感情が働き、その思いが心を支配するようになります。その思いは、野球のホームベースに立ってボールを投げるようなものです。人はそれぞれの思いをボールに込めて投げます。投げる方向はレフト（左）、センター（中央）、ライト（右）方向と自由です。しかし 1 イニングが終了すると必ずホームベースの審判員のところへ戻ってくるのです。審判員とは誰か？ ボールを投げた人の良心・仏性です。これが実相・真理の世界なのです。つまり神仏の目から観ると、思いを込めてレフト、センター、ライト方向に投げたボールは、実は自分の真上に投げていたのです。ですから、そのボールは摂理の働きによって同じ思いの強さで必ず自分のところに戻ってくるのです。優しい思いでボールを投げれば優しさの^{こも}籠ったボールが同じ強さで戻ってくるのです。^{い じ わる}意地悪な思いでボールを投げれば意地悪な思いの籠ったボールが同じ強さで戻ってくるのです。

そして、法華經^{ぎょうじゃ}行者（すべての人にも当^{はま}て嵌ります）には必ず提婆^{だい ば}

達多（敵対する者）が現れるのです。法華経の第 12 章の提婆達多を乗り越えて初めて第 16 章の仏（如来）が現れるのです。どこに現れるのか？ それは、自分の心の中に現れるのです。誰が？ 提婆達多と仏です。言い換えれば、提婆達多が仏となる（思えるようになる）のです。

神仏の目から観れば、私たちの心は、表面がでこぼこな机や錆びた鉄板なのです。このような机や鉄板は、表面がつるつるな紙では磨けないのです。これらを磨くためには、ざらざらで棘のあるようなサンドペーパーで磨かなければ輝いてこないのです。自分と敵対する者とは丁度このような関係なのです。共に擦れ合うことによって、でこぼこも錆びも棘も削られ、互いに磨かれ輝き出すようになるのです。

また、人には、思ったことは思われる、言ったことは言われる、やったことはやり返されると言う因果律の摂理が働きますので、X さんがその人を嫌っているうちは、この苦しみから逃れることはできないのです。

X どうしたら、この苦しみから逃れることができるのですか？

Y 私にも嫌いなものがあったのです。それは、人ではなかったのですが、私はこれが非常に嫌いだったのです。

X それは何ですか？

Y 数字の「4」と「9」です。

X 今はどうですか？

Y 今は嫌いではありません。

X どうやって克服したのですか？

Y 私は日本のバーコードの国番号が「49」であることを知ったとき、いわれのない理由で「4」と「9」を嫌っていたことに気付かされたのです。そうすると、今まで嫌っていた「4」と「9」に申し訳ないと言う気持ちが湧き上がりました。だから「4」と「9」に詫（わ）びる気持ちで

座席やロッカーや下駄箱^{げ た ばこ}は必ず「4」または「9」または「49」のところを使うようにしたのです。募金箱に入れる金額も「4」や「9」を意識して布施しました。このように徹底的に「4」と「9」を愛する生活を1年間送りました。ところが、これでは本当の意味で克服できないことを悟るでき事が起こりました。

△△△△年7月7日午前7時7分にそのでき事が起こったのです。当時宇都宮市内に住んでいた私が、車で会社に出勤する途中でした。通勤時間帯でしかも交通量の非常に多い市内の駅前大通りと東京街道のT字路の交差点の直前で、私の車が止まってしまったのです。私はとても慌^{あわ}てました。私のせいで大渋滞を引き起こしてしまったからです。更に都合が悪かったのは、当時私は労働組合の分会長^{ぶんかいちょう}を仰せつか^{おお}っていて、この日は組合本部から役員を招いて職場の所長と労働条件の改善を求めて交渉する日だったのです。私にとっては、場所（交通量が多いため多くの人に迷惑を掛けた場所）も日（所属長との交渉のため多くの人を待たせていた日）も時間（渋滞していた通勤時間帯）も非常に悪いタイミングでこのでき事が起こったのです。レッカー車を呼び修理工場で見てもらいました。その結果エンジンを回すタイミングベルトが切れていたことがわかりました。

私はこの現象から悟ったのです。

私は「4」と「9」に愛情を注ぐあまり、その反動で皆から愛されている「7」を非常に嫌い、憎んだのです。ですから「7」の数字が続いた7月7日午前7時7分に「7」から私が抱いた憎しみと同じ大きさの憎しみが送り返されてきたのです。その結果、私には非常に都合の悪いタイミングで「7」は車のタイミングベルトを切断してエンジンの動きを止めたのです。冗談のような本当の話です。

このことがあってから、私はすべての数字を平等に愛することにしたのです。「4」と「9」を特に愛しているうちは、数字の拘りから逃

れていないことに気付いたのです。すべての数字に拘らないことが嫌いな数字に対する思いを克服する秘訣^{ひけつ}だったのです。

宇都宮市内在住時代の電話番号は、市内からであれば「8」の字を描くようにプッシュボタンを押すと繋がる構成でした。「8」は「 ∞ （無限）」を表すと観たとき、すべての数字から祝福されたと感じました。

Xさん。もし嫌いな人が現れたら、その人に拘らないことです。これが怨憎会苦の苦しみから逃れる唯一の解決方法です。しかし拘らないと言うのは非常に難しいことなのです。ですから拘らない境地に至るためには、まず、その人を徹底的に愛することです。具体的に愛することが困難な場合は、イメージの世界で愛する（訓練をする）and 「嫌いだ」と言う思いを頭の中に浮かばせない・言葉にも出さない（訓練をする）ことです。このような訓練を続けていけばやがてその人に拘らない心・好きとか嫌いと言った感情に振り回されない心・喧嘩してもそのことを忘れたかのように、^{わだかま}蟠りなく話し掛けることができる心に自然に到達できます。

2 等価

Zさんは定期的に仏の前に座り講義を受けています。以下はその光景です。

仏 今日では等価と言うことについて学んでゆきます。

Z よろしくお願ひします。

仏 AさんとBさんがいます。AさんがBさんより^{すぐ}優れているところを数えたら、100項目ありました。一方BさんがAさんより優れているところを数えたら1項目しかありませんでした。AさんとBさんはどちらが優れていますか？

Z どちらも等価です。

Z 歌が上手な人と、料理が上手な人のどちらが優れているのか比較できません。習字が上手な人と、歌と料理が上手な人のどちらが優れているのか比較できません。歌が上手な人と、料理と習字と絵が上手な人のどちらが優れているのか比較できません。料理が上手な人と、習字と絵と歌とスキーが上手な人のどちらが優れているのか比較できません。

また、A さんが B さんより優れている 100 項目については、その差がわずかであり、一方 B さんが A さんより優れている 1 項目については、B さんが世界一優れていて大きく A さんを引き離している可能性があります。このようなことから A さん B さんどちらが優れているのか判断できません。したがって A さんと B さんは等価です。

Z どちらも等価です。

Z 人の価値を判断する項目がもし存在するならば、その数は無数と観るべきです。したがって、CさんがDさんより優れている割合・部分は、

100（分子）

10000000000000000000 0000000000（分母）

で極微ですから、C さんの方が優れている 100 項目は 5 円玉を立てて上から見ただけの狭い世界・部分です。したがって両者は等価です。

仏 では、次の質問に移ります。E 先生、その生徒に F、G、H さんがいます。E 先生が国語のテストを行いました。その結果、F さんは 80 点、G さんは 50 点、H さんは F さんと同程度の学力がありながら白紙で答案用紙を提出したため 0 点でした。この 3 人のいずれの答案が優れていますか？

Z 3 人を比較するのではなく、3 人が書いた答案を比較するのですね。

仏 そうです。国語ができるかできないかで、人を比較できないことは明らかですから、3 人を比較してはなりません。答案を比較してください。

Z どの答案も等価です。

仏 それはなぜですか？

Z 白紙で提出した H さんの答案は後で比較することとして、まず、F さんと G さんの答案を比較します。E 先生が一生懸命作った国語の問題を、F さんも G さんも一生懸命解いたのです。その努力に優劣は付けられません。したがって、F さんと G さんの答案は等価です。

次に白紙で提出した H さんの答案について考えてゆきます。

生徒が今まで書いてきた答案を並べて観れば、そこには、生徒の理解度、心の紋様、学校や家庭の環境、友達や先生に対する不満の有無とその内容などの情報がたくさん含まれている筈です。テスト（答案用紙）は、先生と生徒のコミュニケーションなのです。したがって、H さんが白紙で提出するにはそれなりの理由があった筈です。白紙の答案はそれを訴えているのです。白紙の答案を書かせたのは誰か？

それは周囲の者です。先生、そして家庭に、学校環境にそれぞれ必ず問題が在ることを H さんの答案は警告しているのです。

E 先生は、生徒をテストしていると同時に先生自身が生徒からテス

トされていたのです。反作用が生み出す摂理です。正解率が低いところは E 先生の教え方に問題がなかったかどうかを、生徒が先生に問い掛けています。これを参考に次年度以降の授業の進め方を、より生徒に理解され^{やす}いように心を配れば、答案を介したコミュニケーションは後輩の生徒へその福德が^{えこう}回向されます。同時に E 先生の心も磨かれます。

F、G、H さんの答案から、E 先生が学び取ることは無数に存在し、その価値・情報に優劣は付けられません。ですから、3 人の答案は等価です。

仏 今日はここまでにします。次回は ♥♥ について学んでゆきます。それまで、修行の中で、天地万物の声を聞き、♥♥ の実相・真理・調和・秩序の世界を学び取る努力をして置いてください。

Z わかりました。今日はありがとうございました。

あー。終わった終わった。さーてと。ホットミルクティーを飲みながらコメディ映画を観よーっと。♪・・・・・・・・♪

私 Z さん。Z さん。次回のテーマ ♥♥ について予習して置かなくて良いのですか？

Z 大丈夫。心配いらず。

私 それはなぜ？

Z もし、私が答えられない質問が出ても、著者であるあなたが答えてくれるからね。

私 うー。^{みす}観透かされてるーう。・・・・・・・・。でも私、♥♥ は苦手かも。

Z えーえ！

3 ^{ほんがん}本願に出会う

MさんとNさんの会話です。

M Nさんは今どんな修行をしているのですか？

N 1軒1軒、手を合わせ、空海さんの真言（南無大師返照金剛）を唱えながら、家々の幸せを祈って歩く修行（15万軒／年）と、公衆トイレにトイレットペーパーを配る修行をしています。

M そのような修行を始めたきっかけは何ですか？

N 私は現代の医学では治せない病気にかかってしまったのです。空海さんの真言を唱えながら、家々の幸せを祈って歩く修行をしたら病気が治ったと言う人や様々な願い事が叶ったと言う人たちがいました。この人たちの勧めもあって私も実践し始めたのです。

公衆トイレにトイレットペーパーを配るきっかけは、人の役に立つことをすれば願いが叶うと先達（先輩の修行者）から教えられたのです。ある日お腹を壊して公衆トイレに駆け込んだとき、紙がなくて困ったのです（この後どうなったかは想像しないでくださいね。もし、想像力豊かで抑えることができない方は「空から天女さんが降りてきて、紙様でそっと拭き取ってくれた」と思ってください。著者より）。

このとき、公衆トイレに紙（紙様）が在って初めて機能するのだと思い、トイレットペーパー（紙様）を配ることは人の役に立つと考え、これを始めたのです（1990年代の公衆トイレには紙様あまり備えられていなかったようです。だから天女さんたちは大忙しだったと思います。著者より）。

どちらの修行も、①病気が治って健康になりたい、②結婚をしたい、③子どもを作って明るい家庭を築きたい、④お金持ちになりたい、⑤海外旅行もしたい、⑥美味しいものをたくさん食べたい、⑦幸せになりたいと言う願いを叶えるために始めたのです。

M その結果はどうでしたか？

N 願いは叶いました。

M それはおめでとうございます。今幸せですね。

N はい。幸せです。

M お子さんは何人居られるのですか？

N いません。・・・・・・・・。た・ぶ・ん ㇏

M た・ぶ・ん ㇏・・・・・・・・。えーえ！

N あははは。冗談です。いません。❤❤は苦手なので。

M ああ、びっくりした。・・・・・・・・。それでは、病気は？

N 相変わらずです。治っていません。

M 結婚は？

N 縁がなくて今も独身です。

M お金は？

N 生活に困らない程度で、とても裕福とは言えません。

M 海外旅行は？

N 未だに一度も経験していません。

M 美味しいものは？

N 人並みです。

M どこが幸せなのですか？ それで願いが叶ったと言えるのですか？

N 自信を持って言えます。

M 私には理解できません。

N 修行を通じて、心の奥底にあった本当の願い（本願）に出合ったのです。私の本願は上記の①～⑦ではなく「どこまでも澄みきった心になること」で、これは神様の本願でもあったのです。修行によりこの本願に出合い・気づき、そして成就したのです。

これ以上の願いはありません。これ以上の成就も幸せもないのです。

なお、念のために申し添えますが、本願を成就できた者には、やがて①～⑦は真理と摂理の働きにより満たされる筈です。でなければ、

真理と摂理がそうでないことになり、秩序が破綻^{はたん}し混乱が生じます。

4 仏の化身

Oさんと私の会話です。

O 「第3章 8 旅人と藁^{わら}」の最後のところで「この物語に登場するすべての人・蠅・馬が仏の化身です」と書かれています。最後に登場する屋敷の主人は仏の化身であることは何となくわかるのですが、その他の登場人物とか動物たちが仏の化身であると、どうして思えるのか詳しく説明して頂けますか？

私 私は、登場人物すべてが仏の化身であると、断定はしていないのです。ただそのように観ると、この物語は更に味わい深いものになると思うのです。私は次のように解釈したのです。

仏は、蠅^{たか}が集るほど汚れた藁^{わら}となって旅人の前に姿を現したのです。道に落ちている最初のを拾いなさいと言う仏の言葉を信じ、汚れた藁^{わら}を拾えるかどうか、旅人の信心がどこまで深いのか、救われたいと言う願いはどれほど真剣なのか、仏は旅人に問うたのです。

次に仏は、旅人が持っている蠅^{たか}の付いた藁^{わら}を欲しがる子どもとなって現れたのです。旅人がそのとき持っていたすべてとも言える命の綱である蠅^{たか}の付いた藁^{わら}を子どもに譲れるかどうかを仏は問うたのです。

子どもの親は、旅人が食べ物に困っているのが、その姿から観てとることができたのでしょう。気の毒に思い蜜柑を差しあげた子どもの親は優しい人です。子どもが蠅^{たか}の付いた藁^{わら}を欲しがるくらいですから、恐らく子どもに玩具^{おもちゃ}を満足に買ってあげることができない、貧しい親子ではないかと推察します。だとしたら、蜜柑はこのとき親子が持っていたすべてではないかと思えます。さらに親子にとっても暑い日差

しの中を歩くとき蜜柑は大切なものです。この蜜柑を旅人に譲ったのです。だから子どもの親は仏であると思えるのです。

次に仏は、道に倒れた婦人となって旅人の前に姿を現したのです。旅人がそのとき持っていたすべてとも言える命の綱である蜜柑を婦人に譲れるかどうかを、仏は旅人に問うたのです。そして婦人は、旅人がお金に困っているのが、その姿から観てとることができたのでしょう。気の毒に思い旅人に反物を差し上げた婦人は優しい人です。この反物は、婦人が生計を維持するために夜もろくに眠らず織ったものではないかと思います。喉の渇きだけでなく疲労も重なって倒れたのだと思います。だから婦人も夜寝ずに働かなければならないほど貧しかったと推察します。だとしたら、反物はこのとき婦人が持っていたすべて（＝至急お金に換えなければならない、織りあがったばかりの反物）ではないかと思います。この反物を旅人に譲ったのです。だから婦人は仏であると思えるのです。

次に仏は、怪我を負って道に倒れている馬となって旅人の前に姿を現したのです。旅人がそのとき持っていたすべてとも言える命の綱である反物を馬に譲れるかどうかを、仏は旅人に問うたのです。

私は、このように受け取ったのです。そして旅人とは私たちですから、私たちは、日々の生活の中で、苦しいときほど、この旅人のように大切なものを人に譲れるかどうか仏から問われている永遠の課題なのです。

○ なるほど。この物語は奥が深かったのですね。日々出合うすべての人や動物たちが神仏の化身であると我々に説いていたことが理解できました。もう1つ質問して良いですか？

私 良いですよ。

○ 先ほど「旅人に譲った蜜柑はそのとき親子が、反物はそのとき婦

人が持っていたすべてであると思います」と言われましたが、親子は5つの蜜柑のうち3つを、婦人は2つの反物のうち1つを旅人に譲ったのではないですか？

私 そのとき親子や婦人が持っていたすべてを旅人に譲ったと観るべきです。なぜなら、旅人から馬を譲り受けた主人は、自分の持っているすべてである屋敷を旅人に譲ったのです。この主人の姿は、旅人と関わるすべての人々の姿に通じているのです。

私たちは、日々多くの人から好意を頂いて生きています。そして、人から受ける好意を、5つの蜜柑のうち3つしかもらっていないとか、2つの反物のうち1つしかもらっていないと受け取りがちです。しかしこのように反真理的に受け取ってしまうとは、人の好意に対する感謝が薄らいでしまいます。人から受ける好意を、そのときその人が持っているすべてであるとか、限界と言えるほどの究極的好意であると受け取ると、心から人の好意に感謝できて、この感謝の念が世に満ちてゆくほど平和な世界が創造されてゆくのです。真理的行為と摂理の働きが生み出す世界です。

このような思いでこの物語を読むと、見返りを求めず、今自分の持っているものを必要とする人に譲ってゆくと、周囲の人から大切なものが回されてくると言う、因果律の摂理の働きが説かれていることに気付くと思います。

O なるほど。この物語や仏の書かれたものを読むときには、仏の心（優しい心）・仏の目（仏の知恵）で読むことが大切なのですね。

私 そうです。仏典も聖書もコーランも神仏の心・目をもって、読んで始めて実相の世界に触れることができると思います。同様に、日々出合う（特に不都合な）現象も、神仏の心・目をもって受け取ると、自然界の法則・実相・真理・英知・問題の解決方法等が説かれていることに気付くと思います。

5 色即是空

般若心経に書かれている色即是空と空即是色について「第 2 章」等でご説明しましたが、また別な観点から捉えたいと思います。

まず、色即是空について考えてゆきます。前述したように、これは「すべてのもの・現象は本来、実体・実相は^{くう}空である。つまり^{から}空っぽであるとか、優劣等の比較ができないとか、五感で捉えることができない」という意味です。

始めて「般若心経」という言葉を聞いたとき「般若心鏡」とイメージしたのを記憶しています。しかしこれがきっかけで、色即是空を理解できたのです。般若心経は「鏡」がキーワードだったのです。

つまり、

桜が咲き乱れる公園の中に鏡を置けば、鏡に桜が写り、まるで鏡の中に桜が存在するように見え、やがて鏡の存在を忘れるようになります。しかし、鏡の中に桜は存在しません。鏡はあくまで、本来の姿・実相は透明なガラス板の状態で存在しているのです。

^{ごみ}塵が散乱する公園の中に鏡を置けば、鏡に塵が写り、まるで鏡の中に塵が存在するように見え、やがて鏡の存在を忘れるようになります。しかし、鏡の中に塵は存在しません。鏡はあくまで、本来の姿・実相は透明なガラス板の状態で存在しているのです。

ここで言う鏡とは何か？ それは自分自身です。心です。

ここで言う桜とは何か？ それはとても大きな喜び・好ましい現象です。

ここで言う塵とは何か？ それはとても大きな悲しみ・怒り・不幸な現象です。

つまり、

桜が咲き乱れる公園の中に立つと、目や鼻を通して桜の映像や香りが心（脳）に写り、まるで心の中に桜が存在するように感じ、やがてこの光景が心全体を支配して心の存在を忘れるようになります。しかし、心の中に桜は存在しません。心はあくまで、本来の姿・実相はガラス板のような無色透明なものだからです。

とても好ましい現象・環境の中に立つと、五感（目、耳、鼻、舌、肌）を通して心の中でとても大きな喜び・幸福を感じます。やがてその幸福感が心全体を支配するようになり（有頂天になり）心の本来の姿・実相がガラス板のような無色透明なものだということを忘れてしまいます。この幸福感は（桜が）心の中に写っているだけで、実相の姿は（神仏の目から観れば）存在しない「空^{くう}」なのです。このように色即是空は、有頂天になって踊り出すことを戒めているのです。

塵が散乱する公園の中に立つと、目や鼻を通して塵の映像や悪臭が心に写り、まるで心の中に塵が存在するように感じ、やがてこの光景が心全体を支配して心の存在を忘れるようになります。しかし、心の中に塵は存在しません。心はあくまで、本来の姿・実相はガラス板のような無色透明なものだからです。

とても不幸な現象・環境の中に立つと、五感を通して心の中でとても大きな悲しみ・怒りを感じます。やがてその悲しみ・怒りが心全体を支配するようになり（奈落^{ならく}の底^{そこ}に落ちるような思いとなり）心の本来の姿・実相がガラス板のような無色透明なものだということを忘れてしまいます。この悲しみ・怒りは（塵が）心の中に写っているだけで、実相の姿は存在しない「空」なのです。このように色即是空は、とても落ち込んでいる人に対して、そのような思いは空であり実体は存在しないものであるから、この悲しみ・怒りに捕らわれてはならな

いと言って励ましているのです。

般若心経は神仏の知恵や心の在り方、物事の捉え方^{ものごと}や受け取り方を教えている教典です。色即是空は一方で戒め、一方で励まししながら、とても大きな喜びも悲しみも空であると説いているのです。だから色即是空は中道のリズムに繋がっていると言えます。

6 空即是色

次に、空即是色について考えてゆきます。前述したように、これは「空の状態からすべてのものが生まれるとか、空の状態の中にすべての要素が含まれている」という意味です。次の例を題材に空即是色を深めてゆきます。

『富士山に 100 回以上登った経験のある P さんがいます。P さんは富士山についてとても詳しい方です。一方、どのような山で、どこにあってと言うことが全くわからない外国人の Q さんがいます。銭湯^{せんとう}を経営している R さんが、浴室の壁に富士山の素晴らしい頂上の風景画を掲げたいと思い、その絵を 2 人に描いてもらいました。

P さんは、日の光を浴び^あて赤く染まる富士山の頂上や雲海の広がる風景を何点か描いてくれました。日本人であれば、誰が見ても富士山の頂上を描いたものだと思えるほど、どれも富士山の特徴を良く捉えていました。

一方 Q さんが描いた絵は、綺麗な小川が流れる岸边に桜が咲き乱れ、鳥たちが飛び交う風景でした。日本人であれば、誰が見てもこの絵は富士山の頂上を描いたものではないと思えるほど、現実の富士山の頂上の風景とは懸け離れた^かものでした。ところが、2 人の絵を観ていた子どもが「Q さんの絵の方が綺麗、この絵を観ながらお風呂に入りた

い」と言いました。R さんも Q さんの絵を觀ながらお風呂に入りたいと言う気持ちになり、Q さんの絵を採用することにしました。』

ここでは、桜が咲き乱れる富士山の頂上を認めるかどうかの是非は問わないことにします。あくまでも、般若心経が説こうとしている心の在り方と言う視点で觀てゆきます。

P さんは富士山を知り尽くしていることが仇^{あだ}となって、決して咲くことのない桜を富士山の頂上で見ることはできないのです。見ている世界がすべてで、これに捕らわれている限り、P さんは 1000 回、1 万回富士山に登っても頂上で桜を見ることはできないのです。したがってこのような風景を描くことも決してできない筈です。

富士山を知らず登ったことがない人（富士山に関する知識が空っぽな人）だけが、小川が流れる頂上も桜の咲く頂上も鳥たちが飛び交う頂上も自由自在に觀ることができることを、空即是色は教えているのです。

つまり、見えない人、見たことがない人は、見える人が決して見ることができない風景までも思い描くことができるのです。

聞こえない人、聞いたことがない人は、聞こえる人が決して聞かぬことができない音を思い描くことができるのです。

とても高級と言われている料理を味わったことがない人は、これを食べたことがある人が決して味わうことのない味を思い描くことができるのです。これは「空・無が生み出す無限性」と言う真理と摂理の働きです。

このように、空即是色は、知識や経験のある人は、それらを全く持たない人の思い描いた世界に及ばないと言うことを通して、知識や経験の豊富な人に対する戒めと、それらを全く持たない人に対する励ましが含まれているのです。だから、空即是色も中道のリズムに繋がっ

ていると言えます。

7 仏との対話

Sさんと私の会話です。

S 「第3章 3 句読点と5円玉」のところで、仏から授けられたヒントが5円玉だったのはどうしてなのですか？

私 5円玉以外のヒントでは、この物語が仏の教えとして完成（成就）しないのです。

S 1、10、50、100、500円玉でも立てれば長方形に見えますし、硬貨の中央に穴が^あ空いていることが重要なポイントであるとするれば、50円玉がヒントでも良いのではないですか？

私 5円玉以外ではヒントとして不完全なのです。

S 私には他の硬貨では、ヒントとしてどこが不完全なのか、理由が全くわかりません。理由を教えてくださいませんか？

私 答えを教えたり聞いたりすることは簡単なことです。しかし、それでは、神仏の教えがSさんの血や肉にならないのです。Sさん自ら悟って欲しいのです。Sさんも仏と対話してみませんか？ 心を浄めてゆけば仏と対話できます。この疑問に対する答えが見つかります。

悟ることができます。このことだけ悟れるのではなく、^{しん ら ばんしょう}森羅万象について悟り、仏と対話することができるようになるのです。光り輝く実相・真理の世界が観えるようになるのです。そのときの^{そうかいかん}爽快感は何物にもたとえがたいものです。

S わかりました。悟れるよう心の修行をしてきます。

読者の皆様もSさんと一緒になって考えてみてください。

実は私は、Sさんと同じような質問を数多く頂きました。その^{たび}度に

「自ら答えを見付けてください」とお願いしてきました。今、これを読まれている方の中の何人かは S さんと同じ疑問を持ったのではないかと思います。ですから、ここで登場する S さんは読者の皆様方であると読み替えてください。そして読者の皆様お 1 人おひとりが、仏と対話しながら答えを見付けてくださることを切望いたします。この答えがわかったとき、皆様はきっと仏の知恵・^{れいりよく}霊力の偉大さを体感することができると思います。

答えがわかったと思われる方は、以下を読み進めてください。

1 年が経過し S さんが私のところへきました。

S やっとわかりました。

私 ^{さっそく}早速聞かせてください。

S この物語で、仏が説きたかったことの 1 つは「あなたが悟ったことは神仏の目から観れば 5 円玉を立てて上から見た狭い世界なのです」と言うことです。つまり悟ったと言う慢心を抑えなさいと言うことです。

この観点で考えたとき、仏からのヒントは 5 円玉でなければならぬことがわかりました。もし日本の硬貨を知らない外国人の T さんに 5 円玉や 50 円玉を立てて、長方形に見える部分だけを見せて、これらの全体像を描いてもらったとします。T さんは、見える長方形の部分の色の濃淡（光と影）の部分、あるいは丸みを読み取って円形をしていることまでは描けたとしても、中央の穴までは描けない筈です。なぜならこの部分は 5 円玉や 50 円玉を正面から捉えない限り決して^{うかが}窺い知ることができない部分・世界だからです。ですから「あなたの悟りはまだまだ正面から全体を捉えていませんよ」と説く場合、全部金属が詰まっている硬貨よりも中央に穴が空いている硬貨をヒントに使う方がより効果的なのです。

次に、50 円玉ではヒントとして不十分であることについて述べてゆきます。

50 円玉の図柄は自信に満ち溢れるような花開く菊です。一方 5 円玉の図柄は頭^{こうべ}を垂れる実った稲穂^{あふ}です。仏は「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と教えたかったのです。だから 5 円玉がヒントで初めてこの物語は完成・成就するのです。

仏の知恵は実に偉大であること、この世は神仏が司^{つかさど}って（統率^{とうそつ}して）いることを実感できました。そして実に爽快な気分です。

私 「悟った。そして正面から 5 円玉の姿を捉えた」と有頂天になっている修行者の目に飛び込んでくるのは、頭を垂れる実った稲穂と言うのですから、仏の知恵の偉大さには驚かされますよね。

あとがき

10 人いれば、それぞれに違った悩みや苦しみが存在し、それを抱えながら人は何とかそれを克服しよう、^{のが}逃れようとして懸命に解決の糸口を見出^{み いだ}そうとします。

私も難病を患^{わずら}い悩み苦しみました。この苦しみから逃れたいと思い、様々な教典を読み漁^{あさ}り、そして多くの先達^{せんだつ}から教えを頂き、良い行いだと直観したことを、片っ端から実践してきました。太陽を手本に、風を手本に、大自然のリズムに合わせて生きる実践を通して、安らかな境地に続く虹の掛け橋が観えてきたのです。虹・天国・神仏・真理は常に私たちの周りに存在していることを知ったのです。

病気によって私は生まれ変わり、今、治癒力が強化した健康体・進化した生命体になりました。己にとって好ましくない病気が私を鍛^{きた}え、この世でやらなければならないこと（真理と摂理の働きを伝えることによって、地上で生じているすべての争いに終止符を打たせ、調和と秩序を齎^{もたら}すこと）を気付かせてくれました。

私が宇宙や大自然や神仏や天女さんたちと対話しながら学んできたことが、皆様に 1 つでも参考になれば、とても嬉しく思い、これを書きました。「虹の掛け橋」をここまで読み進めてくださり誠にありがとうございました。読んでくださる方がいたからこそ、ここまで書きあげることができたのです。多くの方々に支えられながら出版できたことを、ここに深く感謝申し上げます。

皆様が逆境に在っても、いつも神仏や大自然や周囲の人々からの愛に包まれている実相の姿に気付かれ、これを励みに美しく生きられることを念じつつ筆を止めます。